

北九州市日常生活圏域二一ズ調査 報 告 書

平成 26 年 3 月

北九州市保健福祉局介護保険課

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 調査結果の概要（要約） | 1 |
| 1. 調査の概要 | 1 |
| 2. 評価項目別の結果 | 1 |
| 3. 個別の設問項目別の結果 | 10 |
| 第1章 調査の概要 | 19 |
| 第2章 回答者の属性 | 21 |
| 1. 性別 | 21 |
| 2. 年齢 | 21 |
| 3. 家族構成 | 21 |
| 4. 年金の種類 | 22 |
| 5. 暮らし向き | 22 |
| 6. 住まい | 23 |
| 第3章 評価項目別の結果 | 24 |
| 1. 生活機能 | 24 |
| (1) 運動機能の状況 | 24 |
| (2) 栄養状態 | 26 |
| (3) 口腔機能の状況 | 28 |
| (4) 閉じこもり | 30 |
| (5) 物忘れ | 32 |
| (6) 生活機能全般の状況 | 34 |
| 2. うつの傾向 | 37 |
| 3. 転倒リスクの状況 | 39 |
| 4. 日常生活動作（ADL） | 41 |
| 5. 手段的日常生活動作（IADL） | 44 |
| 6. 知的能動性 | 46 |
| 7. 社会的役割 | 48 |
| 8. 認知機能障害程度（CPS） | 50 |
| 第4章 日常生活 | 53 |
| 1. 交流の場への参加状況 | 53 |
| 2. 家事の状況 | 57 |
| 3. 生活支援サービスの利用状況 | 59 |

| | |
|---------------------|-----|
| 第5章 健康・疾病 | 63 |
| 1. 疾病 | 63 |
| (1) 高血圧 | 64 |
| (2) 脳卒中 | 66 |
| (3) 心臓病 | 68 |
| (4) 糖尿病 | 70 |
| (5) 筋骨格の病気 | 72 |
| (6) がん | 74 |
| 2. 主観的健康感 | 76 |
| 第6章 介護 | 78 |
| 1. 介護・介助の状況 | 78 |
| 2. 介護・介助が必要となった主な原因 | 80 |
| 3. 介護者の状況 | 81 |
| 資料編 | |
| ・設問ごとのクロス集計表 | 83 |
| ・評価項目ごとのクロス集計表 | 207 |
| ・使用した調査票 | 221 |

調査結果の概要（要約）

1. 調査の概要

| | |
|--------|--|
| 調査の目的 | この調査は、高齢者の心身の状況や置かれている環境、介護や支援の必要性など、地域における課題やニーズを把握し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、今後の高齢者福祉施策の推進に役立てることを目的として実施した。 また、調査結果は「第6期（平成27～29年度）介護保険事業計画」策定の基礎資料とする。 |
| 調査対象者 | 平成25年11月1日時点で介護保険の要支援・要介護認定を受けていない市内在住の65歳以上の市民 |
| 調査方法 | 郵送により調査票を配布し、回答後に郵送により返送する郵送法。 |
| 調査の内容 | 厚生労働省が示す「日常生活圏域ニーズ調査」調査票の項目を使用。「家族や生活の状況」「運動・外出」「転倒」「口腔・栄養」「物忘れ」「日常生活」「社会参加」「健康」についてたずねた。 |
| 調査実施期間 | 平成26年1月20日（月）～2月14日（金） |
| 回収状況 | 配布数：25,000件、回収数：16,235件、回収率：64.9% |

注）調査対象者は無作為抽出（系統抽出）法により選定。

2. 評価項目別の結果

(1) 生活機能

ア 運動機能の状況

「階段を手すりや壁をつたわずに昇れる」など、表1に示した5つの設問により、運動機能（筋肉や関節）の低下のリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は17.3%となっている。

図1 運動機能の状況
(N=16,235)

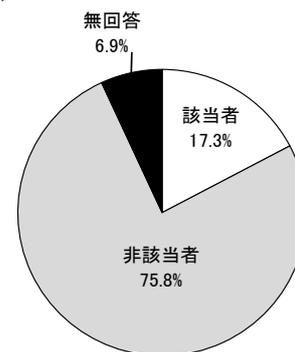


表1 評価に用いた設問と評価基準（運動機能の状況）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|--------|------------------------------|---------|-----------------|
| 問2-Q1. | 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか | いいえ(1点) | 3点以上が リスク該当者 |
| 問2-Q2. | 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか | いいえ(1点) | |
| 問2-Q3. | 15分位続けて歩いていますか | いいえ(1点) | |
| 問3-Q1. | この1年間に転んだことがありますか | はい(1点) | |
| 問3-Q2. | 転倒に対する不安は大きいですか | はい(1点) | |

イ 栄養状態

「短期間で大幅な体重減少があった」など、表2に示した2つの設問により、栄養状態の低下のリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は1.3%となっている。

図2 栄養状態

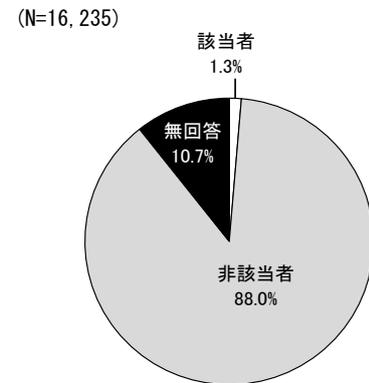


表2 評価に用いた設問と評価基準（栄養状態）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|--------|--------------------------|----------------|---------------|
| 問4-Q1. | 6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか | はい(1点) | 2点で リスク該当者 |
| 問4-Q2. | 身長・体重 | BMI 18.5未満(1点) | |

※BMI = 体重 ÷ (身長×身長)
体重はキログラム単位、身長はメートル単位で計算。

ウ 口腔機能の状況

「固いものが食べにくくなった」など、表3に示した3つの設問により、口腔機能の低下のリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は20.6%となっている。

図3 口腔機能の状況

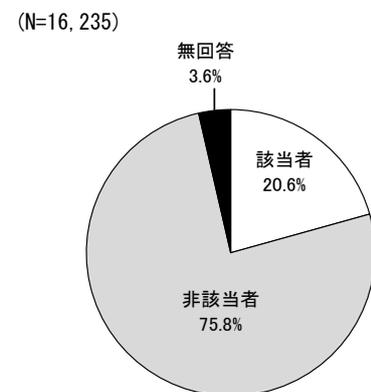


表3 評価に用いた設問と評価基準（口腔機能の状況）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|--------|-------------------------|--------|-----------------|
| 問4-Q3. | 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか | はい(1点) | 2点以上が リスク該当者 |
| 問4-Q4. | お茶や汁物等でむせることがありますか | はい(1点) | |
| 問4-Q5. | 口の渇きが気になりますか | はい(1点) | |

エ 閉じこもり

表4に示したように「週1回以上の外出の有無」を問うことで、閉じこもりになるリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は4.8%となっている。

図4 閉じこもり

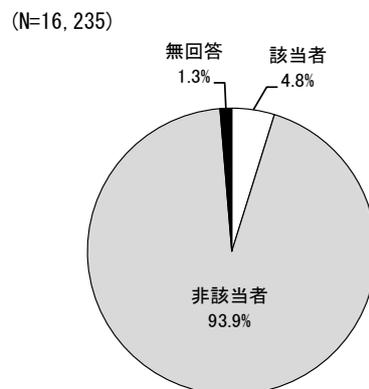


表4 評価に用いた設問と評価基準（閉じこもり）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|--------|-----------------|---------|-----------|
| 問2-Q5. | 週に1回以上は外出していますか | いいえ(1点) | 1点でリスク該当者 |

オ 物忘れ

「周りの人から物忘れがあると言われる」など、表5に示した3つの設問により、物忘れや記憶力の低下のリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は34.2%となっている。

図5 物忘れ

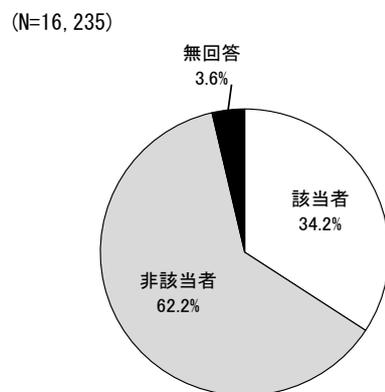


表5 評価に用いた設問と評価基準（物忘れ）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|--------|-------------------------------|---------|-------------|
| 問5-Q1. | 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがありますか | はい(1点) | 1点以上がリスク該当者 |
| 問5-Q2. | 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか | いいえ(1点) | |
| 問5-Q3. | 今日が何月何日かわからない時がありますか | はい(1点) | |

カ 生活機能全般の状況

前述のア～オを含む表6に示した20の設問により、虚弱による生活機能低下のリスクについて総合的に評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は5.0%となっている。

図6 生活機能全般の状況

(N=16,235)

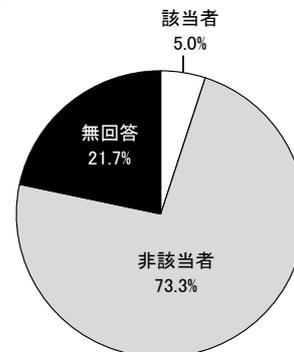


表6 評価に用いた設問と評価基準（生活機能全般の状況）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|--------|-----------------------------------|-------------------------|------------------|
| 問2-Q1. | 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか | いいえ(1点) | 10点以上が リスク該当者 |
| 問2-Q2. | 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか | いいえ(1点) | |
| 問2-Q3. | 15分位続けて歩いていますか | いいえ(1点) | |
| 問2-Q5. | 週に1回以上は外出していますか | いいえ(1点) | |
| 問2-Q6. | 昨年と比べて外出の回数が減っていますか | はい(1点) | |
| 問3-Q1. | この1年間に転んだことがありますか | はい(1点) | |
| 問3-Q2. | 転倒に対する不安は大きいですか | はい(1点) | |
| 問4-Q1. | 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか | はい(1点) | |
| 問4-Q2. | 身長・体重 | BMI 18.5未満(1点) | |
| 問4-Q3. | 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか | はい(1点) | |
| 問4-Q4. | お茶や汁物等でむせることがありますか | はい(1点) | |
| 問4-Q5. | 口の渇きが気になりますか | はい(1点) | |
| 問5-Q1. | 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか | はい(1点) | |
| 問5-Q2. | 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか | いいえ(1点) | |
| 問5-Q3. | 今日が何月何日かわからない時がありますか | はい(1点) | |
| 問6-Q1. | バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可) | できるだけしていない・ できない(1点) | |
| 問6-Q2. | 日用品の買物をしていますか | できるだけしていない・ できない(1点) | |
| 問6-Q5. | 預貯金の出し入れをしていますか | できるだけしていない・ できない(1点) | |
| 問7-Q5. | 友人の家を訪ねていますか | いいえ(1点) | |
| 問7-Q6. | 家族や友人の相談にのっていますか | いいえ(1点) | |

※BMI = 体重 ÷ (身長×身長)

体重はキログラム単位、身長はメートル単位で計算。

(2) うつの傾向

「毎日の生活の充実感」など、表7に示した5つの設問により、うつの傾向のリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は24.2%となっている。

図7 うつの傾向

(N=16,235)

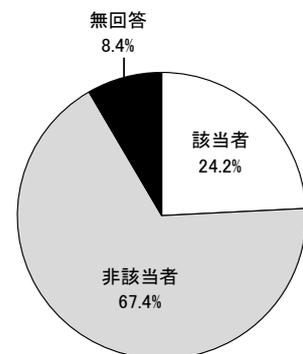


表7 評価に用いた設問と評価基準（うつの傾向）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|------------------------------------|--------|-------------|
| 問8-Q7. | (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない | はい(1点) | 2点以上がリスク該当者 |
| 問8-Q8. | (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった | はい(1点) | |
| 問8-Q9. | (ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる | はい(1点) | |
| 問8-Q10. | (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない | はい(1点) | |
| 問8-Q11. | (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする | はい(1点) | |

(3) 転倒リスクの状況

「杖を使っている」など、表8に示した5つの設問により、転倒のリスクについて評価を行った結果、リスクがあることを示す「該当者」の割合は21.7%となっている。

図8 転倒リスクの状況

(N=16,235)

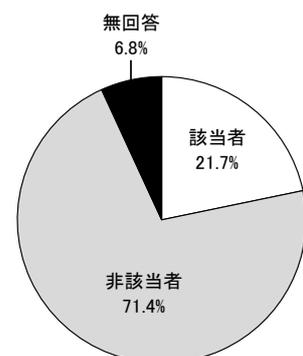


表8 評価に用いた設問と評価基準（転倒リスクの状況）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|--------|--------------------------|-----------|-------------|
| 問3-Q1. | この1年間に転んだことがありますか | はい(5点) | 6点以上がリスク該当者 |
| 問3-Q3. | 背中が丸くなってきましたか | はい(2点) | |
| 問3-Q4. | 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか | はい(2点) | |
| 問3-Q5. | 杖を使っていますか | はい(2点) | |
| 問8-Q3. | 現在、医師の処方した薬を何種類飲んで 있습니까 | 5種類以上(2点) | |

(4) 日常生活動作 (ADL)

「食事は自分で食べられる」など、表9に示した10の設問により、日常生活を送るために必要な様々な基本動作や活動の能力 (ADL) について評価を行った結果、「自立」の割合が95.7%を占め、「起居移動に介助が必要」と「ほぼすべてに介助が必要」がそれぞれ0.2%となっている。

※ ADL (日常生活動作) とは、日常生活を送る上で必要な、食事や排泄、整容、移動、入浴等の基本的な動作をさす。

図9 日常生活動作 (ADL)

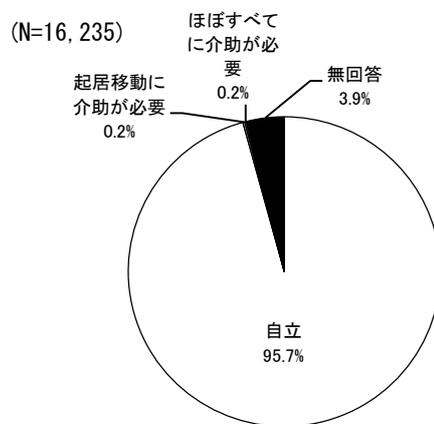


表9 評価に用いた設問と評価基準 (ADL)

| 設問 | | 配点 | | 評価基準 |
|----------|----------------------|---------------------------------------|-----|------|
| 問 6-Q6. | 食事は自分で食べられますか | できる | 10点 | |
| | | 一部介助(おかずを切ってもらなど)があればできる | 5点 | |
| | | できない | 0点 | |
| 問 6-Q7. | 寝床に入るとき、何らかの介助をうけますか | 受けない | 15点 | |
| | | 一部介助があればできる | 10点 | |
| | | 全面的な介助が必要 (問 6Q8 の回答が「できる」「支えが必要」の場合) | 5点 | |
| | | 全面的な介助が必要 (問 6Q8 の回答が「できない」の場合) | 0点 | |
| 問 6-Q9. | 自分で洗面や歯磨きができますか | できる | 5点 | |
| | | 一部介助があればできる、できない | 0点 | |
| 問 6-Q10. | 自分でトイレができますか | できる | 10点 | |
| | | 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる | 5点 | |
| | | できない | 0点 | |
| 問 6-Q11. | 自分で入浴ができますか | できる | 5点 | |
| | | 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる、できない | 0点 | |
| 問 6-Q12. | 50m以上歩けますか | できる | 15点 | |
| | | 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる | 10点 | |
| | | できない | 0点 | |
| 問 6-Q13. | 階段を昇り降りできますか | できる | 10点 | |
| | | 介助があればできる | 5点 | |
| | | できない | 0点 | |
| 問 6-Q14. | 自分で着替えができますか | できる | 10点 | |
| | | 介助があればできる | 5点 | |
| | | できない | 0点 | |
| 問 6-Q15. | 大便の失敗がありますか | ない | 10点 | |
| | | ときどきある | 5点 | |
| | | よくある | 0点 | |
| 問 6-Q16. | 尿もれや尿失禁がありますか | ない | 10点 | |
| | | ときどきある | 5点 | |
| | | よくある | 0点 | |

(5) 手段的日常生活動作 (I A D L)

「バスや電車で外出している」など、表 10 に示した 5 つの設問により、活動的な日常生活を送るための動作 (I A D L) について評価を行った結果、能力が「高い」人の割合が 85.5% を占め、「やや低い」が 6.4%、「低い」が 2.9% となっている。

※ I A D L (手段的日常生活動作) とは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、外出や買い物など、日常生活動作 (A D L) より複雑で高次の動作をさす。

図 10 手段的日常生活動作 (I A D L)

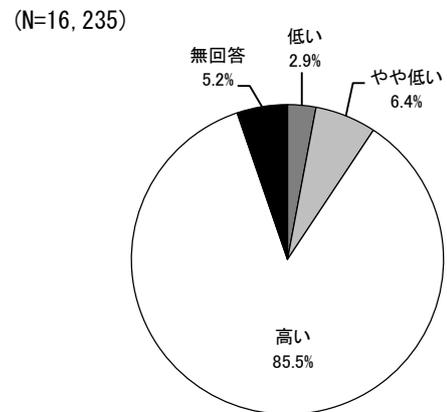


表 10 評価に用いた設問と評価基準 (I A D L)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|---------|----------------------------|---------------|--------------------------------|
| 問 6-Q1. | バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可) | できるし、している(1点) | 「低い」3点以下 「やや低い」4点 「高い」5点 |
| 問 6-Q2. | 日用品の買物をしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 6-Q3. | 自分で食事の用意をしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 6-Q4. | 請求書の支払いをしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 6-Q5. | 預貯金の出し入れをしていますか | できるし、している(1点) | |

(6) 知的能動性

「新聞を読んでいる」など、表 11 に示した 4 つの設問により、知的な活動能力について評価を行った結果、能力が「高い」人の割合が 66.0% で最も高く、「やや低い」が 18.9%、「低い」が 11.3% となっている。

図 11 知的能動性

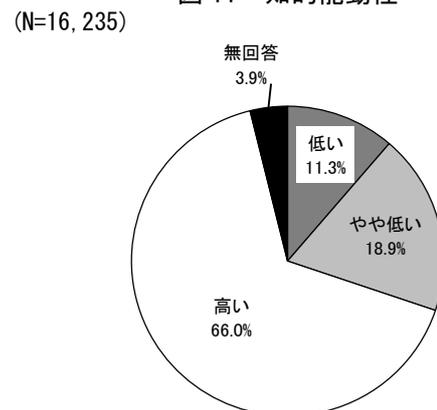


表 11 評価に用いた設問と評価基準 (知的能動性)

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|---------|-----------------------------|--------|--------------------------------|
| 問 7-Q1. | 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか | はい(1点) | 「低い」2点以下 「やや低い」3点 「高い」4点 |
| 問 7-Q2. | 新聞を読んでいますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q3. | 本や雑誌を読んでいますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q4. | 健康についての記事や番組に関心がありますか | はい(1点) | |

(7) 社会的役割

「家族や友人の相談にのっている」など、表 12 に示した 4 つの設問により、地域での社会的な役割に関する活動等について評価を行った結果、能力が「高い」人の割合が 46.6%で最も高く、「やや低い」が 25.1%、「低い」が 24.2%となっている。

図 12 社会的役割

(N=16, 235)

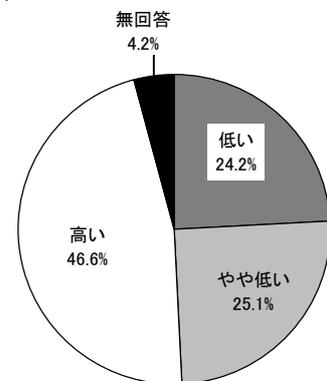


表 12 評価に用いた設問と評価基準（社会的役割）

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|---------|-----------------------|--------|--------------------------------|
| 問 7-Q5. | 友人の家を訪ねていますか | はい(1点) | 「低い」2点以下 「やや低い」3点 「高い」4点 |
| 問 7-Q6. | 家族や友人の相談にのっていますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q7. | 病人を見舞うことができますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q8. | 若い人に自分から話しかけることがありますか | はい(1点) | |

(8) 認知機能障害程度（CPS）

「5分前のことが思い出せる」など、図 14 に示した評価基準により、認知機能の障害程度について評価を行った結果、障害がないことを示す「0レベル」の人は 77.7%を占め、軽度以上の障害があるおそれのある人（2～6レベル）の割合は 4.7%となっている。

図 13 認知機能障害程度（CPS）

(N=16, 235)

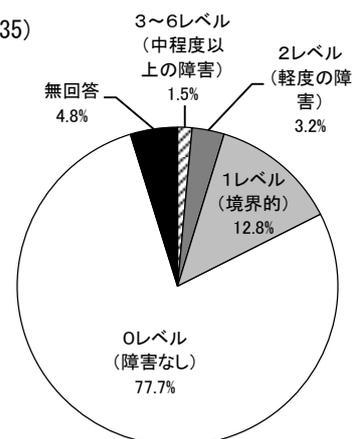
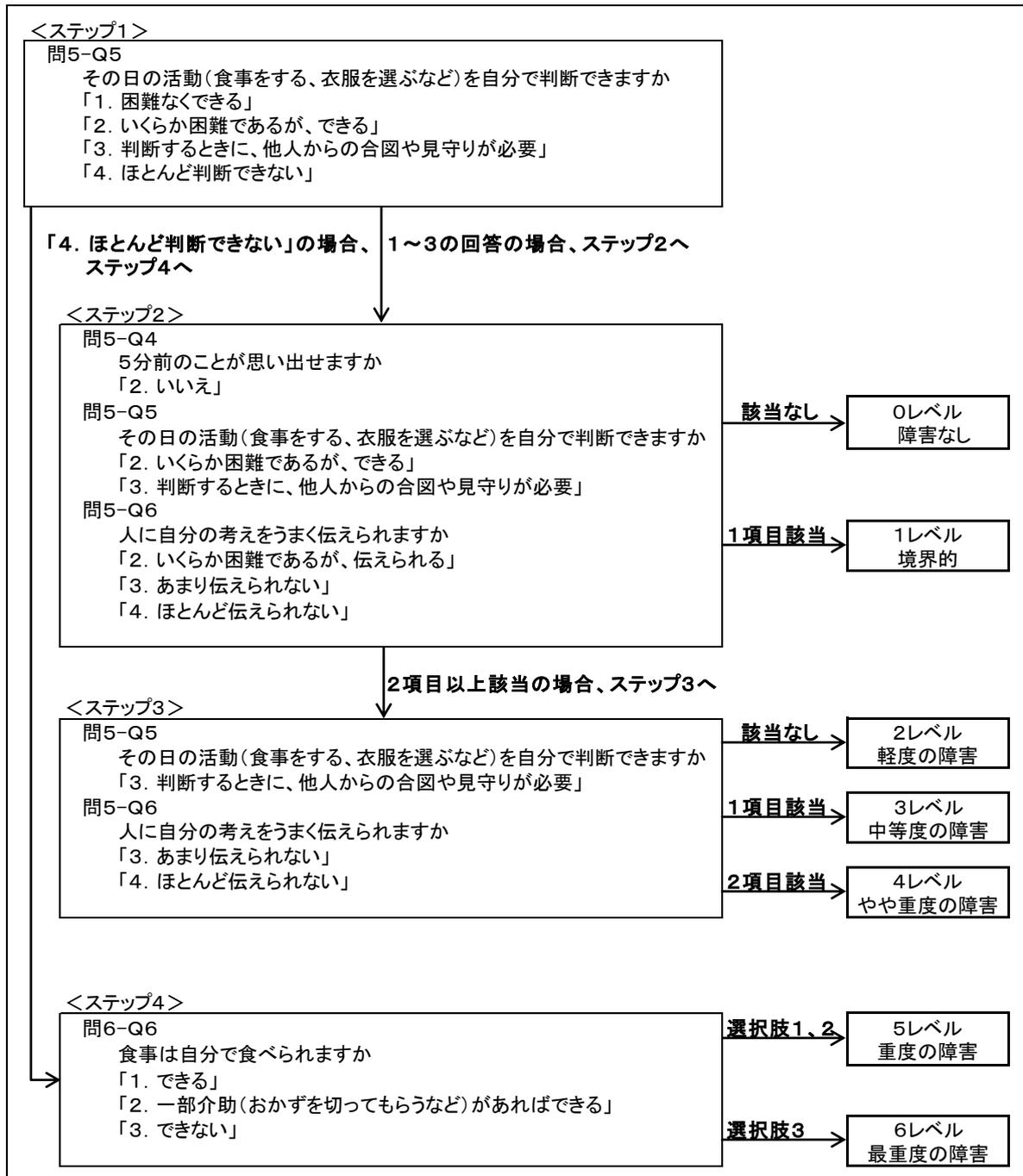


図 14 認知機能障害程度（CPS）の評価に用いた設問と評価基準



3. 個別の設問項目別の結果

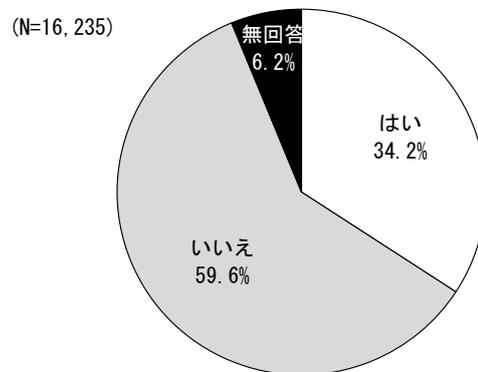
(1) 日常生活

ア 交流の場への参加状況

問 2-Q10. お住まいの地域において、気軽に集い、おしゃべりなどをするような交流の場などに参加することがありますか

交流の場への参加については、「はい」の割合が34.2%となっている。

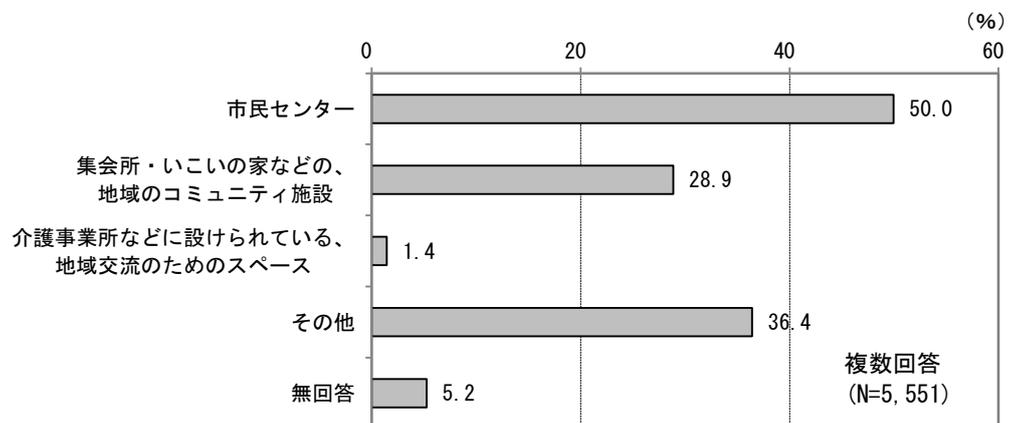
図 15 交流の場への参加



問 2-Q10-1. (参加している方のみ)
どのような場所に通っていますか

通っている場所については、「市民センター」の割合が50.0%で最も高く、次いで「集会所・いこいの家などの、地域のコミュニティ施設」が28.9%となっている。

図 16 交流の場



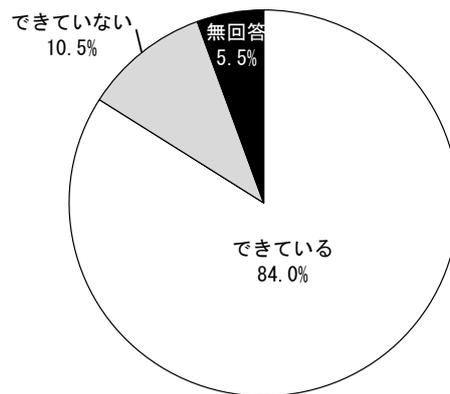
イ 家事の状況

問 6-Q17. 家事全般ができていますか

家事全般については、「できている」の割合が84.0%となっている。

図 17 家事の状況

(N=16,235)



ウ 生活支援サービスの利用状況

問 6-Q18. 民間企業やNPO・ボランティアなどが実施している、以下の生活支援サービスを利用していますか

生活支援サービスを利用している人の割合は3.4%となっている。

生活支援サービスを利用している人について、どのようなサービスを利用しているかをみると、「掃除」の割合が38.9%で最も高く、次いで「ごみ出し」が33.9%、「買い物」が16.5%などとなっている。

図 18 生活支援サービスの利用

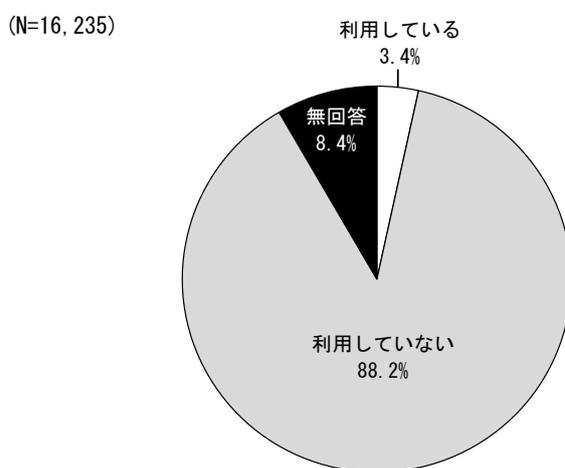
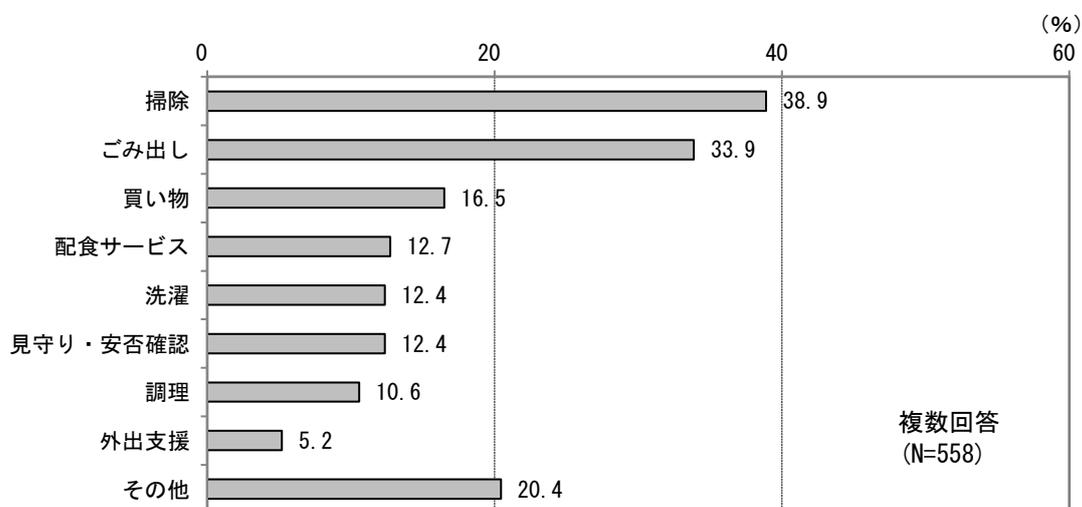


図 19 利用しているサービス



問 6-Q18-1. 利用しているサービス以外で、利用したいものがありますか

利用しているサービス以外で利用したいものがある人の割合は 7.1%となっている。利用したいものがある人について、どのようなサービスを利用したいかをみると、「掃除」の割合が 44.5%で最も高く、次いで「見守り・安否確認」17.5%、「ごみ出し」15.2%、「配食サービス」15.0%、「買い物」14.5%などとなっている。

図 20 利用したいサービスの有無

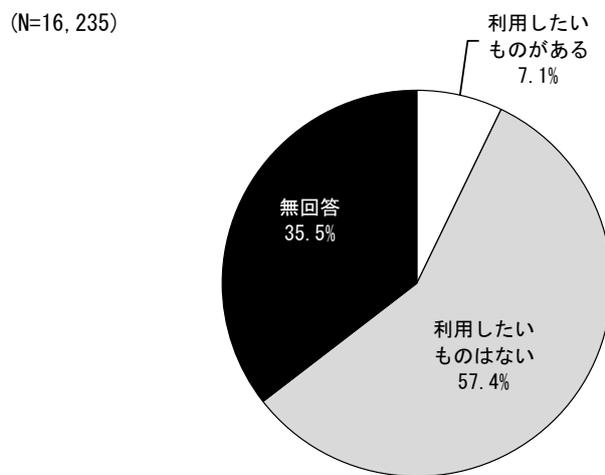
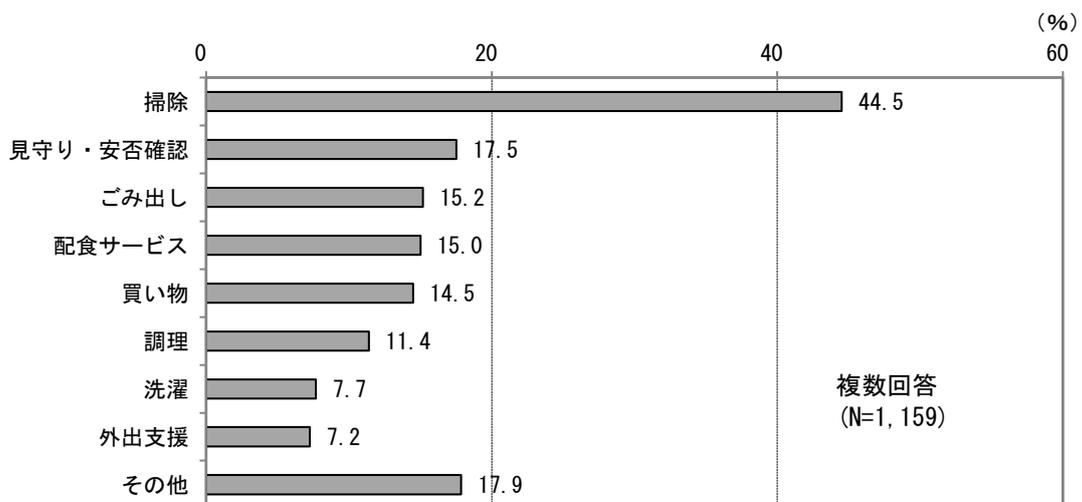


図 21 利用したいサービス



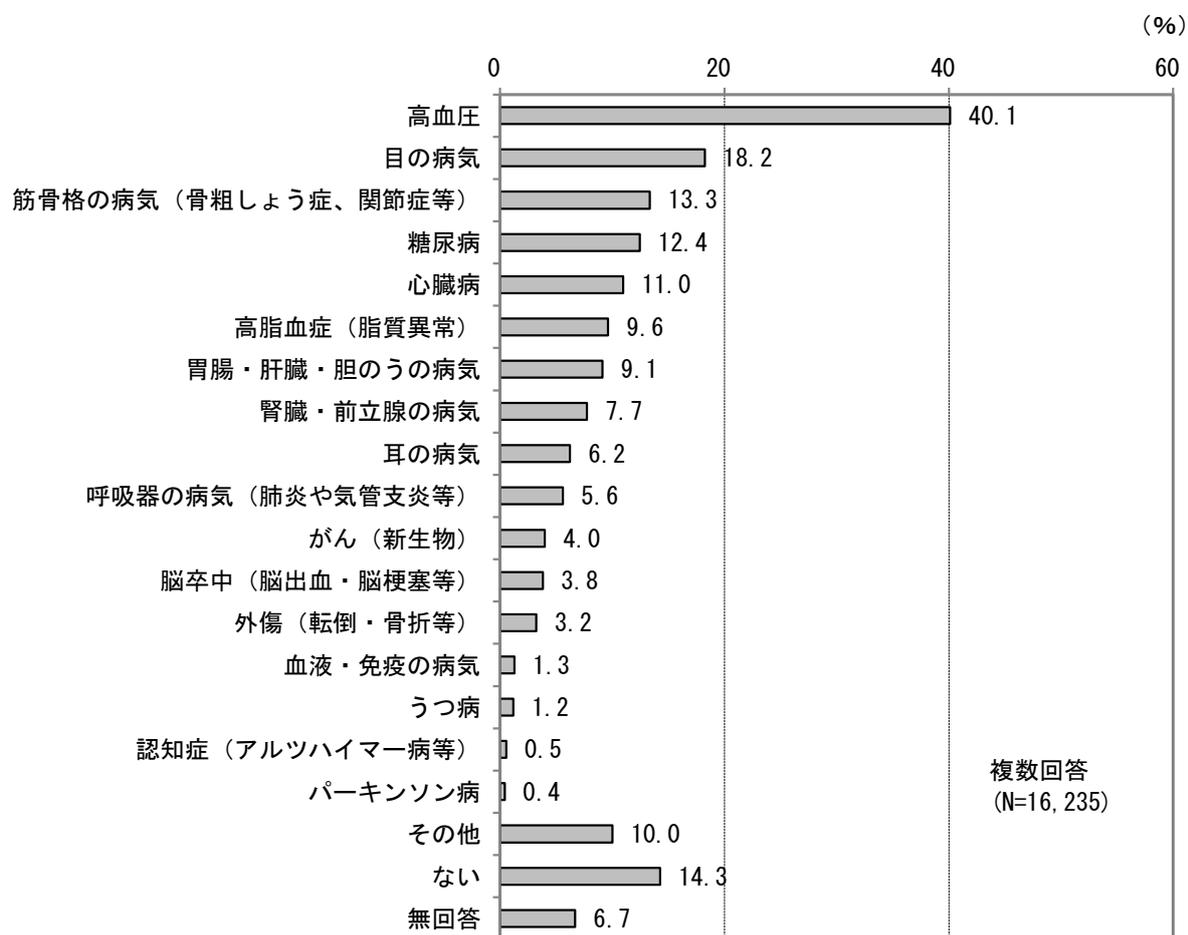
(2) 健康・疾病

ア 疾病

問 8-Q2. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」の割合が 40.1%で最も高く、次いで「目の病気」18.2%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」13.3%、「糖尿病」12.4%、「心臓病」11.0%などとなっている。

図 22 治療中または後遺症のある病気

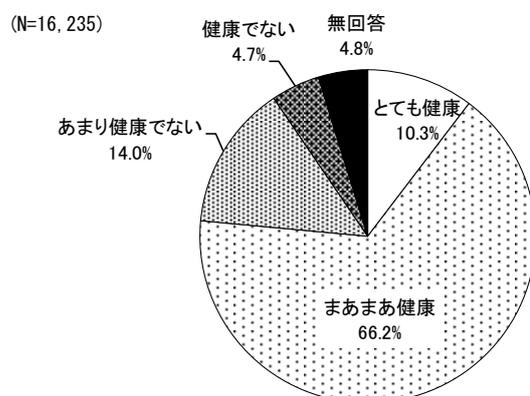


イ 主観的健康感

問 8-Q1. 普段、ご自分で健康だと思いますか

主観的健康感に関する回答結果は、「まあまあ健康」の割合が 66.2%で最も高く、次いで「あまり健康でない」14.0%、「とても健康」10.3%、「健康でない」4.7%の順となっており、「とても健康」と「まあまあ健康」の合計（健康群）は 76.5%となっている。

図 23 主観的健康感



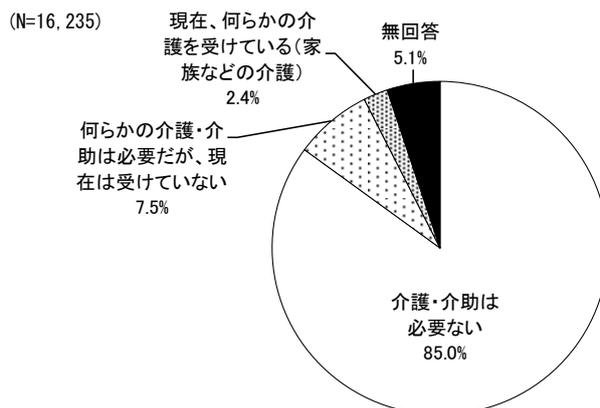
(3) 介護

ア 介護・介助の状況

問 1-Q2. あなたの、普段の生活における介護・介助の状況について、あてはまるのは次のどれですか

介護・介助の状況については、「介護・介助は必要ない」の割合が 85.0%で最も高い。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は 7.5%、「現在、何らかの介護を受けている（家族などの介護）」は 2.4%となっている。

図 24 介護・介助の状況

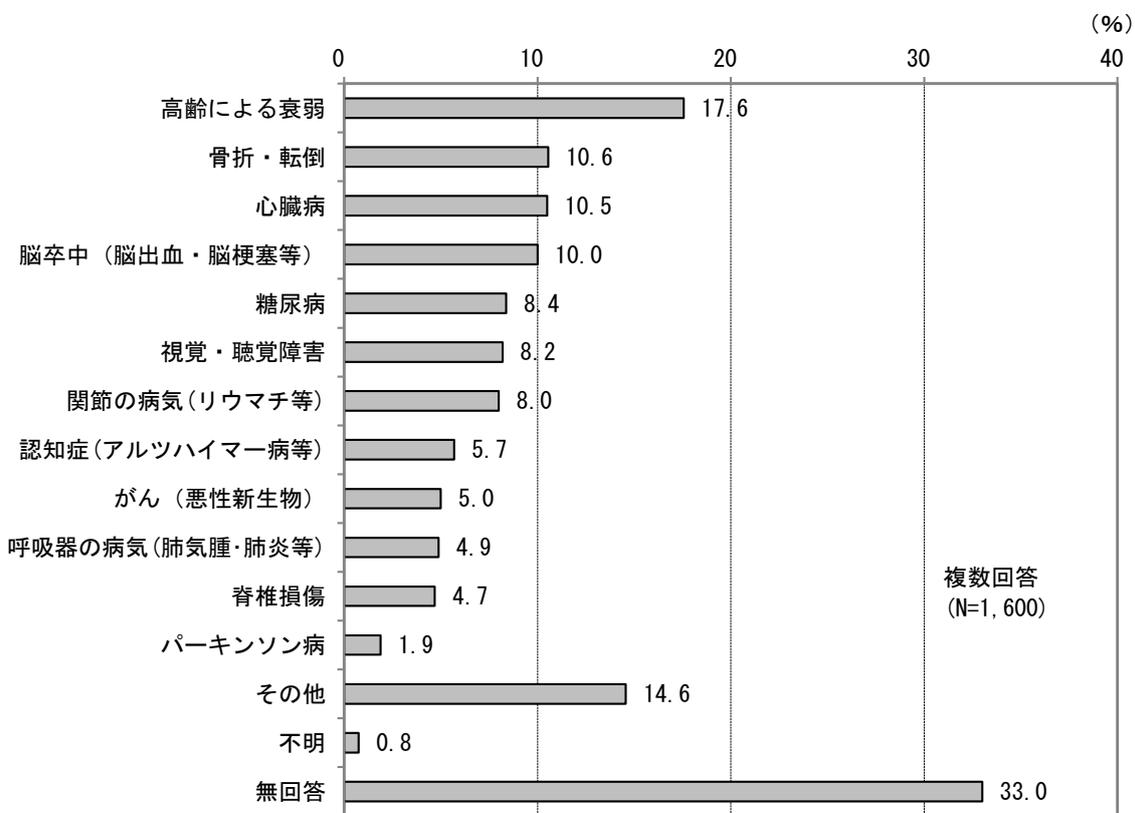


イ 介護・介助が必要となった主な原因

問 1-Q2-1. (介護・介助が必要な方のみ)
 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか

介護・介助が必要になった主な原因については、市全体でみると「高齢による衰弱」が17.6%で最も高く、次いで「骨折・転倒」10.6%、「心臓病」10.5%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」10.0%、「糖尿病」8.4%などとなっている。

図 25 介護・介助が必要となった原因

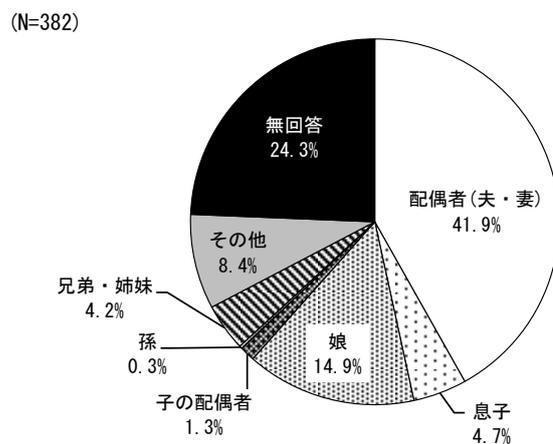


ウ 介護者の状況

問 1-Q2-2. (介護・介助を受けている方のみ)
主にどなたの介護・介助を受けていますか

介護者については、「配偶者(夫・妻)」の割合が41.9%で最も高く、次いで、「娘」14.9%、「息子」4.7%「兄弟・姉妹」4.2%などとなっている。

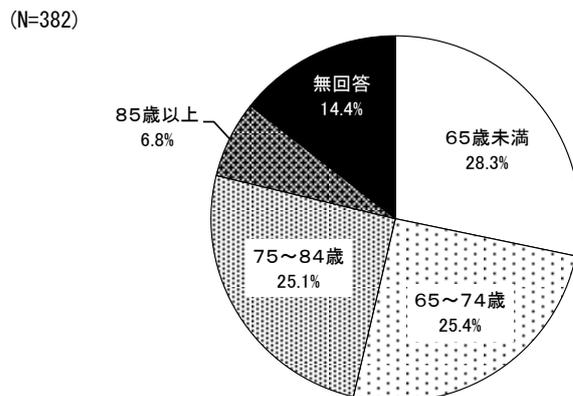
図 26 介護者(続柄)



問 1-Q2-3. (介護・介助を受けている方のみ)
主に介護・介助している方の年齢は次のどれですか

介護者の年齢については、市全体でみると「65歳未満」の割合が28.3%で最も高く、次いで、「65～74歳」25.4%、「75～84歳」25.1%、「85歳以上」6.8%の順となっている。

図 27 介護者(年齢)



(参考)

調査項目(評価項目・個別)一覧

【1. 評価項目別の結果】 ※ 複数の設問を点数化して評価する項目

| 評価項目 | 項目の内容 |
|------------------------------|--|
| (1) 生活機能 (P1~P4) | |
| ア 運動機能の状況 (P1) | 「階段をつたわずに昇れる」など5つの設問より、運動機能(筋肉や関節)の状態を確認する項目 ※「該当者」は、運動機能の低下のリスクがあることを意味する |
| イ 栄養状態 (P2) | 「短期間の体重減少がある」など2つの設問より、栄養状態を確認する項目 ※「該当者」は、栄養状態の低下のリスクがあることを意味する |
| ウ 口腔機能の状況 (P2) | 「固いものが食べにくくなった」など3つの設問より、歯や口の中の状態を確認する項目 ※「該当者」は、口腔機能の低下のリスクがあることを意味する |
| エ 閉じこもり (P3) | 「週1回以上の外出の有無」を問うことで、閉じこもりの傾向を確認する項目 ※「該当者」は、閉じこもりのリスクがあることを意味する |
| オ 物忘れ (P3) | 「周りの人から物忘れがあるとと言われる」など3つの設問より、物忘れの傾向を調べる項目 ※「該当者」は、物忘れのリスクがあることを意味する |
| カ 生活機能全般の状況 (P4) | ア~オを含めた20の設問より、生活機能全般について総合的に評価する項目 ※「該当者」は、虚弱による生活機能全般の低下のリスクがあることを意味する |
| (2) うつの傾向 (P5) | 「毎日の生活の充実感」など5つの設問より、うつの傾向を確認する項目 ※「該当者」は、うつの傾向のリスクがあることを意味する |
| (3) 転倒リスクの状況 (P5) | 「杖を使っている」など5つの設問より、転倒のリスクを確認する項目 ※「該当者」は、転倒のリスクがあることを意味する |
| (4) 日常生活動作(ADL) (P6) | 「食事は自分で食べられる」など10の設問より、日常生活を送るために必要な様々な基本動作や活動の能力を確認する項目 ※「自立」「起居移動に介助が必要」「ほぼ全てに介助が必要」の3つに分かれる |
| (5) 手段的日常生活動作(IADL) (P7) | 「バスや電車で外出している」など5つの設問より、活動的な日常生活を送るための動作について確認する項目 ※「低い」「やや低い」「高い」に分けられ、「高い」は能力が高いことを意味する |
| (6) 知的能動性 (P7) | 「新聞を読んでいる」など4つの設問より、知的な活動能力を確認する項目 ※「低い」「やや低い」「高い」に分けられ、「高い」は能力が高いことを意味する |
| (7) 社会的役割 (P8) | 「家族や友人の相談にのっている」など4つの設問より、地域での社会的な役割に関する活動等を確認する項目 ※「低い」「やや低い」「高い」に分けられ、「高い」は能力が高いことを意味する |
| (8) 認知機能障害程度(CPS) (P8~P9) | 「5分前のことが思い出せる」など4つの設問より、認知機能の障害程度を確認する項目 ※障害がない「0レベル」から「6レベル」に分けられ、レベルが高いほど障害の程度が重いことを意味する |

【2. 個別の設問項目別の結果】

| 設問項目 | 項目の内容 | |
|-----------|---------------------------|---|
| (1) 日常生活 | ア 交流の場への参加状況 (P10) | 地域における「交流の場」への参加の有無およびその場所 |
| | イ 家事の状況 (P11) | 家事全般ができているかどうか |
| | ウ 生活支援サービスの利用状況 (P12~P13) | 民間企業やNPO・ボランティアによる「生活支援サービス」の利用の有無および利用希望 |
| (2) 健康・疾病 | ア 疾病 (P14) | 治療中または後遺症のある病気の有無およびその種類 |
| | イ 主観的健康感 (P15) | 自分が健康だと思うかどうか |
| (3) 介護 | ア 介護・介助の状況 (P15) | 介護・介助が必要かどうか |
| | イ 介護・介助が必要となった原因 (P16) | (介護・介助が必要な方のみ) 必要となった主な原因は何か |
| | ウ 介護者の状況 (P17) | (介護・介助が必要な方のみ) 誰から介護・介助を受けているか |

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、高齢者の心身の状況や置かれている環境、介護や支援の必要性など、地域における課題やニーズを把握し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、今後の高齢者福祉施策の推進に役立てることを目的として実施した。

また、調査結果は「第6期（平成27～29年度）介護保険事業計画」策定の基礎資料とする。

2. 調査対象者

平成25年11月1日時点で介護保険の要支援・要介護認定を受けていない市内在住の65歳以上の市民の中から無作為抽出（系統抽出）法により選んだ25,000人。

3. 調査の内容

厚生労働省が示す「日常生活圏域ニーズ調査」調査票の項目を使用。「家族や生活の状況」「運動・外出」「転倒」「口腔・栄養」「物忘れ」「日常生活」「社会参加」「健康」についてたずねた。

4. 調査方法

郵送により調査票を配布し、回答後に郵送により返送する郵送法。

5. 調査実施期間

平成26年1月20日（月）～2月14日（金）

6. 回収状況

| 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|---------|---------|-------|
| 25,000件 | 16,235件 | 64.9% |

7. 調査の企画・実施等

調査企画：北九州市保健福祉局介護保険課

調査実施及び集計分析：株式会社 北九州経済研究所

8. 集計・分析上の注意事項

- ・ 図表においては、回答者の数を「N」で表記した。
- ・ 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の設問については、合計は原則として100%を超える。
- ・ クロス集計表の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。
- ・ 基本的に日常生活圏域ごとに集計・分析している。

※ 日常生活圏域とは、住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件や人口、交通事情、その他既存施設やサービスの整備状況を踏まえ設定されている区域であり、北九州市においては以下の24圏域が設定されている。

表 1-1 北九州市の日常生活圏域

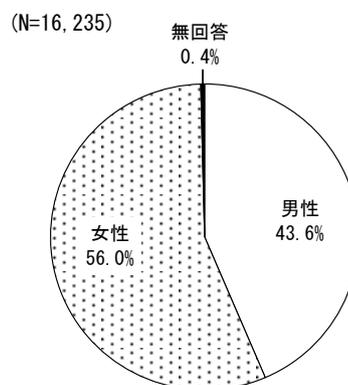
| 日常生活圏域 | 小学校区(目安) |
|--------|---------------------------------------|
| 門司1 | 伊川、大積、白野江、柄杓田、松ヶ江北、松ヶ江南 |
| 門司2 | 小森江東、田野浦、港が丘、門司中央、門司海青 |
| 門司3 | 小森江西、大里東、大里南、大里柳、西門司、萩ヶ丘、藤松 |
| 小倉北1 | 足原、霧丘(小倉南区を除く)、桜丘、寿山、富野 |
| 小倉北2 | 足立、貴船、小倉中央、三郎丸、中島、藍島、城野(小倉南区を除く) |
| 小倉北3 | 到津、井堀、北小倉、中井、西小倉、日明、高見(八幡東区を除く) |
| 小倉北4 | 泉台、今町、清水、南丘(小倉南区を除く)、南小倉 |
| 小倉南1 | 朽網、曾根、曾根東、田原、貴、東朽網 |
| 小倉南2 | 葛原、高蔵、沼、湯川、吉田 |
| 小倉南3 | 横代、若園、城野(小倉北区を除く)、北方、霧丘(小倉北区を除く) |
| 小倉南4 | 徳力、広徳、企救丘、志井、守恒、長尾、南丘(小倉北区を除く) |
| 小倉南5 | 長行、合馬、市丸、新道寺、すがお |
| 若松1 | 赤崎、小石、修多羅、深町、古前、若松中央、藤木 |
| 若松2 | 青葉、江川、鴨生田、高須、花房、二島、光貞(八幡西区を除く) |
| 八幡東1 | 祝町、枝光、高槻、高見(小倉北区を除く)、槻田、ひびきが丘 |
| 八幡東2 | 大蔵、河内、皿倉、花尾(八幡西区を除く)、八幡、黒崎中央(八幡西区を除く) |
| 八幡西1 | 赤坂、浅川、医生丘、折尾東、本城、光貞(若松区を除く) |
| 八幡西2 | 永犬丸、永犬丸西、折尾西、則松、八枝 |
| 八幡西3 | 青山、穴生、熊西、竹末、萩原、引野 |
| 八幡西4 | 黒畑、黒崎中央(八幡東区を除く)、筒井、鳴水、花尾(八幡東区を除く) |
| 八幡西5 | 大原、上津役、塔野、中尾、八尻 |
| 八幡西6 | 池田、香月、楠橋、木屋瀬、千代、星ヶ丘 |
| 戸畑1 | あやめが丘、戸畑中央、中原 |
| 戸畑2 | 一枝、大谷、鞆ヶ谷、天籟寺、牧山 |

第2章 回答者の属性

1. 性別

| | 回答者数 | 構成比 (%) |
|-----|--------|---------|
| 男性 | 7,072 | 43.6 |
| 女性 | 9,098 | 56.0 |
| 無回答 | 65 | 0.4 |
| 全体 | 16,235 | 100.0 |

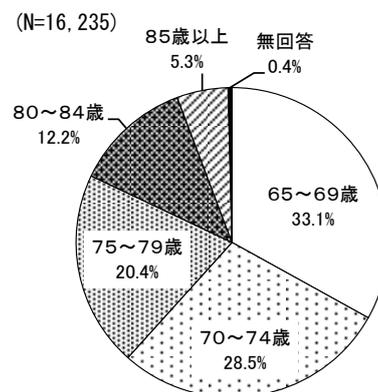
図 2-1 性別



2. 年齢

| | 回答者数 | 構成比 (%) |
|--------|--------|---------|
| 65～69歳 | 5,372 | 33.1 |
| 70～74歳 | 4,634 | 28.5 |
| 75～79歳 | 3,317 | 20.4 |
| 80～84歳 | 1,985 | 12.2 |
| 85歳以上 | 862 | 5.3 |
| 無回答 | 65 | 0.4 |
| 全体 | 16,235 | 100.0 |

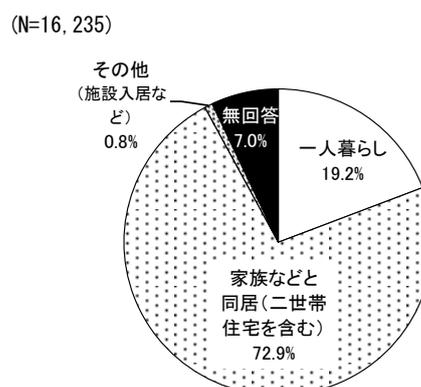
図 2-2 年齢



3. 家族構成

| | 回答者数 | 構成比 (%) |
|----------------------|--------|---------|
| 一人暮らし | 3,117 | 19.2 |
| 家族など同居 (二世帯住宅を含む) | 11,839 | 72.9 |
| その他 (施設入居など) | 136 | 0.8 |
| 無回答 | 1,143 | 7.0 |
| 全体 | 16,235 | 100.0 |

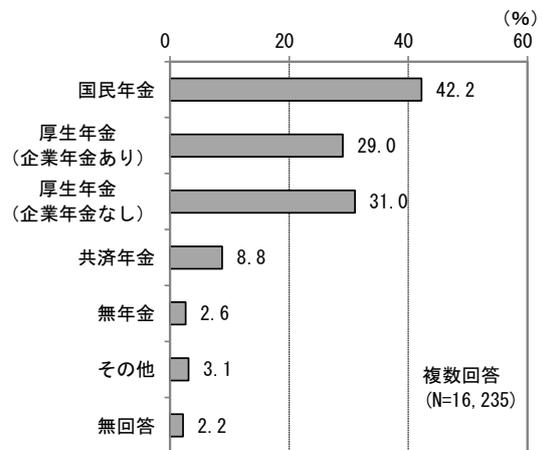
図 2-3 家族構成



4. 年金の種類

| | 回答者数 | 構成比 (%) |
|------------------|--------|---------|
| 国民年金 | 6,857 | 42.2 |
| 厚生年金 (企業年金あり) | 4,710 | 29.0 |
| 厚生年金 (企業年金なし) | 5,039 | 31.0 |
| 共済年金 | 1,424 | 8.8 |
| 無年金 | 428 | 2.6 |
| その他 | 506 | 3.1 |
| 無回答 | 353 | 2.2 |
| 全 体 | 16,235 | 100.0 |

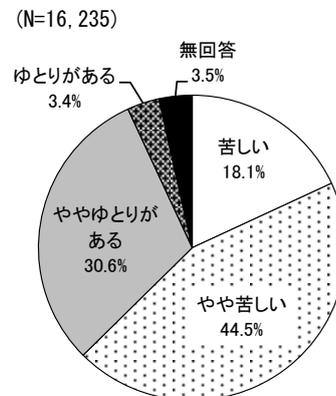
図 2-4 年金の種類



5. 暮らし向き

| | 回答者数 | 構成比 (%) |
|----------|--------|---------|
| 苦しい | 2,932 | 18.1 |
| やや苦しい | 7,225 | 44.5 |
| ややゆとりがある | 4,964 | 30.6 |
| ゆとりがある | 550 | 3.4 |
| 無回答 | 564 | 3.5 |
| 全 体 | 16,235 | 100.0 |

図 2-5 暮らし向き



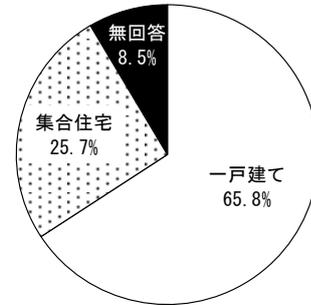
6. 住まい

(1) 住まいの種類

| | 回答者数 | 構成比 (%) |
|------|--------|---------|
| 一戸建て | 10,679 | 65.8 |
| 集合住宅 | 4,175 | 25.7 |
| 無回答 | 1,381 | 8.5 |
| 全 体 | 16,235 | 100.0 |

図 2-6 住まい（住まいの種類）

(N=16,235)

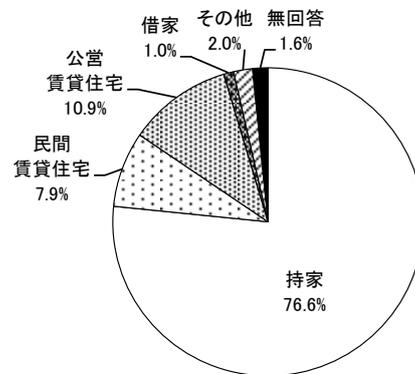


(2) 所有形態

| | 回答者数 | 構成比 (%) |
|--------|--------|---------|
| 持家 | 12,438 | 76.6 |
| 民間賃貸住宅 | 1,284 | 7.9 |
| 公営賃貸住宅 | 1,766 | 10.9 |
| 借家 | 168 | 1.0 |
| その他 | 322 | 2.0 |
| 無回答 | 257 | 1.6 |
| 全 体 | 16,235 | 100.0 |

図 2-7 住まい（所有形態）

(N=16,235)



第3章 評価項目別の結果

1. 生活機能

(1) 運動機能の状況

厚生労働省地域支援事業実施要綱の「基本チェックリスト」に基づき、表3-1に示した5つの設問に対する回答結果により、運動機能の低下のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は17.3%である。男女別にみると、男性が12.6%、女性が20.9%であり、女性の方が8.3ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85歳以上では約4割が該当している。

図3-1-① 運動機能の状況（全域）

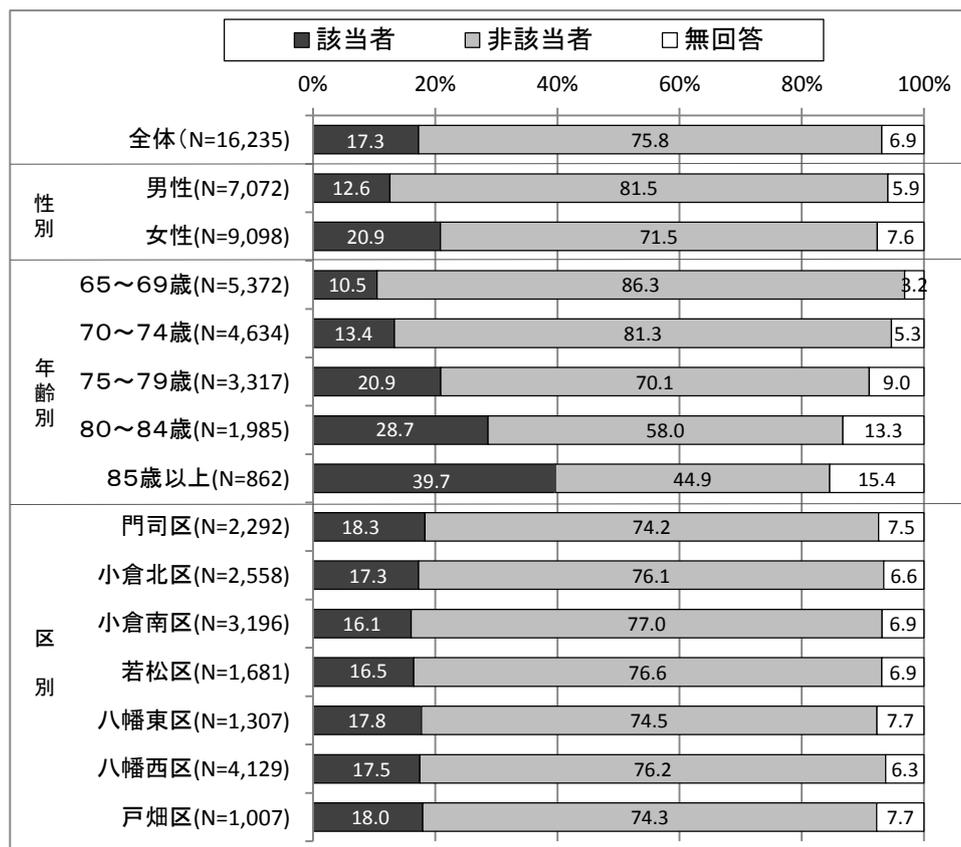


図 3-1-② 運動機能の状況（日常生活圏域別）

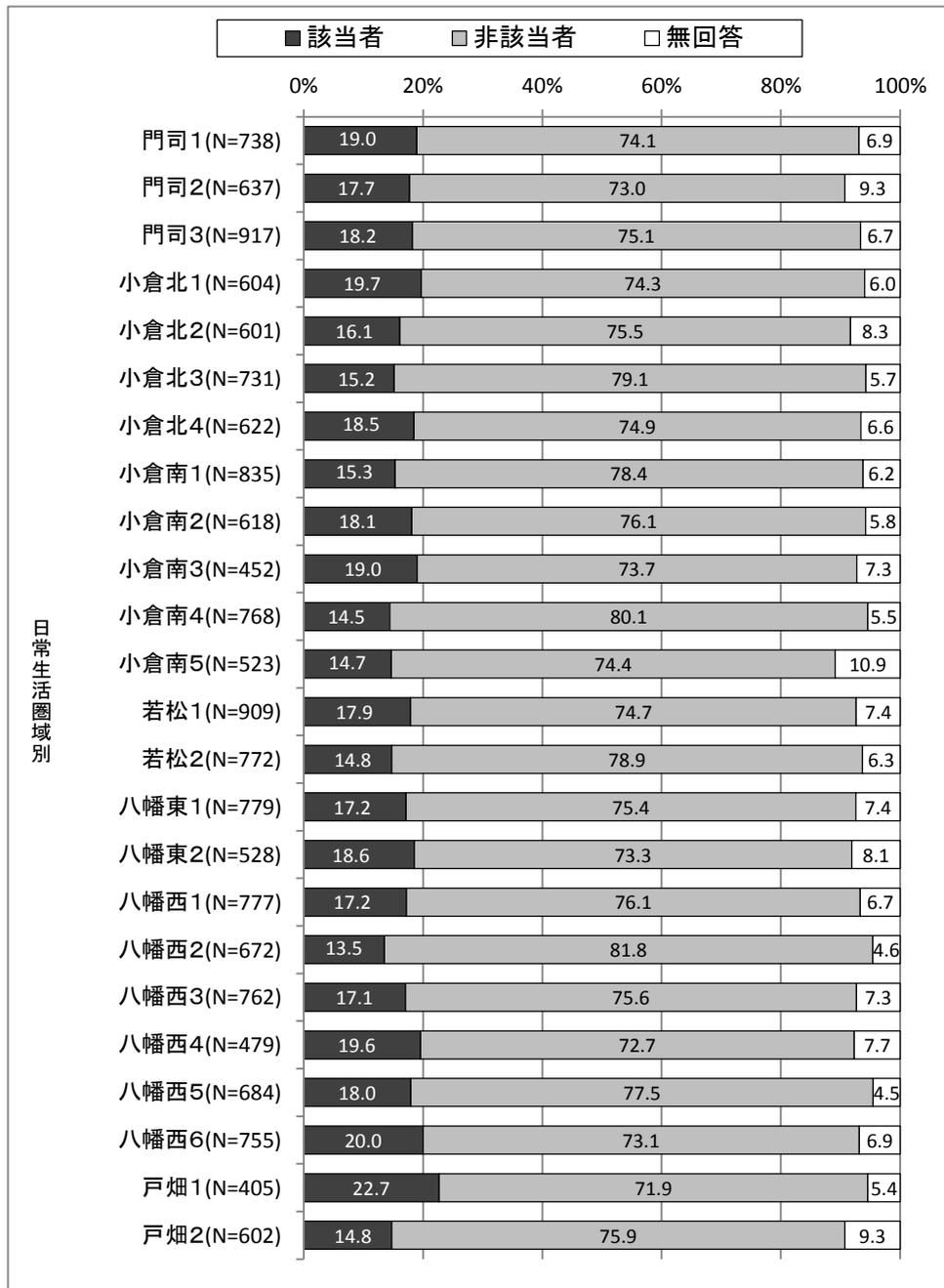


表 3-1 評価に用いた設問と評価基準（運動機能の状況）

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|---------|------------------------------|---------|-----------------|
| 問 2-Q1. | 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか | いいえ(1点) | 3点以上が リスク該当者 |
| 問 2-Q2. | 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか | いいえ(1点) | |
| 問 2-Q3. | 15分位続けて歩いていますか | いいえ(1点) | |
| 問 3-Q1. | この1年間に転んだことがありますか | はい(1点) | |
| 問 3-Q2. | 転倒に対する不安は大きいですか | はい(1点) | |

(2) 栄養状態

厚生労働省地域支援事業実施要綱の「基本チェックリスト」に基づき、表 3-2 に示した 2 つの設問に対する回答結果により、栄養状態の低下のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 1.3% である。男女別にみると、男性が 1.0%、女性が 1.6% であり、女性の方が 0.6 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっている。

図 3-2-① 栄養状態（全域）

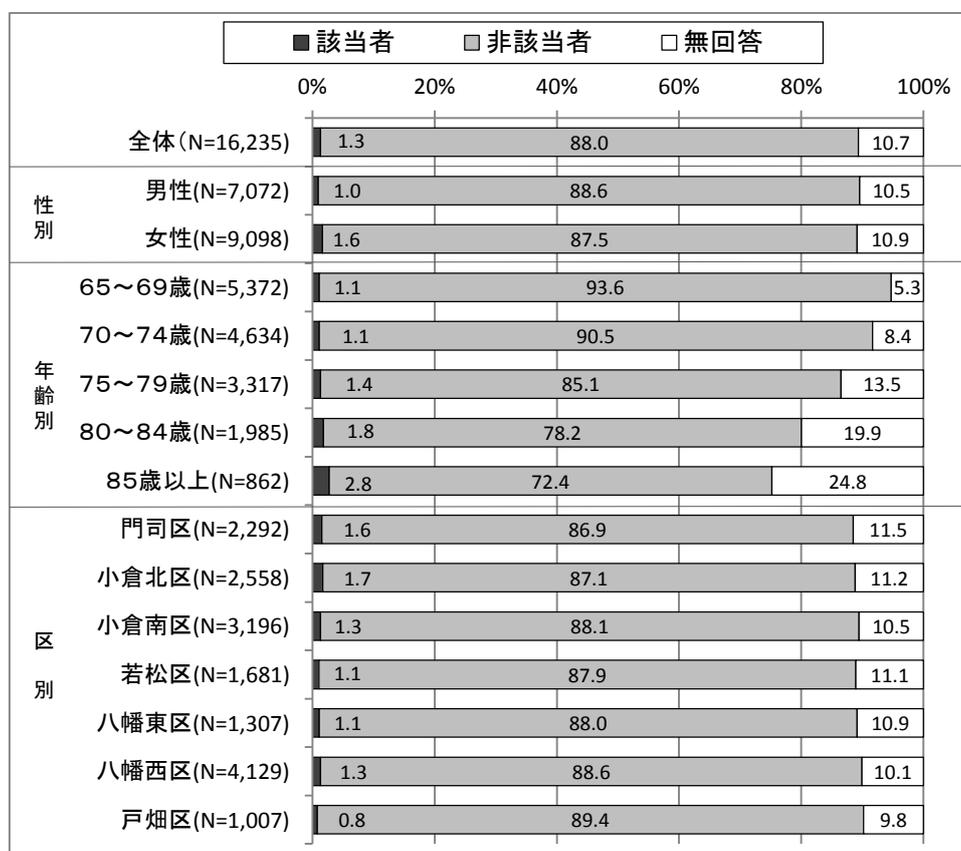


図 3-2-② 栄養状態（日常生活圏域別）

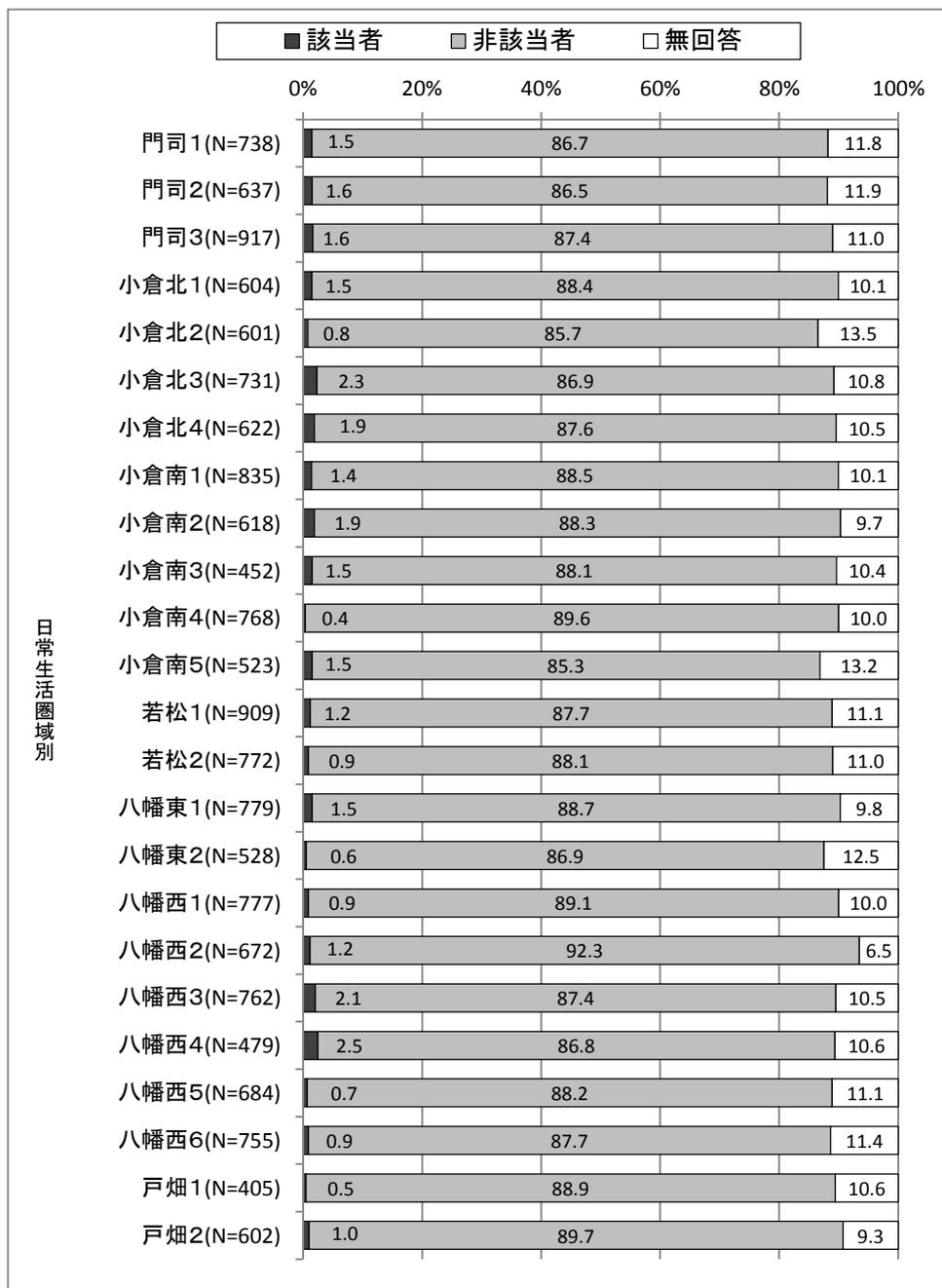


表 3-2 評価に用いた設問と評価基準（栄養状態）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|---------------------------|-----------------|---------------|
| 問 4-Q1. | 6ヶ月間で2~3kg 以上の体重減少がありましたか | はい(1点) | 2点で リスク該当者 |
| 問 4-Q2. | 身長・体重 | BMI 18.5 未満(1点) | |

※BMI = 体重 ÷ (身長×身長)
 体重はキログラム単位、身長はメートル単位で計算。

(3) 口腔機能の状況

厚生労働省地域支援事業実施要綱の「基本チェックリスト」に基づき、表 3-3 に示した 3 つの設問に対する回答結果により、口腔機能の低下のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 20.6% である。男女別にみると、男性が 20.9%、女性が 20.4% であり、顕著な差はみられない。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では約 3 割が該当している。

図 3-3-① 口腔機能の状況（全域）

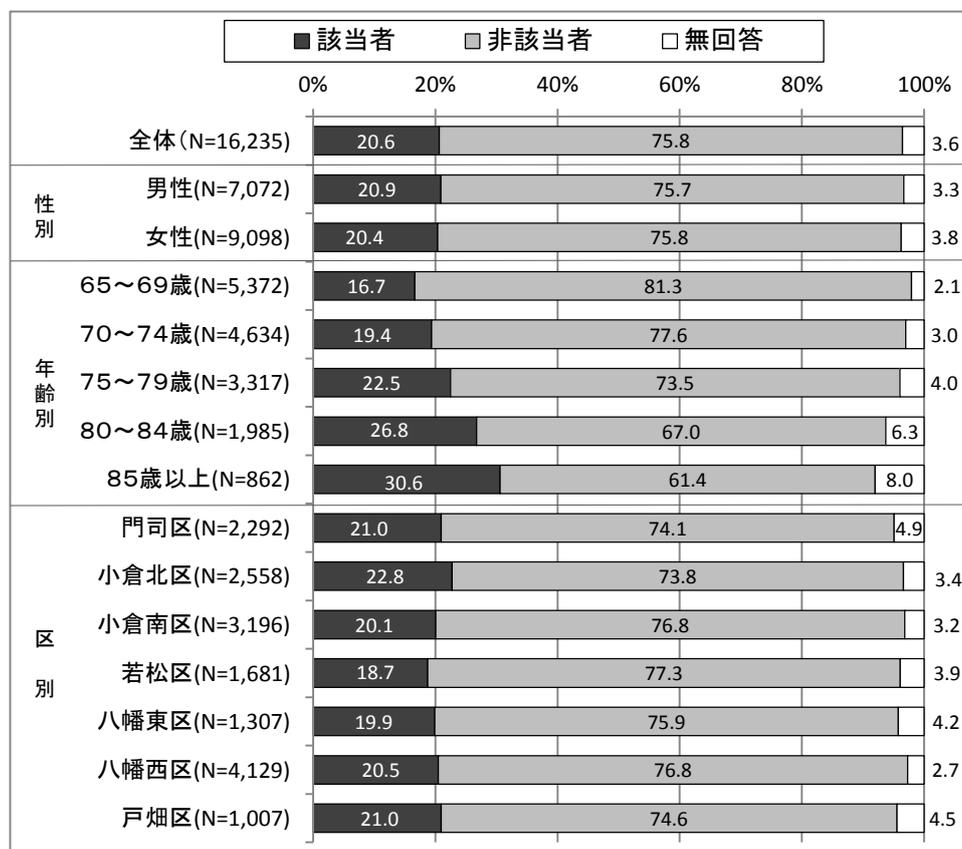


図 3-3-② 口腔機能の状況（日常生活圏域別）

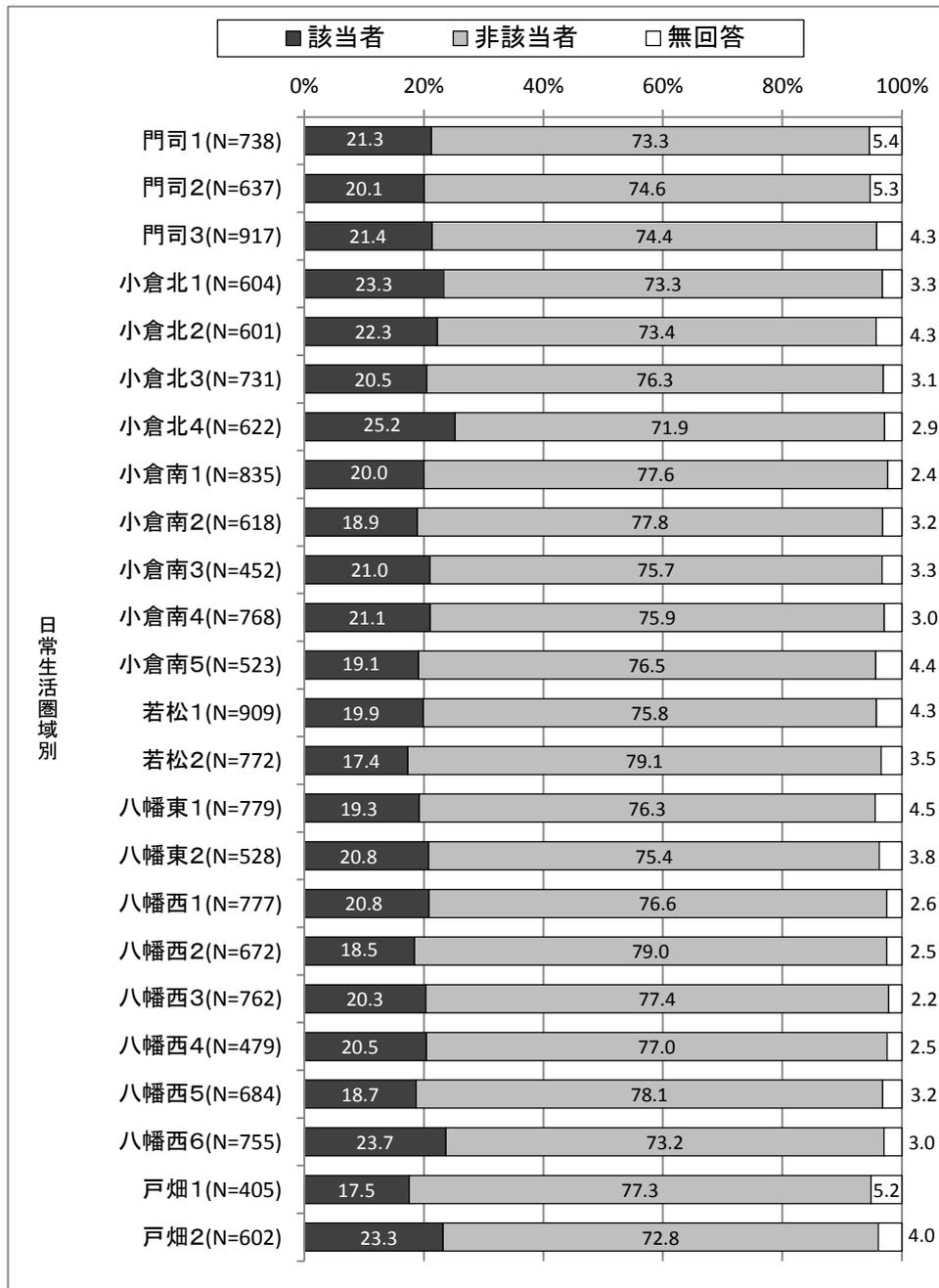


表 3-3 評価に用いた設問と評価基準（口腔機能の状況）

| 設問 | 配点 | 評価基準 |
|---------------------------------|--------|-----------------|
| 問 4-Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか | はい(1点) | 2点以上が リスク該当者 |
| 問 4-Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか | はい(1点) | |
| 問 4-Q5. 口の渇きが気になりますか | はい(1点) | |

(4) 閉じこもり

厚生労働省地域支援事業実施要綱の「基本チェックリスト」に基づき、表 3-4 に示した設問に対する回答結果により、閉じこもりになるリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 4.8%である。男女別にみると、男性が 4.4%、女性が 5.1%であり、顕著な差はみられない。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 17.7%で最も高くなっている。

図 3-4-① 閉じこもり（全域）

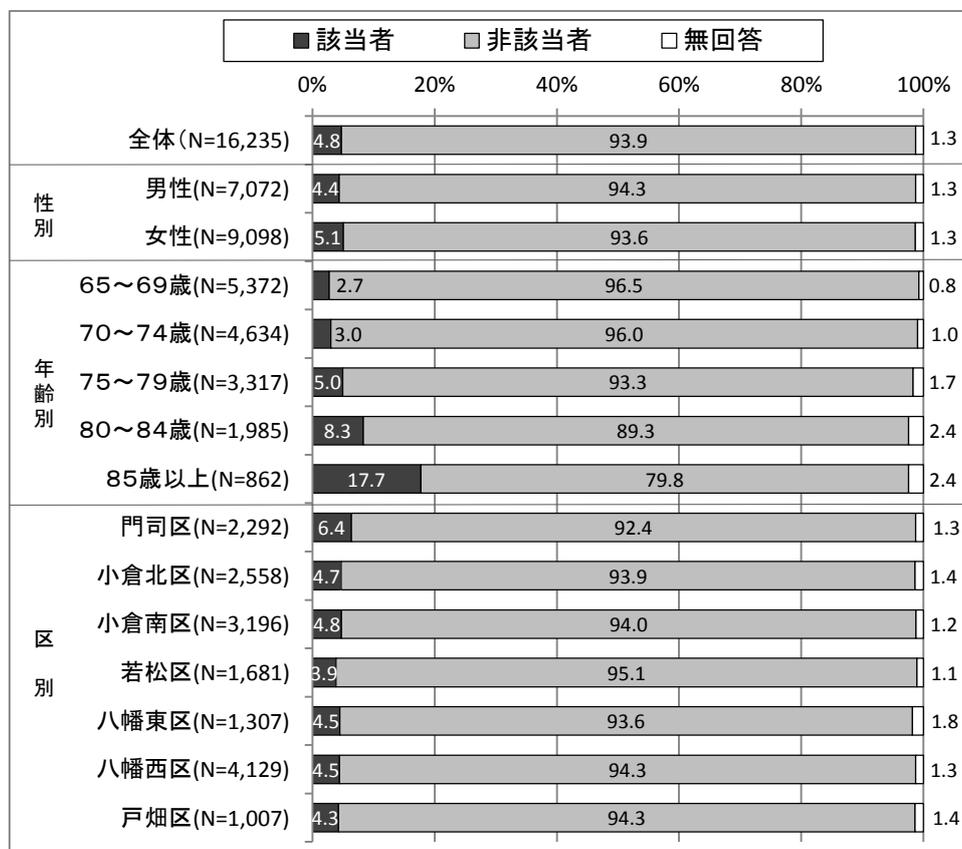


図 3-4-② 閉じこもり（日常生活圏域別）

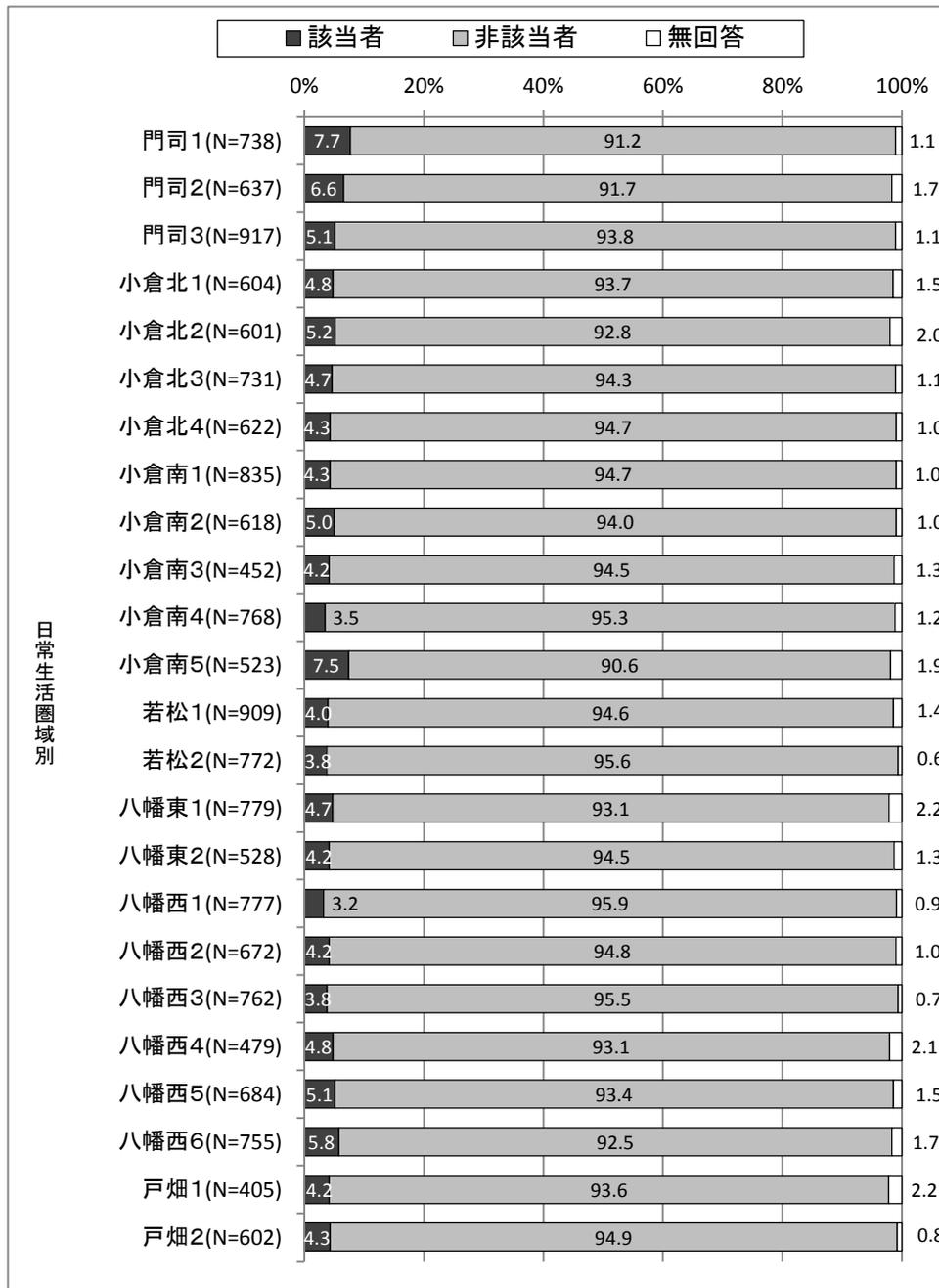


表 3-4 評価に用いた設問と評価基準（閉じこもり）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|-----------------|---------|---------------|
| 問 2-Q5. | 週に1回以上は外出していますか | いいえ(1点) | 1点で リスク該当者 |

(5) 物忘れ

厚生労働省地域支援事業実施要綱の「基本チェックリスト」に基づき、表 3-5 に示した 3 つの設問に対する回答結果により、物忘れや記憶力の低下のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 34.2% である。男女別にみると、男性が 37.0%、女性が 32.0% であり、男性の方が 5.0 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなる傾向がみられ、85 歳以上では 4 割以上が該当している。

図 3-5-① 物忘れ（全域）

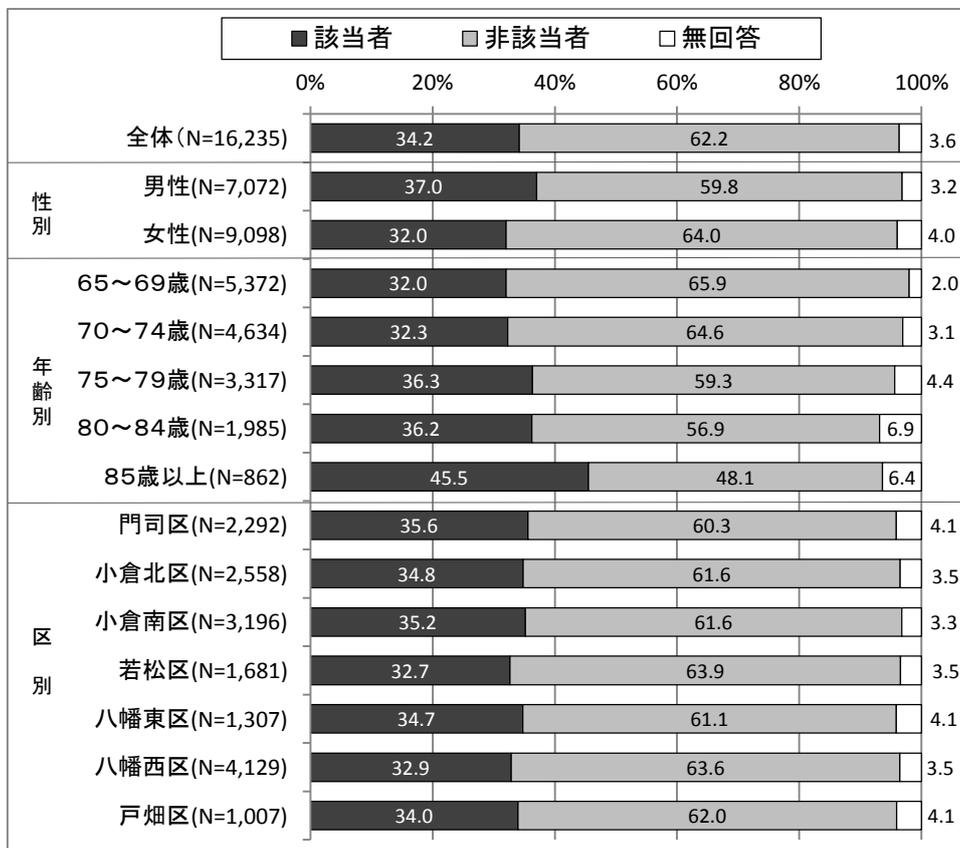


図 3-5-② 物忘れ（日常生活圏域別）

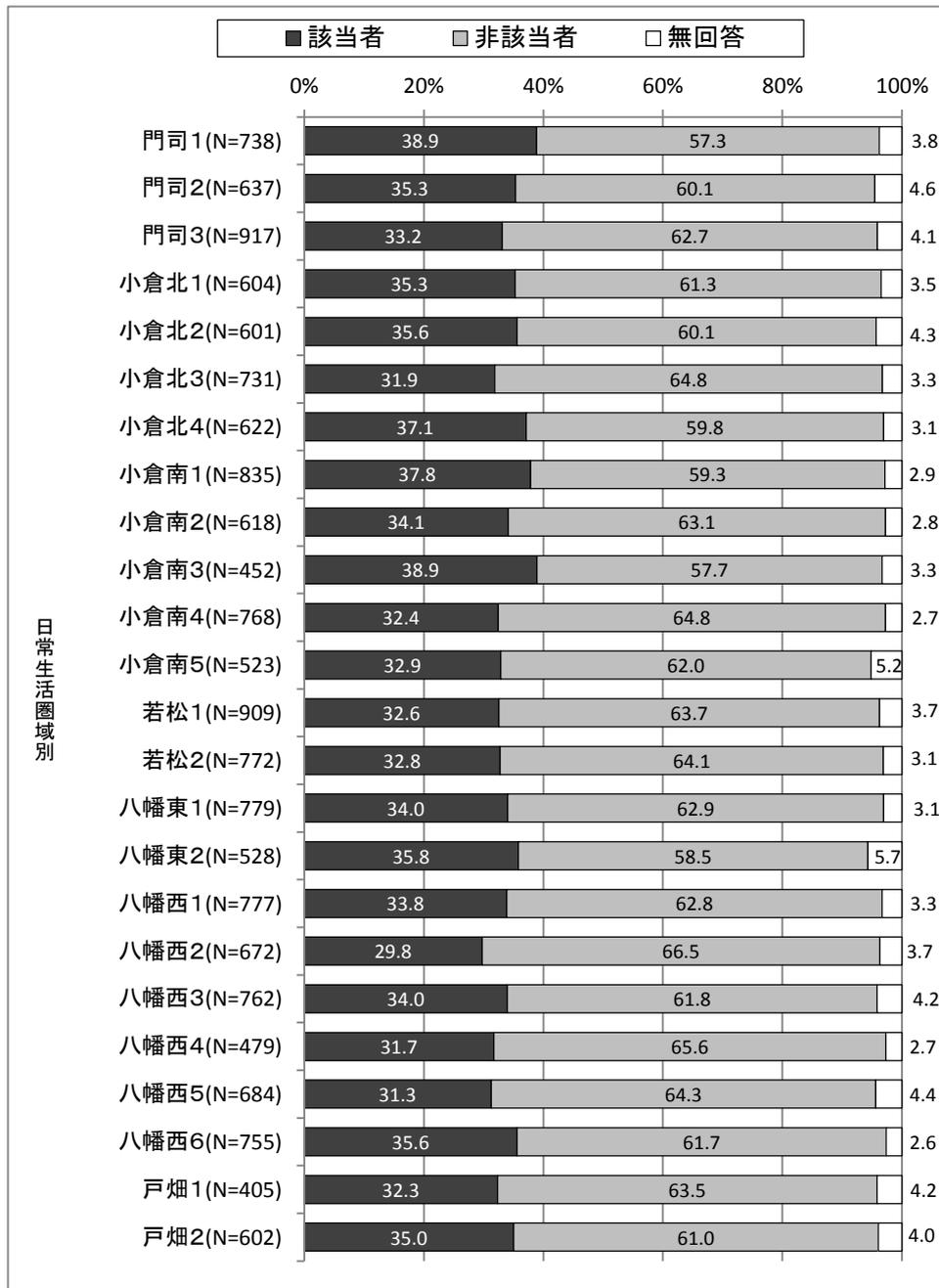


表 3-5 評価に用いた設問と評価基準（物忘れ）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|-----------------------------------|---------|-----------------|
| 問 5-Q1. | 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか | はい(1点) | 1点以上が リスク該当者 |
| 問 5-Q2. | 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか | いいえ(1点) | |
| 問 5-Q3. | 今日が何月何日かわからない時がありますか | はい(1点) | |

(6) 生活機能全般の状況

厚生労働省地域支援事業実施要綱の「基本チェックリスト」に基づき、表 3-6 に示した 20 の設問に対する回答結果により、虚弱による生活機能の低下のリスクについて総合的に評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 5.0%である。男女別にみると、男性が 5.1%、女性が 4.8%であり、顕著な差はみられない。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上が 16.6%で最も高くなっている。

図 3-6-① 生活機能全般の状況（全域）

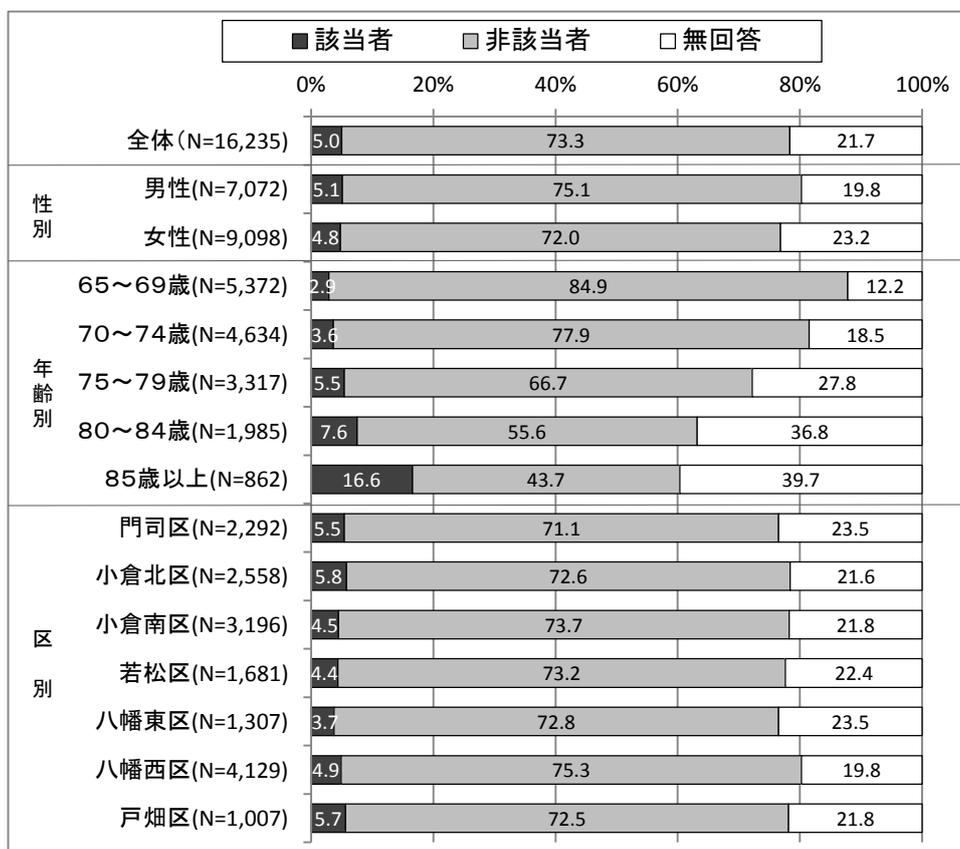


図 3-6-② 生活機能全般の状況（日常生活圏域別）

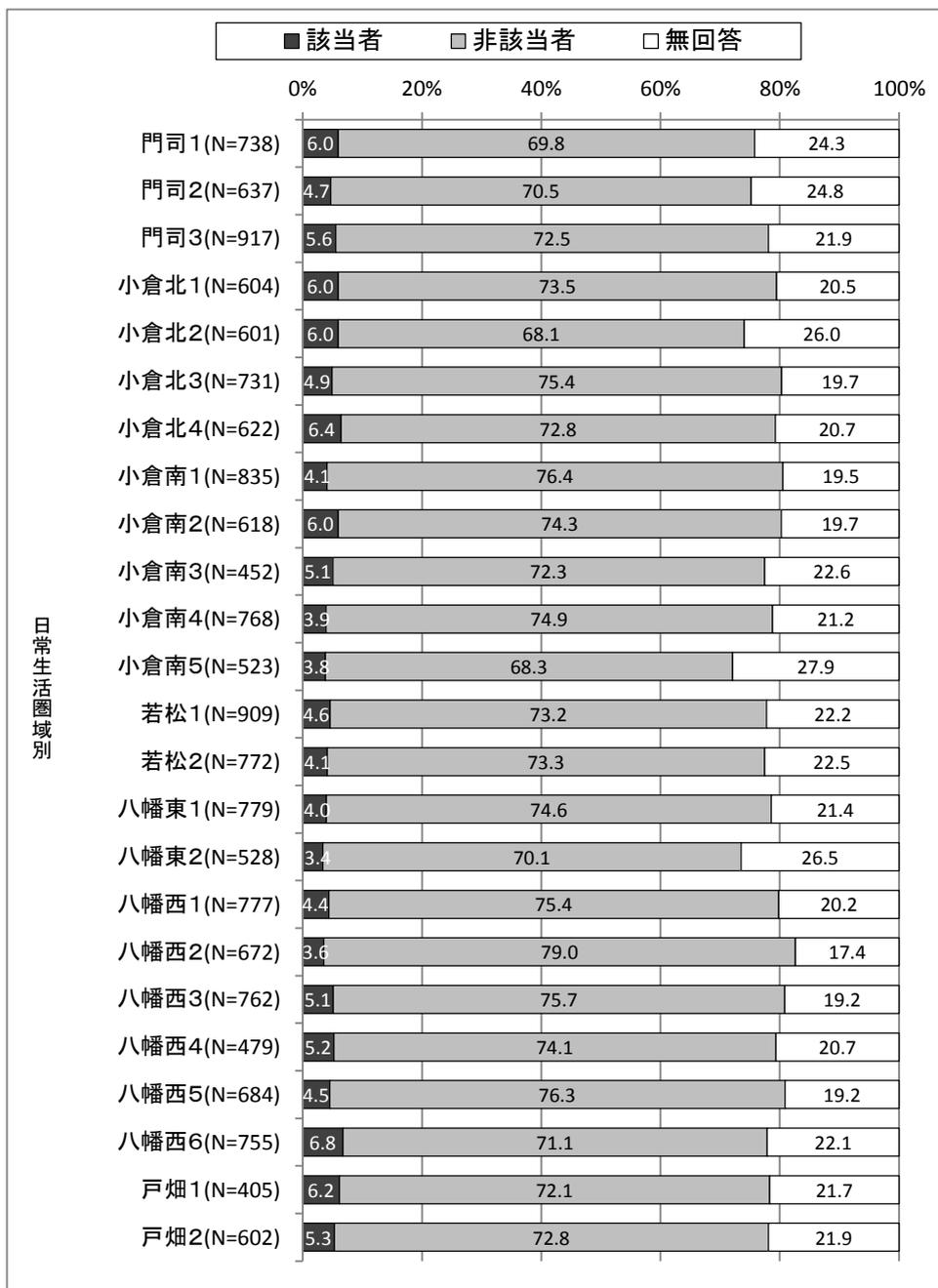


表 3-6 評価に用いた設問と評価基準（生活機能全般の状況）

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|---------|-----------------------------------|-------------------------|------------------|
| 問 2-Q1. | 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか | いいえ(1点) | 10点以上が リスク該当者 |
| 問 2-Q2. | 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか | いいえ(1点) | |
| 問 2-Q3. | 15分位続けて歩いていますか | いいえ(1点) | |
| 問 2-Q5. | 週に1回以上は外出していますか | いいえ(1点) | |
| 問 2-Q6. | 昨年と比べて外出の回数が減っていますか | はい(1点) | |
| 問 3-Q1. | この1年間に転んだことがありますか | はい(1点) | |
| 問 3-Q2. | 転倒に対する不安は大きいですか | はい(1点) | |
| 問 4-Q1. | 6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか | はい(1点) | |
| 問 4-Q2. | 身長・体重 | BMI 18.5未満(1点) | |
| 問 4-Q3. | 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか | はい(1点) | |
| 問 4-Q4. | お茶や汁物等でむせることがありますか | はい(1点) | |
| 問 4-Q5. | 口の渇きが気になりますか | はい(1点) | |
| 問 5-Q1. | 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると云われますか | はい(1点) | |
| 問 5-Q2. | 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか | いいえ(1点) | |
| 問 5-Q3. | 今日が何月何日かわからない時がありますか | はい(1点) | |
| 問 6-Q1. | バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可) | できるだけしていない・ できない(1点) | |
| 問 6-Q2. | 日用品の買物をしていますか | できるだけしていない・ できない(1点) | |
| 問 6-Q5. | 預貯金の出し入れをしていますか | できるだけしていない・ できない(1点) | |
| 問 7-Q5. | 友人の家を訪ねていますか | いいえ(1点) | |
| 問 7-Q6. | 家族や友人の相談にのっていますか | いいえ(1点) | |

※BMI = 体重 ÷ (身長 × 身長)
 体重はキログラム単位、身長はメートル単位で計算。

2. うつの傾向

厚生労働省地域支援事業実施要綱の「基本チェックリスト」に基づき、表 3-7 に示した 5 つの設問に対する回答結果により、うつの傾向のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 24.2% である。男女別にみると、男性が 24.5%、女性が 23.9% であり、顕著な差はみられない。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっている。

図 3-7-① うつの傾向（全域）

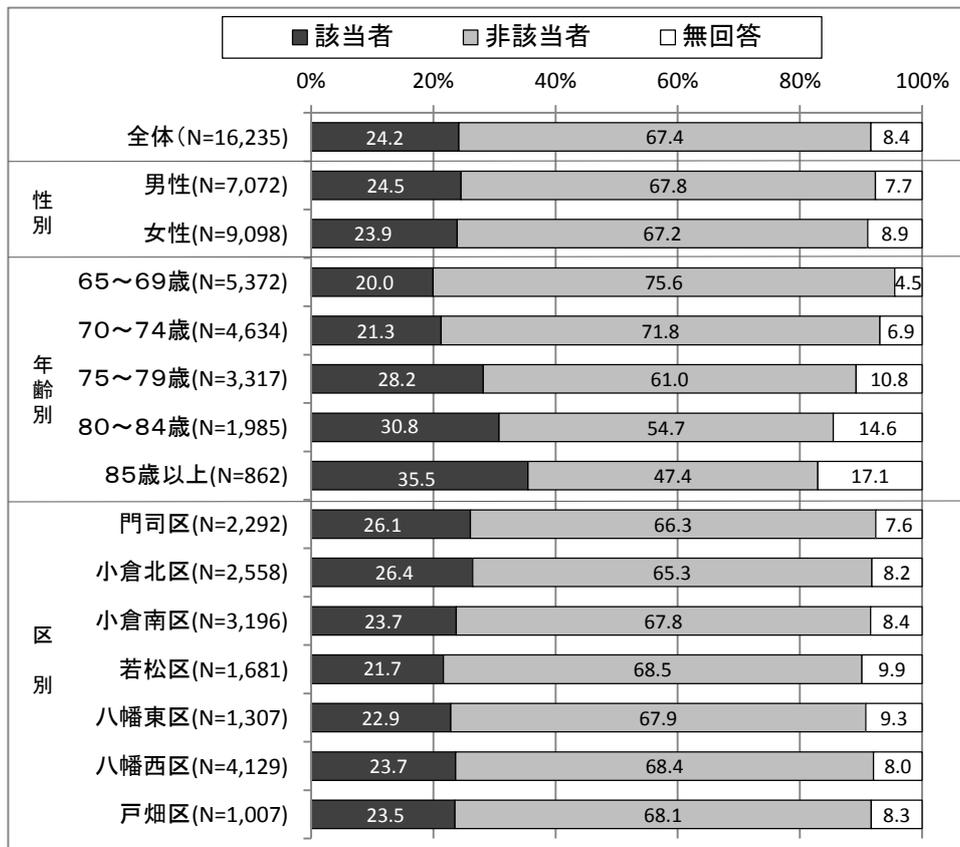


図 3-7-② うつの傾向（日常生活圏域別）

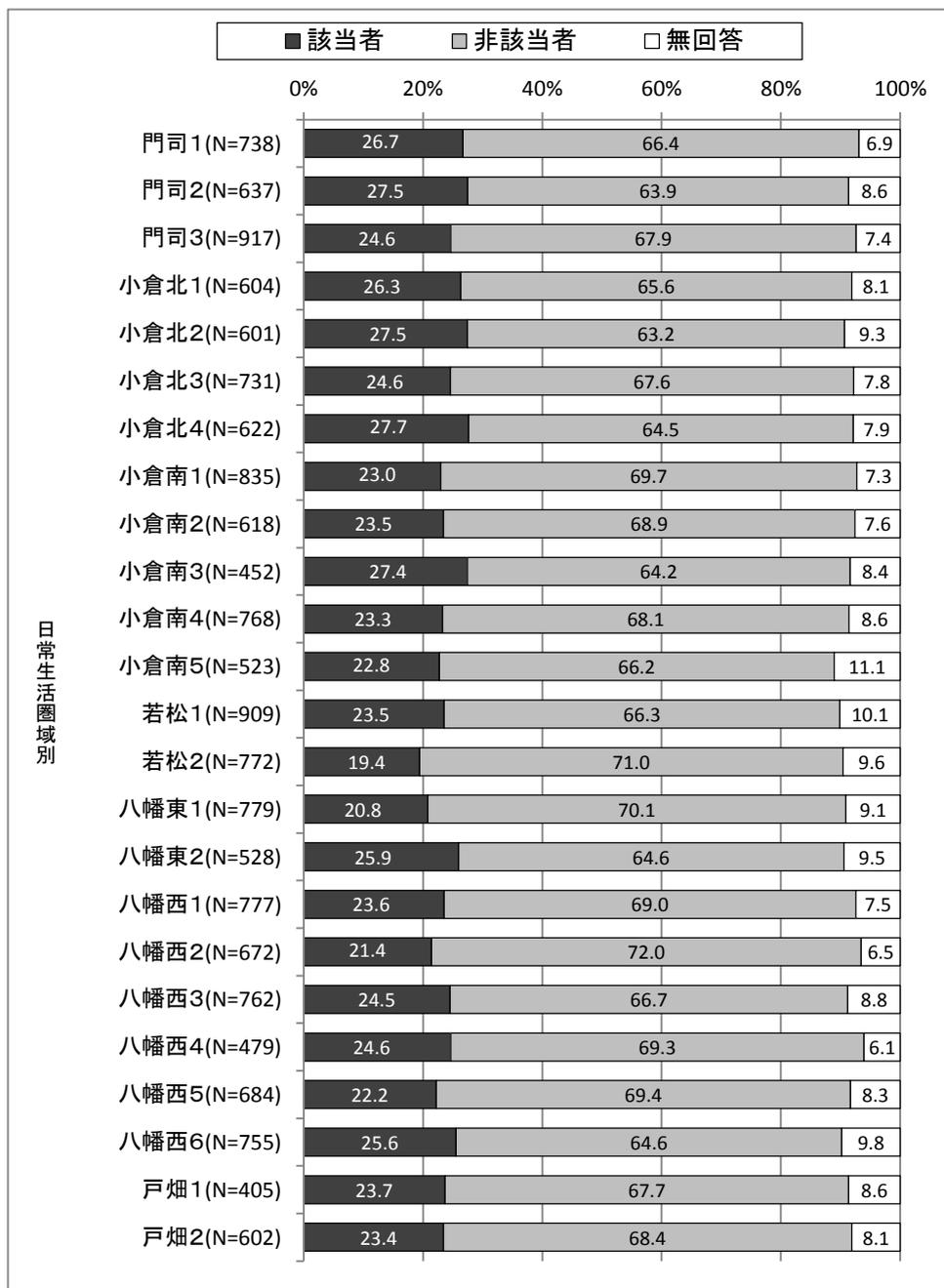


表 3-7 評価に用いた設問と評価基準（うつの傾向）

| 設 問 | | 配 点 | 評価基準 |
|----------|------------------------------------|--------|-----------------|
| 問 8-Q7. | (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない | はい(1点) | 2点以上が リスク該当者 |
| 問 8-Q8. | (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった | はい(1点) | |
| 問 8-Q9. | (ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる | はい(1点) | |
| 問 8-Q10. | (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない | はい(1点) | |
| 問 8-Q11. | (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする | はい(1点) | |

3. 転倒リスクの状況

表 3-8 に示した 5 つの設問に対する回答結果により、転倒のリスクについて評価を行った。

市全体でみると、リスクがあることを示す「該当者」の割合は 21.7% である。男女別にみると、男性が 19.9%、女性が 23.1% であり、女性の方が 3.2 ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 4 割以上が該当している。

図 3-8-① 転倒リスクの状況（全域）

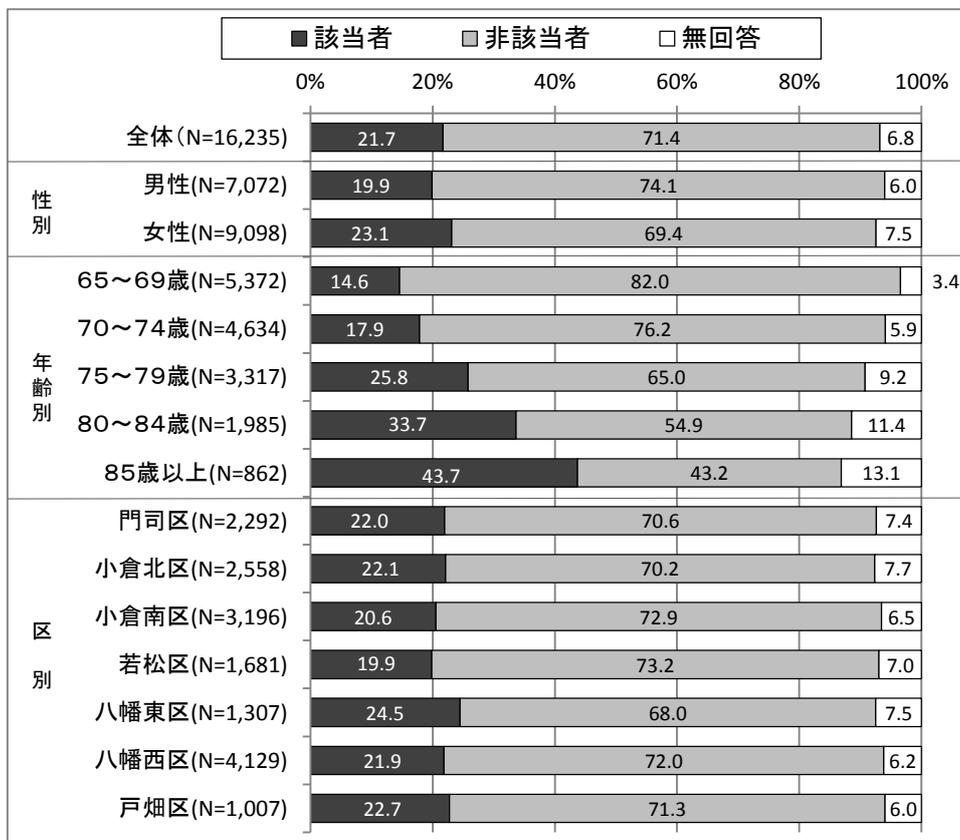


図 3-8-② 転倒リスクの状況（日常生活圏域別）

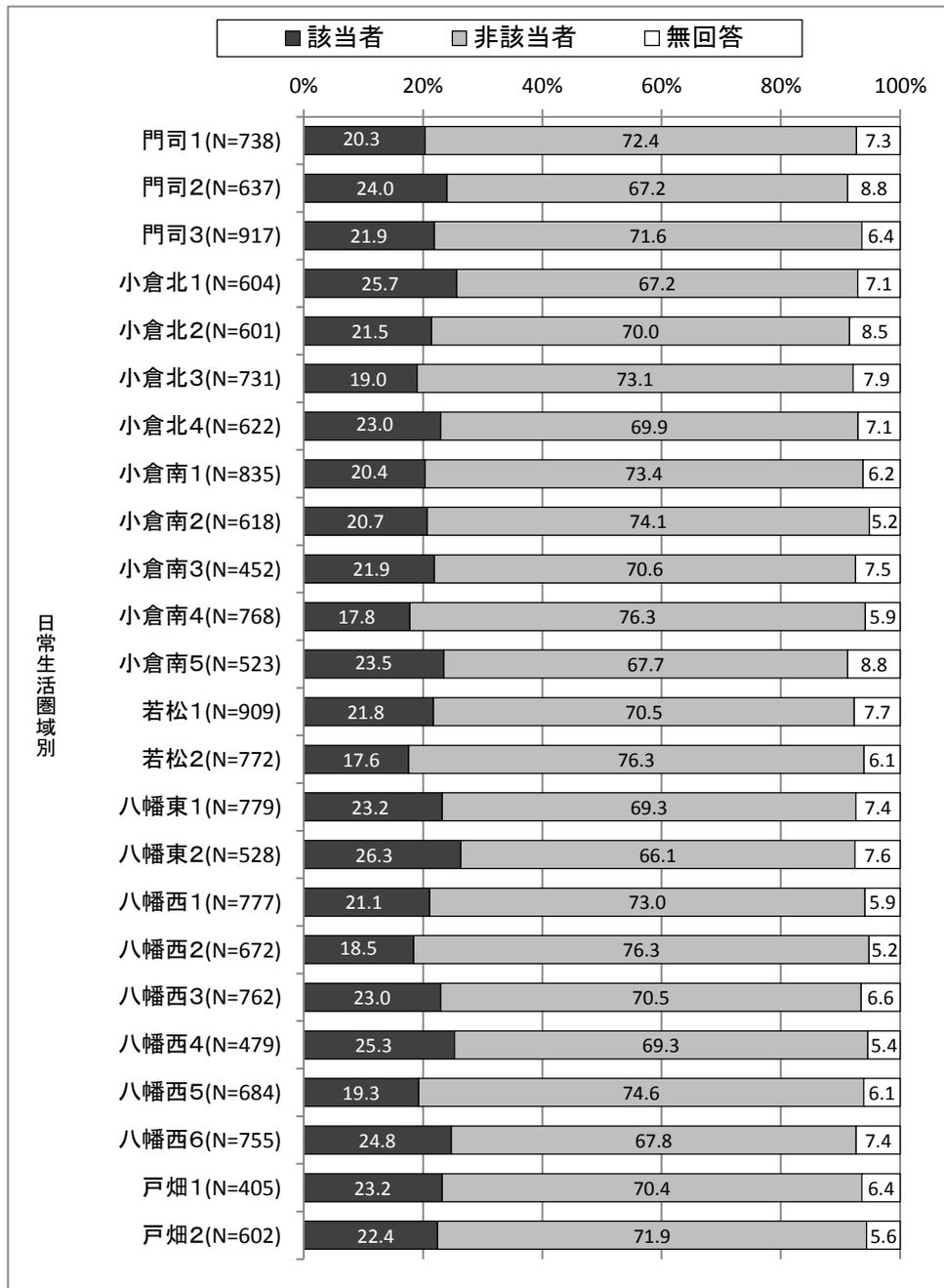


表 3-8 評価に用いた設問と評価基準（転倒リスクの状況）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|--------------------------|-----------|-----------------|
| 問 3-Q1. | この1年間に転んだことがありますか | はい(5点) | 6点以上が リスク該当者 |
| 問 3-Q3. | 背中が丸くなってきましたか | はい(2点) | |
| 問 3-Q4. | 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか | はい(2点) | |
| 問 3-Q5. | 杖を使っていますか | はい(2点) | |
| 問 8-Q3. | 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでますか | 5種類以上(2点) | |

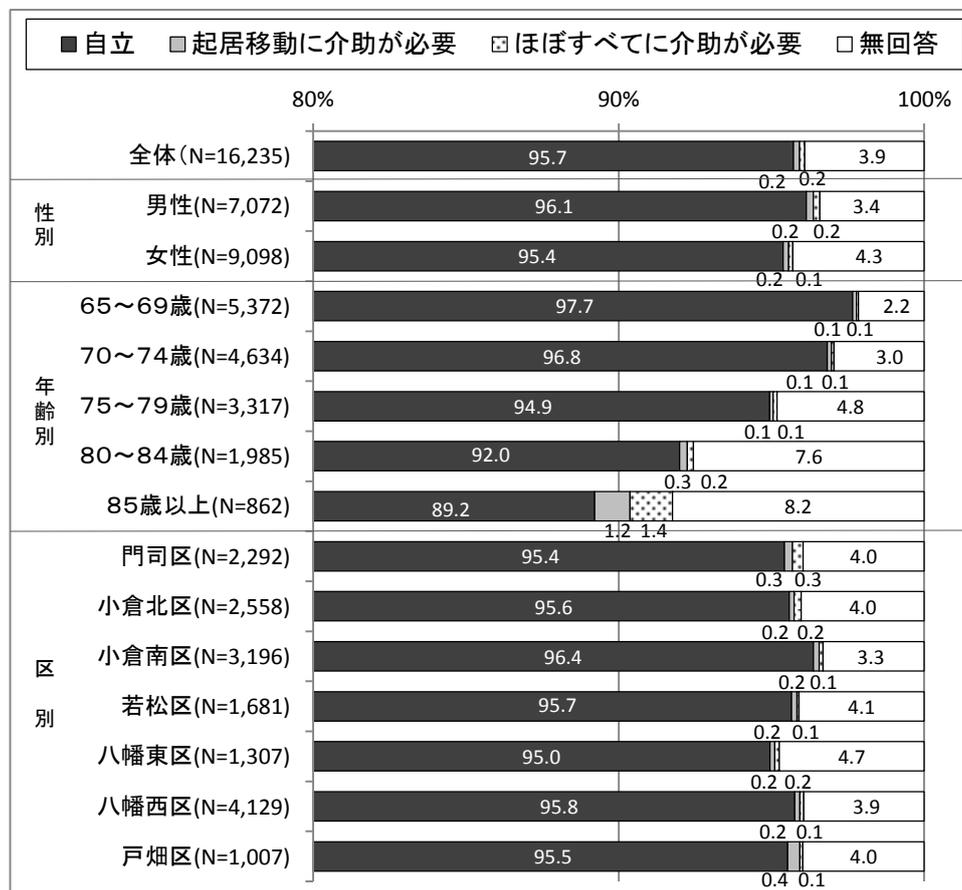
4. 日常生活動作（ADL）

本調査には、日常生活を送るために必要な様々な基本動作や活動についての能力を指す「日常生活動作（ADL：Activities of Daily Living）」に関する設問が含まれている。

表 3-9 に示した 10 の設問に対する回答結果により、「日常生活動作（ADL）」について評価を行った。

市全体でみると、「自立」の割合は 95.7% である。男女別にみると、男性が 96.1%、女性が 95.4% であり、顕著な差はみられない。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「自立」の割合が低くなっている。

図 3-9-① 日常生活動作（ADL）（全域）



※ ADL（日常生活動作）とは、日常生活を送る上で必要な、食事や排泄、整容、移動、入浴等の基本的な動作をさす。

図 3-9-② 日常生活動作（ADL）（日常生活圏域別）

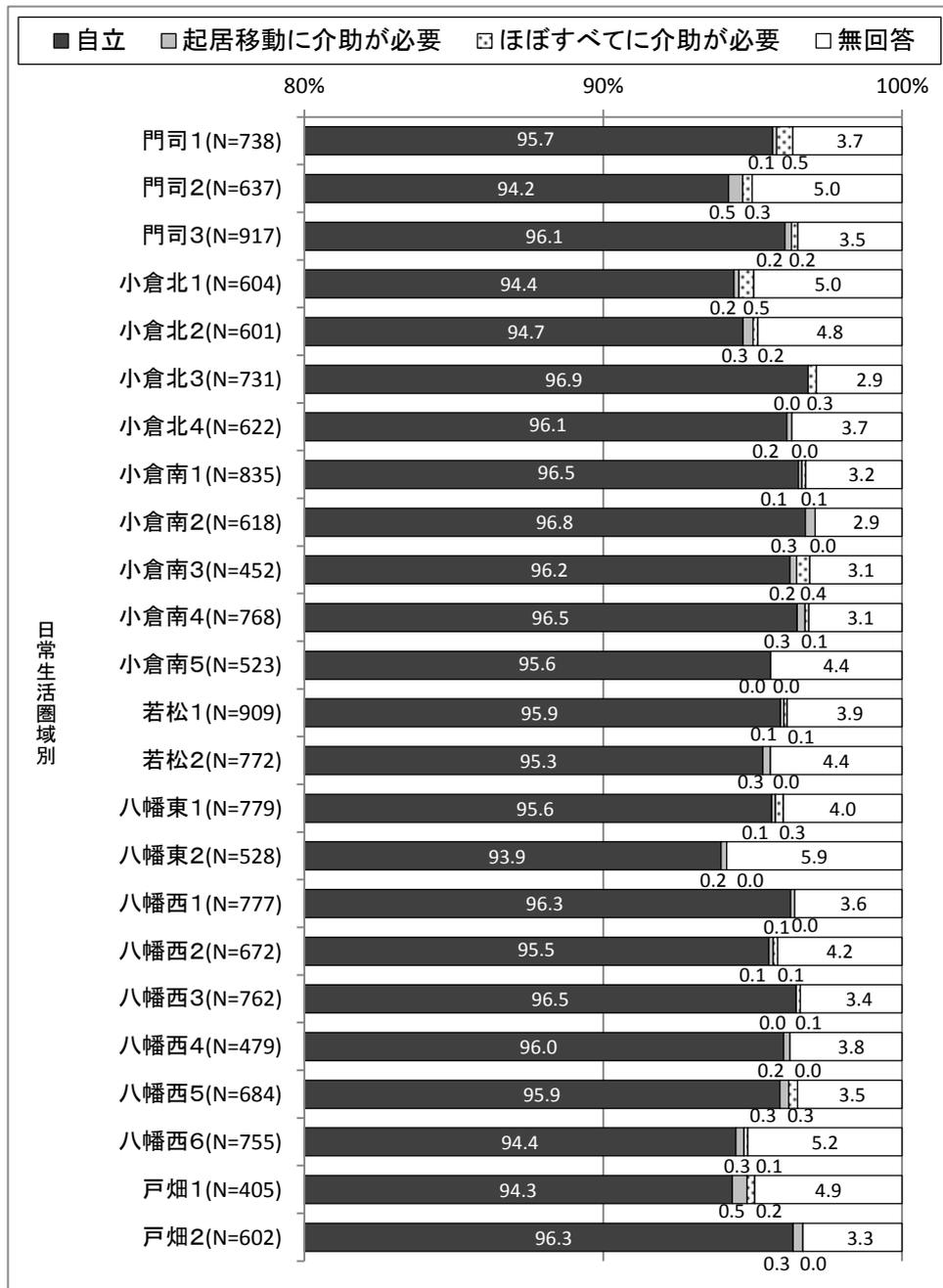


表 3-9 評価に用いた設問と評価基準（ADL）

| 設 問 | | 配 点 | | 評価基準 |
|----------|----------------------|--|------|---|
| 問 6-Q6. | 食事は自分で食べられますか | できる | 10 点 | ・「自立」 65 点～100 点 ・「起居移動に介助が必要」 45 点～60 点 ・「ほぼすべてに介助が必要」 40 点以下 |
| | | 一部介助（おかずを切ってもらなど）があればできる | 5 点 | |
| | | できない | 0 点 | |
| 問 6-Q7. | 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか | 受けない | 15 点 | |
| | | 一部介助があればできる | 10 点 | |
| | | 全面的な介助が必要 (問 6Q8 の回答が「できる」「支えが必要」の場合) | 5 点 | |
| | | 全面的な介助が必要 (問 6Q8 の回答が「できない」の場合) | 0 点 | |
| 問 6-Q9. | 自分で洗面や歯磨きができますか | できる | 5 点 | |
| | | 一部介助があればできる、できない | 0 点 | |
| 問 6-Q10. | 自分でトイレができますか | できる | 10 点 | |
| | | 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる | 5 点 | |
| | | できない | 0 点 | |
| 問 6-Q11. | 自分で入浴ができますか | できる | 5 点 | |
| | | 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる、できない | 0 点 | |
| 問 6-Q12. | 50m以上歩けますか | できる | 15 点 | |
| | | 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる | 10 点 | |
| | | できない | 0 点 | |
| 問 6-Q13. | 階段を昇り降りできますか | できる | 10 点 | |
| | | 介助があればできる | 5 点 | |
| | | できない | 0 点 | |
| 問 6-Q14. | 自分で着替えができますか | できる | 10 点 | |
| | | 介助があればできる | 5 点 | |
| | | できない | 0 点 | |
| 問 6-Q15. | 大便の失敗がありますか | ない | 10 点 | |
| | | ときどきある | 5 点 | |
| | | よくある | 0 点 | |
| 問 6-Q16. | 尿もれや尿失禁がありますか | ない | 10 点 | |
| | | ときどきある | 5 点 | |
| | | よくある | 0 点 | |

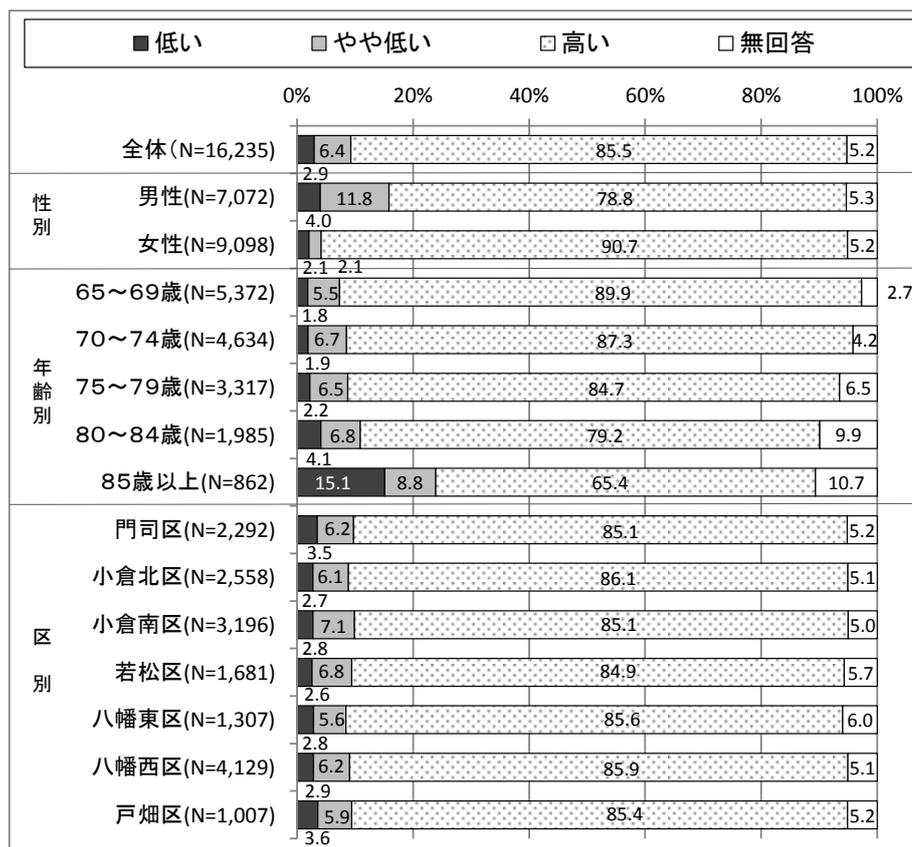
5. 手段的日常生活動作（IADL）

本調査には、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標(※)に準じた設問が含まれている。

このうち、活動的な日常生活を送るための動作（バスに乗って買い物に行く、食事の支度をする、電話をかけるなど）の能力を指す「手段的日常生活動作（IADL：Instrumental Activities of Daily Living）」について、表 3-10 に示した5つの設問に対する回答結果により評価を行った。

市全体でみると、能力が「高い」人の割合が85.5%を占めている。一方、「低い」は2.9%、「やや低い」は6.4%で、これらを合わせた割合は9.3%である。男女別に「低い」と「やや低い」を合わせた割合をみると、男性が15.8%、女性が4.2%であり、男性の方が11.6ポイント高い。これを年齢別にみると、85歳以上が23.9%で最も高くなっている。

図 3-10-① 手段的日常生活動作（IADL）（全域）



※老研式活動能力指標

高齢者の高次の生活機能の評価を行うことを目的として、東京都老人総合研究所（現：東京都健康長寿医療センター研究所）により開発された指標で、「手段的日常生活動作（IADL）」、「知的能動性」、「社会的役割」の3領域の設問群から構成されている。

※IADL（手段的日常生活動作）とは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、外出や買い物など、日常生活動作（ADL）より複雑で高次の動作をさす。

図 3-10-② 手段的日常生活動作（IADL）（日常生活圏域別）

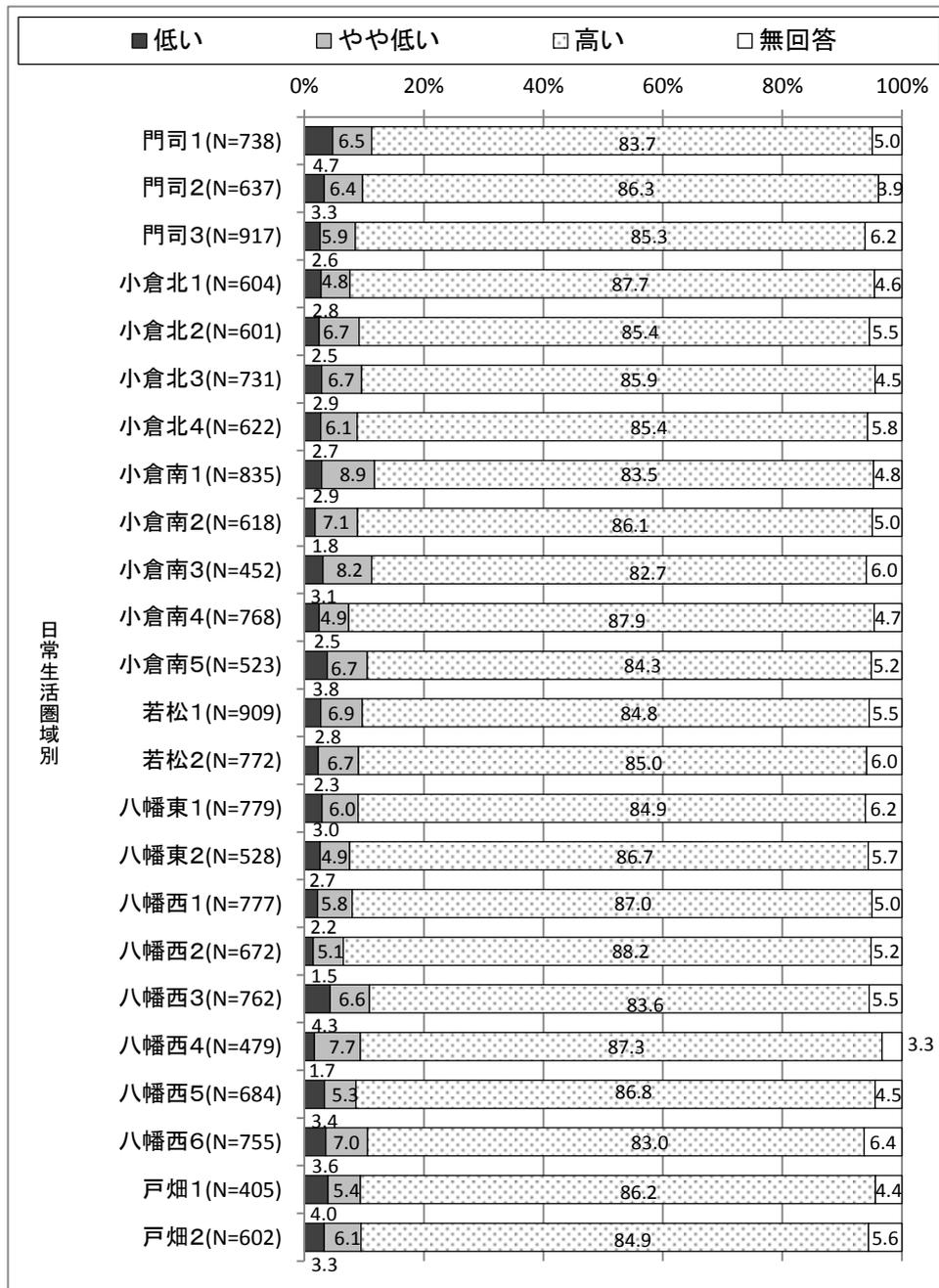


表 3-10 評価に用いた設問と評価基準（IADL）

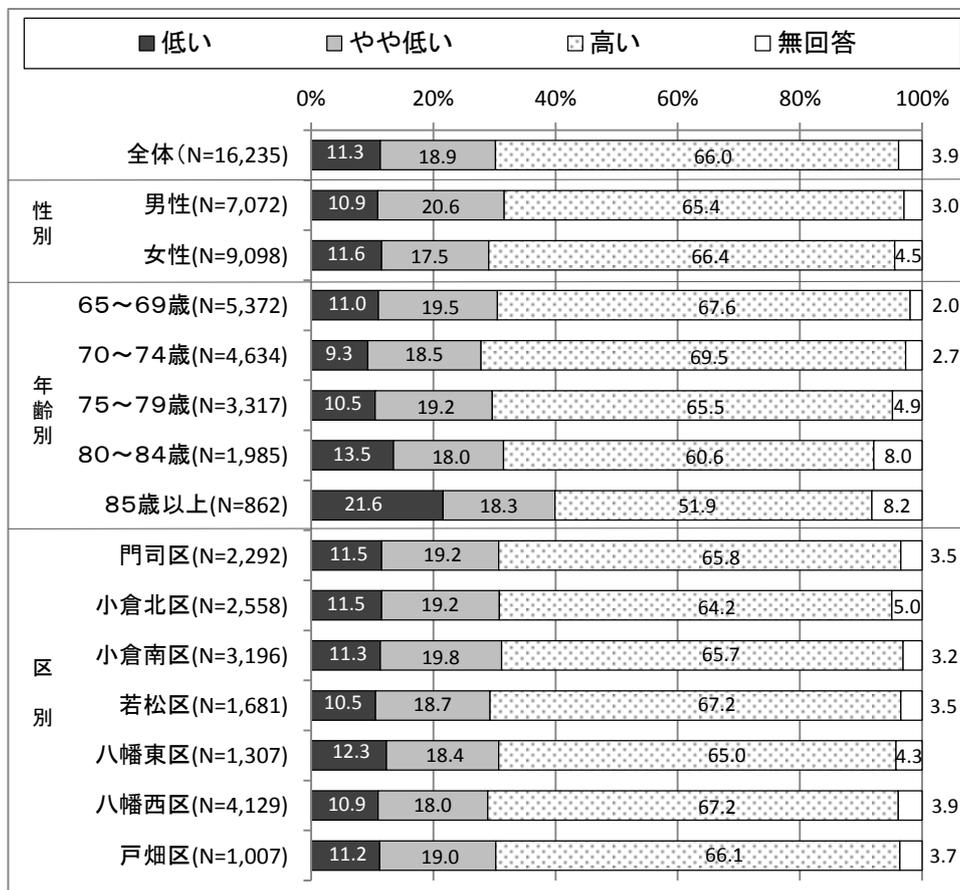
| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|----------------------------|---------------|--------------------------------|
| 問 6-Q1. | バスや電車で一人で外出していますか(自家用車でも可) | できるし、している(1点) | 「低い」3点以下 「やや低い」4点 「高い」5点 |
| 問 6-Q2. | 日用品の買物をしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 6-Q3. | 自分で食事の用意をしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 6-Q4. | 請求書の支払いをしていますか | できるし、している(1点) | |
| 問 6-Q5. | 預貯金の出し入れをしていますか | できるし、している(1点) | |

6. 知的能動性

老研式活動能力指標(※)のうち、知的な活動能力を示す指標である「知的能動性」について、表 3-11 に示した 4 つの設問に対する回答結果により評価を行った。

市全体でみると、「知的能動性」が「高い」人の割合は 66.0%である。一方、「低い」は 11.3%、「やや低い」は 18.9%で、これらを合わせた割合は 30.2%となっている。男女別に「低い」と「やや低い」を合わせた割合をみると、男性が 31.5%、女性が 29.1%であり、男性の方が 2.4 ポイント高い。これを年齢別にみると、85 歳以上が最も高く約 4 割となっている。

図 3-11-① 知的能動性（全域）



※老研式活動能力指標

高齢者の高次の生活機能の評価を行うことを目的として、東京都老人総合研究所（現：東京都健康長寿医療センター研究所）により開発された指標で、「手段的日常生活動作（IADL）」、「知的能動性」、「社会的役割」の 3 領域の設問群から構成されている。

図 3-11-② 知的能動性（日常生活圏域別）

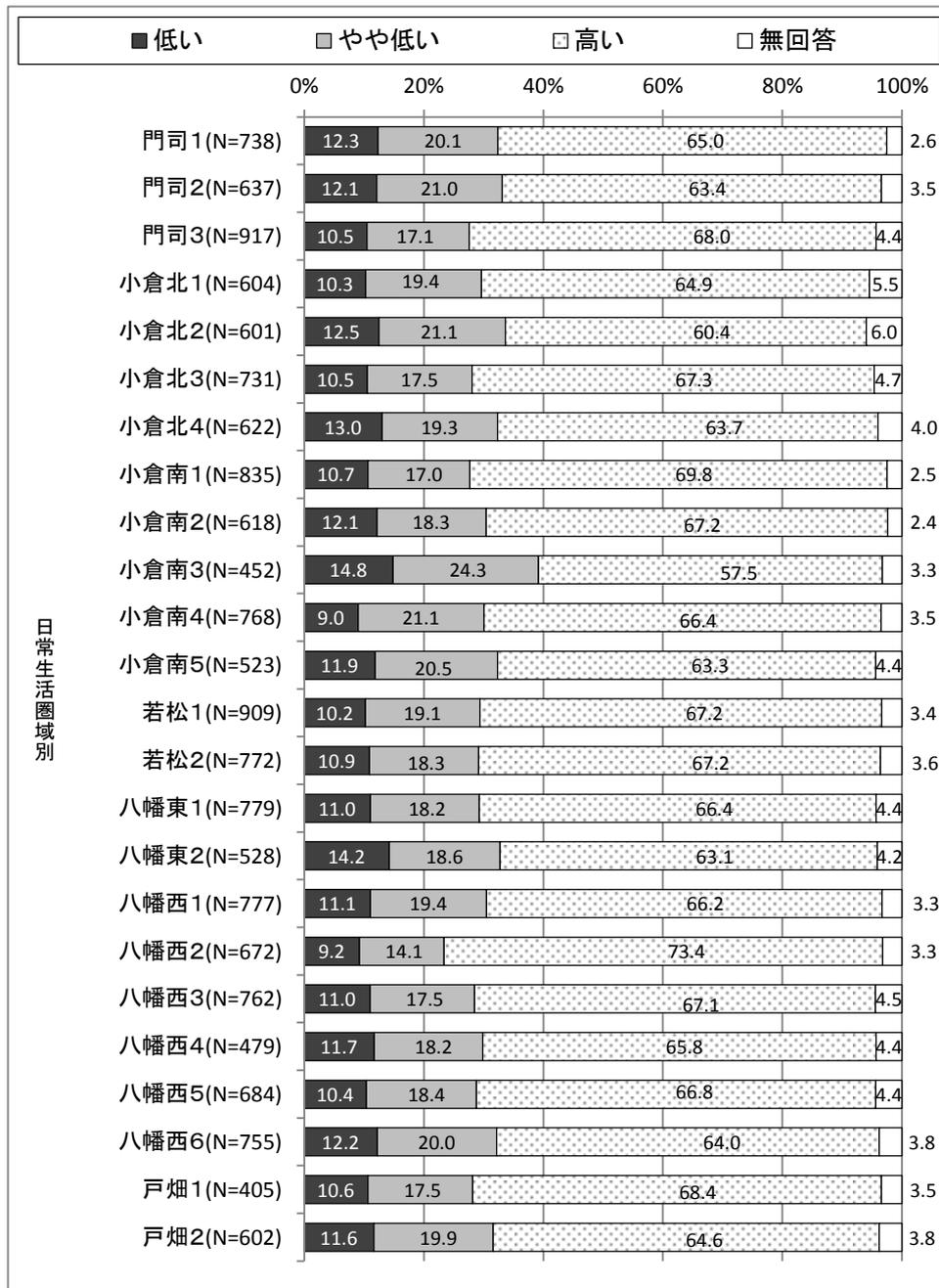


表 3-11 評価に用いた設問と評価基準（知的能動性）

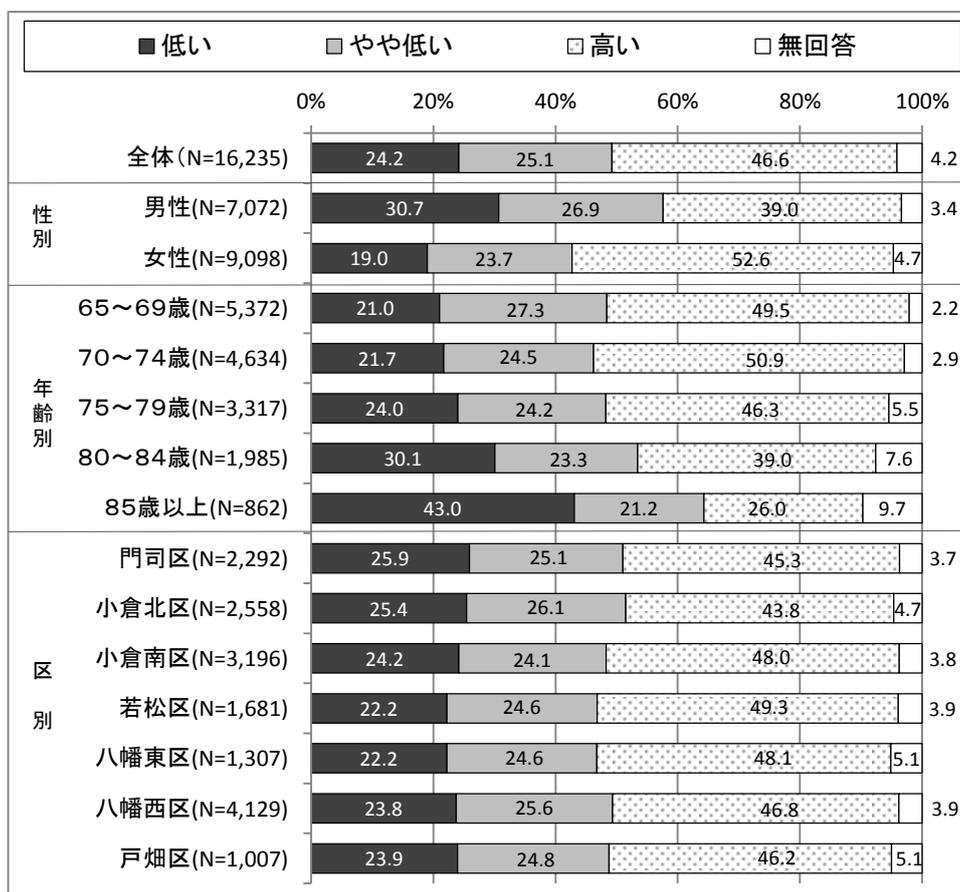
| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|-----------------------------|--------|--------------------------------|
| 問 7-Q1. | 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか | はい(1点) | 「低い」2点以下 「やや低い」3点 「高い」4点 |
| 問 7-Q2. | 新聞を読んでいますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q3. | 本や雑誌を読んでいますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q4. | 健康についての記事や番組に関心がありますか | はい(1点) | |

7. 社会的役割

老研式活動能力指標(※)のうち、地域での社会的な役割に関する活動等を示す指標である「社会的役割」について、表 3-12 に示した4つの設問に対する回答結果により評価を行った。

市全体でみると、「社会的役割」が「高い」人の割合は46.6%である。一方、「低い」は24.2%、「やや低い」は25.1%で、これらを合わせた割合は49.3%と「高い」の割合を上回っている。男女別に「低い」と「やや低い」を合わせた割合をみると、男性が57.6%、女性が42.7%であり、男性の方が14.9ポイント高い。これを年齢別にみると、85歳以上が最も高く6割を超えている。

図 3-12-① 社会的役割（全域）



※老研式活動能力指標

高齢者の高次の生活機能の評価を行うことを目的として、東京都老人総合研究所（現：東京都健康長寿医療センター研究所）により開発された指標で、「手段的日常生活動作（IADL）」、「知的能動性」、「社会的役割」の3領域の設問群から構成されている。

図 3-12-② 社会的役割（日常生活圏域別）

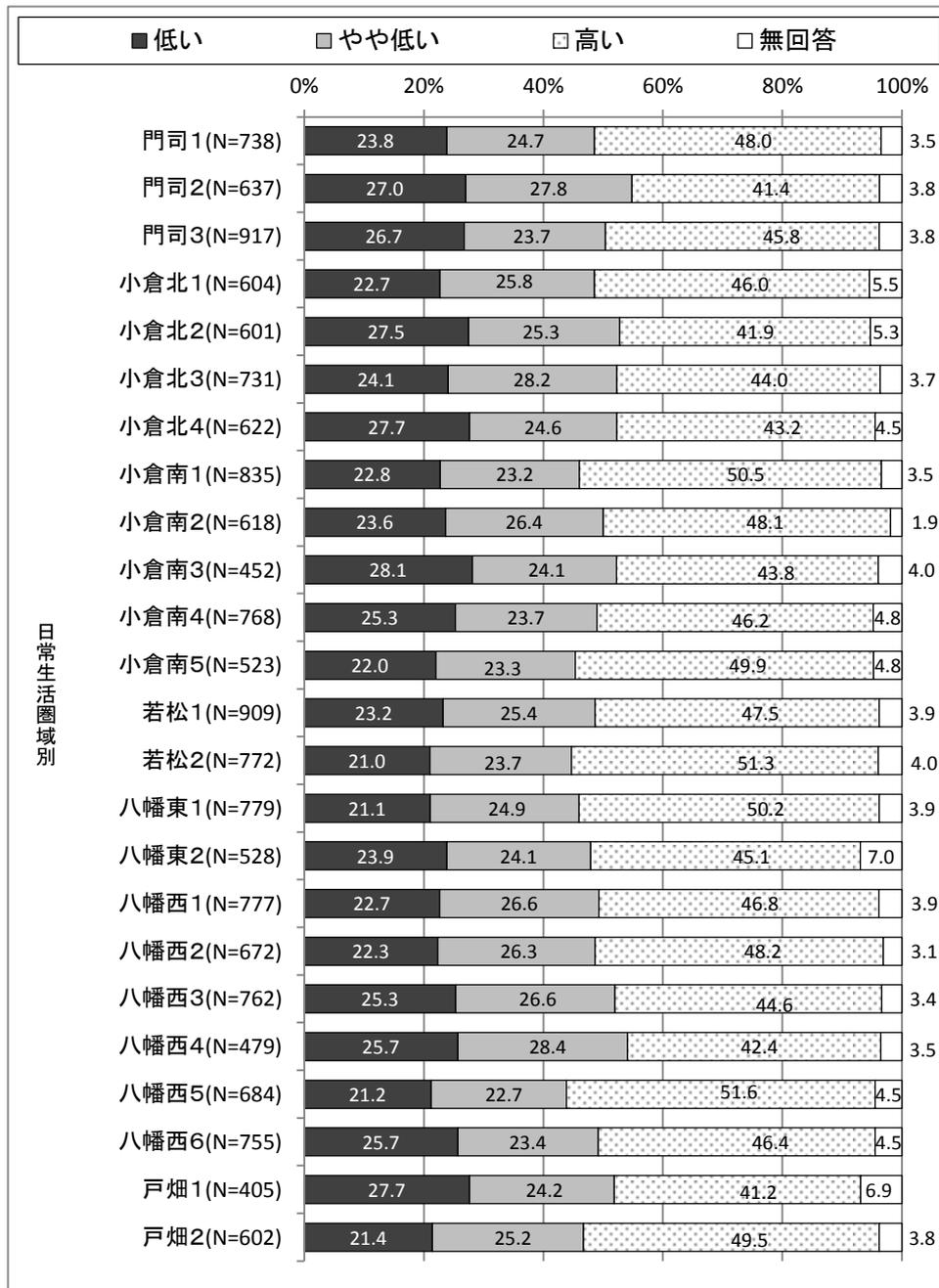


表 3-12 評価に用いた設問と評価基準（社会的役割）

| 設問 | | 配点 | 評価基準 |
|---------|-----------------------|--------|--------------------------------|
| 問 7-Q5. | 友人の家を訪ねていますか | はい(1点) | 「低い」2点以下 「やや低い」3点 「高い」4点 |
| 問 7-Q6. | 家族や友人の相談にのっていますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q7. | 病人を見舞うことができますか | はい(1点) | |
| 問 7-Q8. | 若い人に自分から話しかけることがありますか | はい(1点) | |

8. 認知機能障害程度（CPS）

本調査には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるCPS（Cognitive Performance Scale）に準じた設問が含まれている。

図3-14に示した評価基準により、「0レベル（障害なし）」から「6レベル（最重度の障害がある）」に分類した。

市全体でみると、軽度以上の障害があるおそれのある人（2～6レベル）の割合は4.7%である。男女別にみると、男性が5.9%、女性が3.8%であり、男性の方が2.1ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって軽度以上の障害があるおそれのある人の割合が高くなっており、85歳以上では14.8%が該当している。

図3-13-① 認知機能障害程度（CPS）（全域）

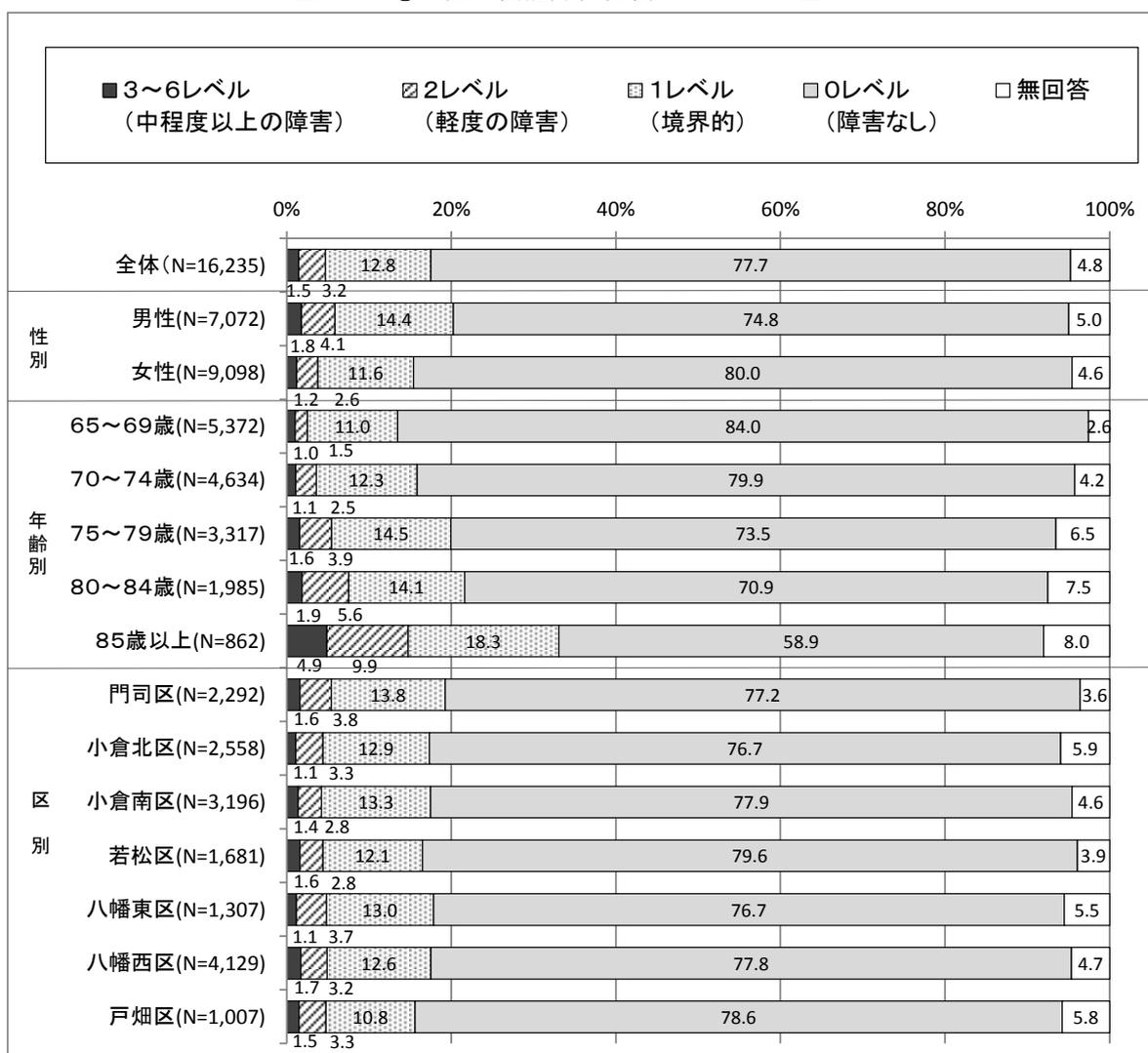


図 3-13-② 認知機能障害程度（CPS）（日常生活圏域別）

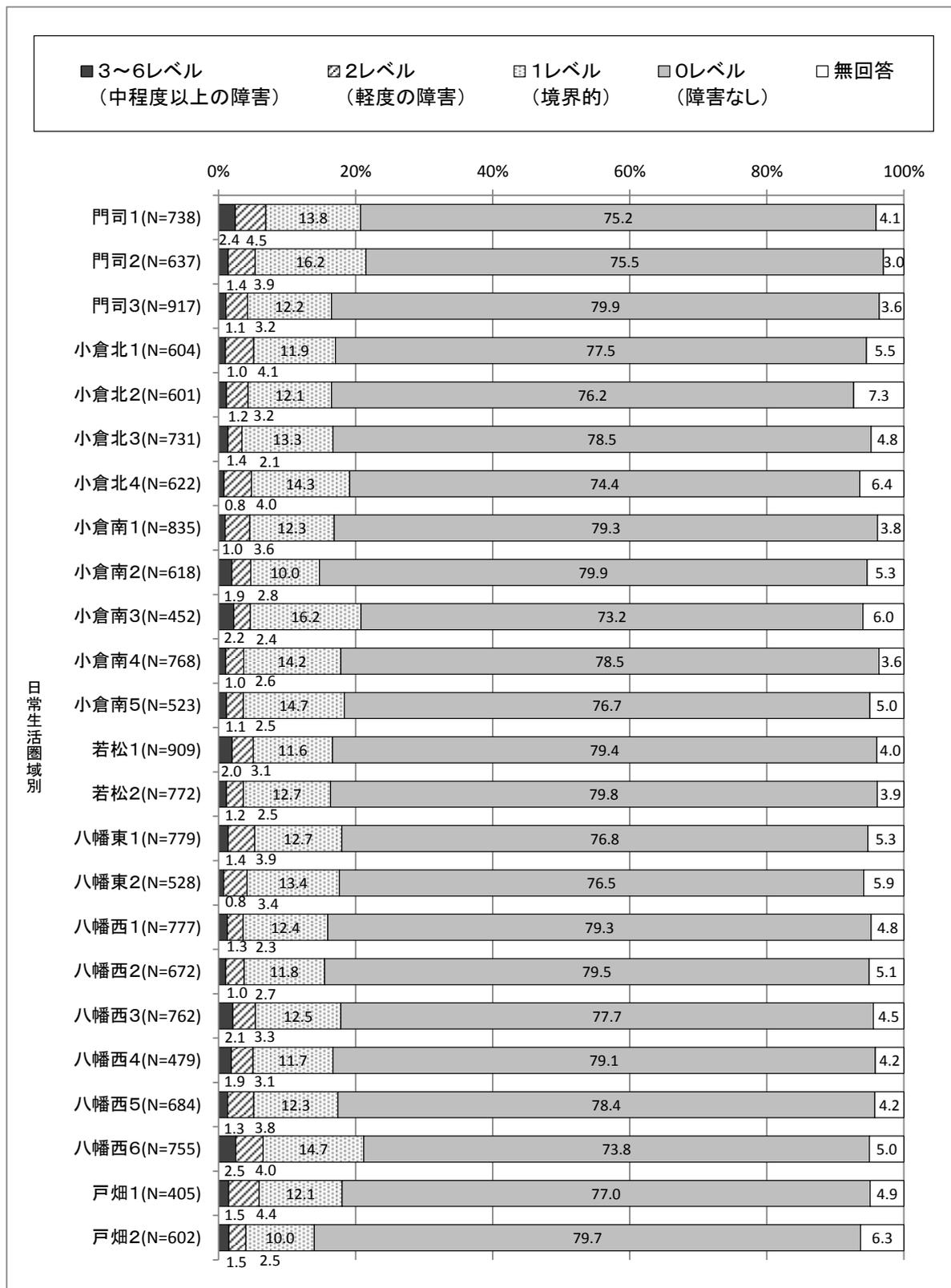
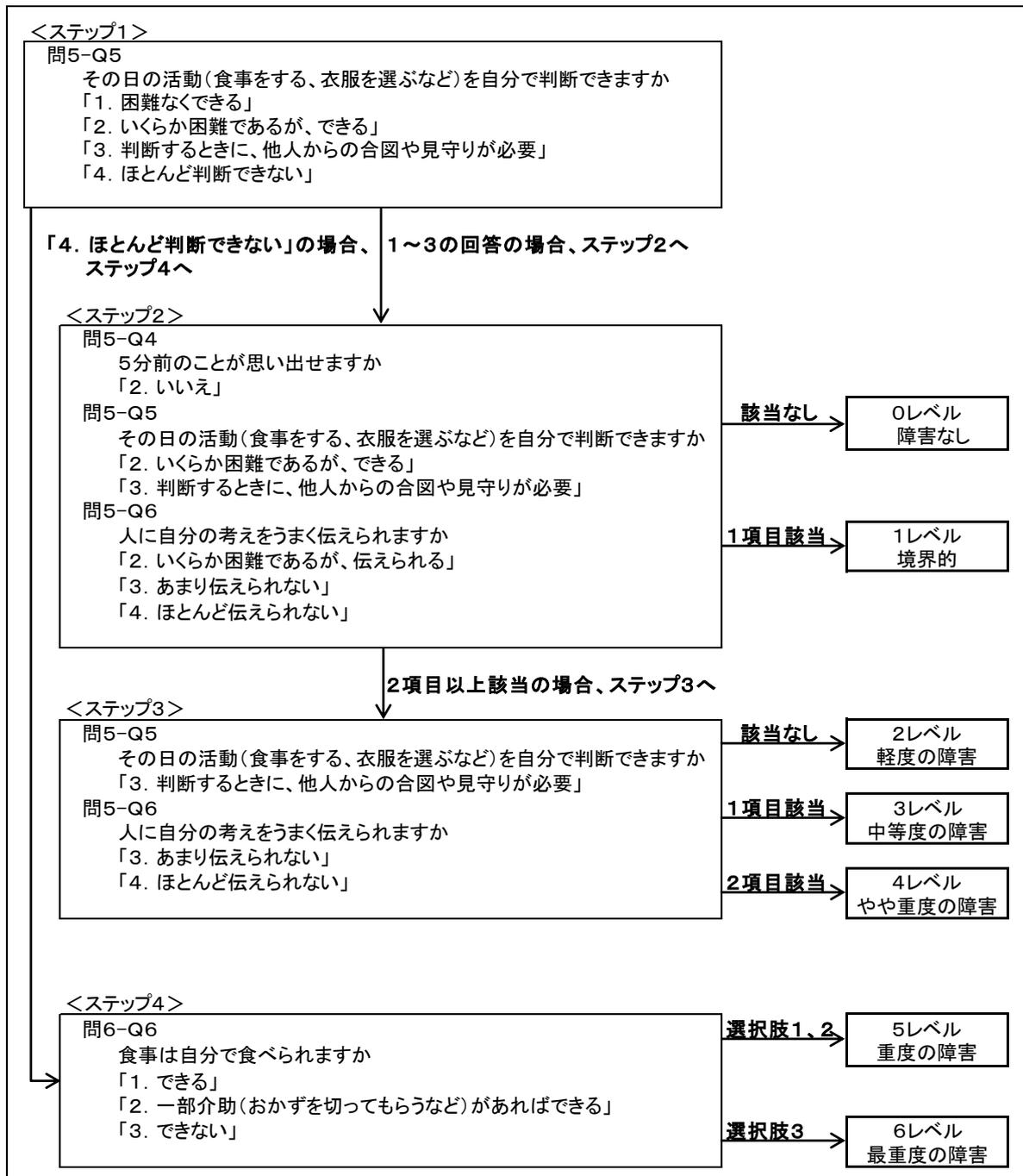


図 3-14 認知機能障害程度（CPS）の評価に用いた設問と評価基準



第4章 日常生活

1. 交流の場への参加状況

問2-Q10. お住まいの地域において、気軽に集い、おしゃべりなどをするような交流の場などに参加することがありますか

交流の場への参加については、市全体でみると「はい」の割合が34.2%となっている。「はい」の割合を男女別にみると、男性が28.6%、女性が38.6%となっており、女性の方が10.0ポイント高い。これを年齢別にみると、75～79歳が39.0%で最も高くなっている。

図4-1-① 交流の場への参加（全域）

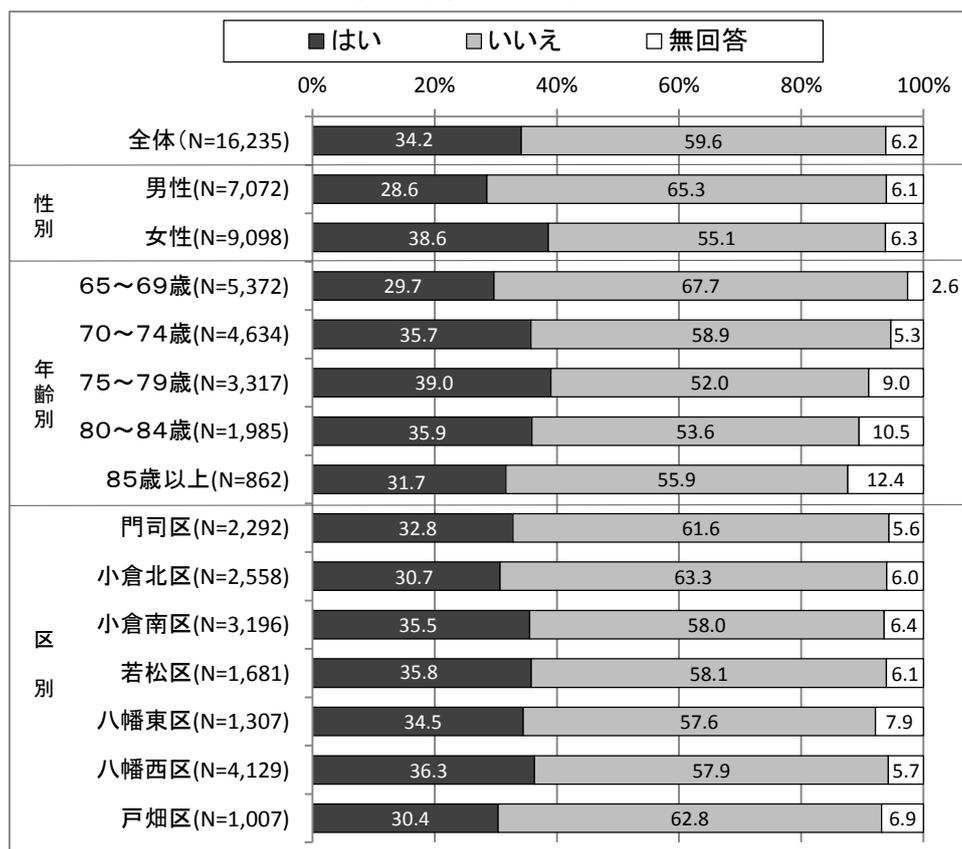
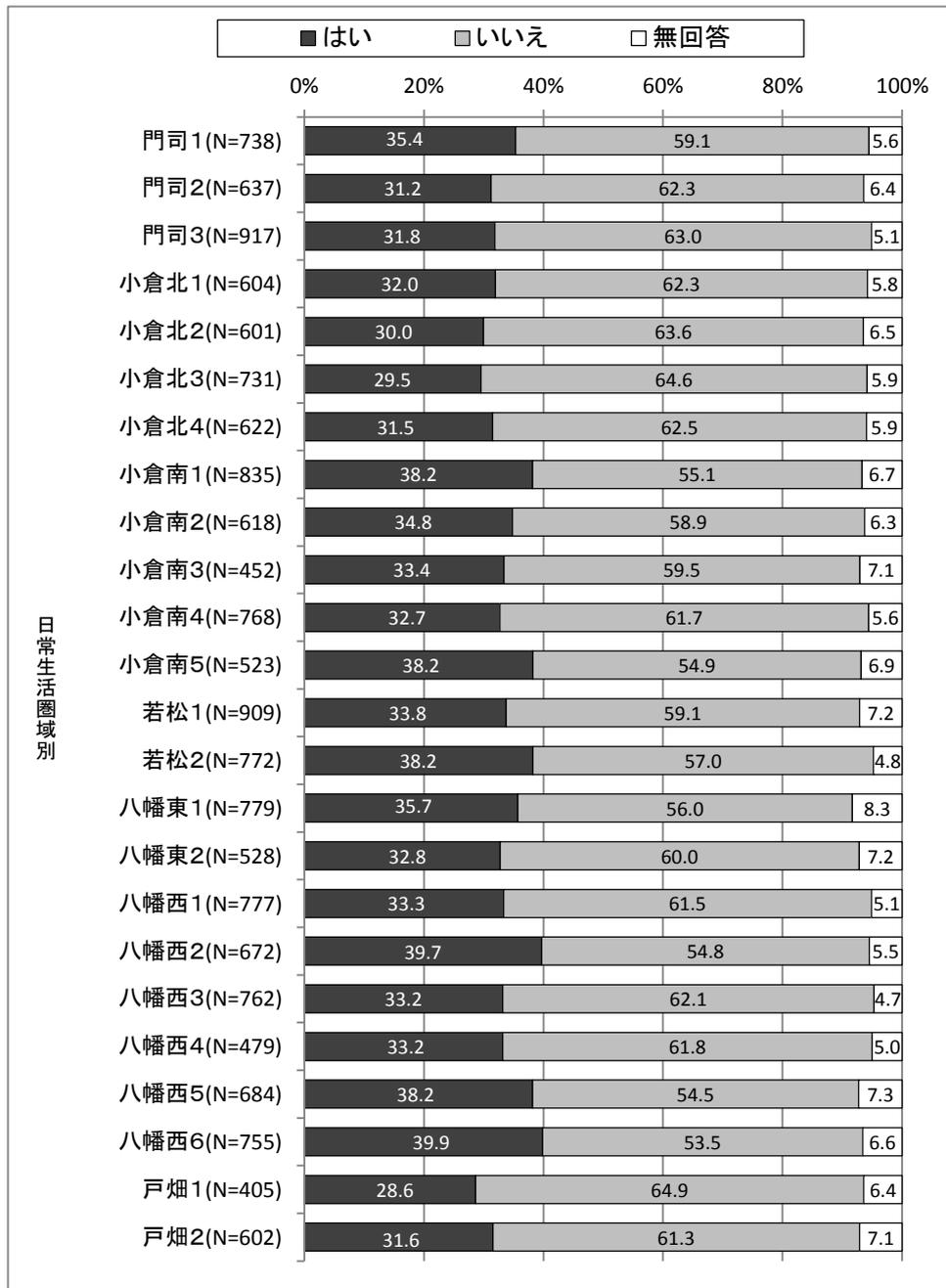


図 4-1-② 交流の場への参加（日常生活圏域別）



問 2-Q10-1. (参加している方のみ)
 どのような場所に通っていますか

通っている場所については、市全体でみると「市民センター」の割合が 50.0%で最も高く、次いで「集会所・いこいの家などの、地域のコミュニティ施設」28.9%となっている。男女別にみても順位は変わらないが、「市民センター」の割合は女性の方が 8.8 ポイント高く、「集会所・いこいの家などの、地域のコミュニティ施設」は男性の方が 10.0 ポイント高くなっている。

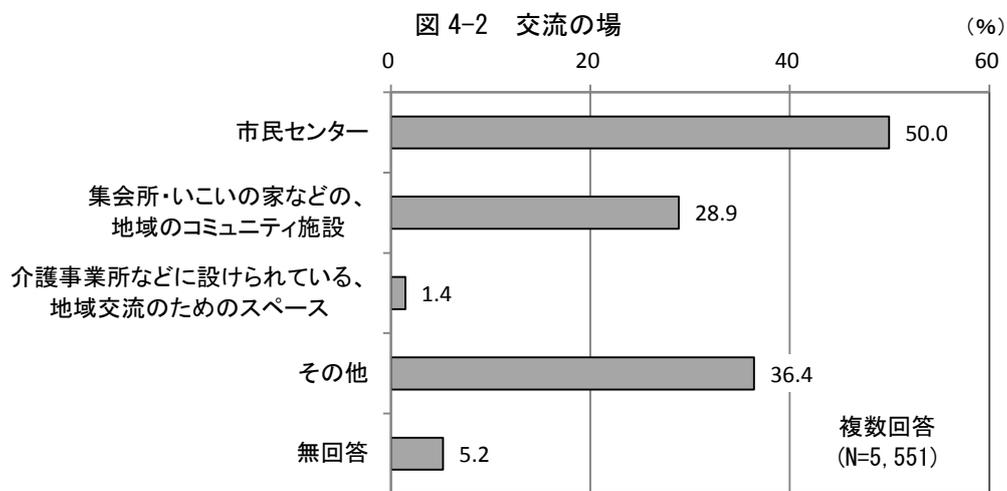


表 4-1-① 交流の場 (全域)

| | | 市民センター | 集会所・いこいの家などの、地域のコミュニティ施設 | 介護事業所などに設けられている、地域交流のためのスペース | その他 | 無回答 |
|-------------|-----------------|--------|--------------------------|------------------------------|------|-----|
| (単位: %) | | | | | | |
| 全体(N=5,551) | | 50.0 | 28.9 | 1.4 | 36.4 | 5.2 |
| 性別 | 男性(N=2,020) | 44.3 | 35.2 | 1.5 | 36.1 | 4.6 |
| | 女性(N=3,512) | 53.1 | 25.2 | 1.4 | 36.6 | 5.7 |
| 年齢別 | 65～69歳(N=1,595) | 46.9 | 22.6 | 1.0 | 41.0 | 4.8 |
| | 70～74歳(N=1,656) | 52.8 | 29.4 | 1.4 | 36.2 | 4.7 |
| | 75～79歳(N=1,295) | 50.5 | 32.9 | 1.5 | 34.1 | 6.0 |
| | 80～84歳(N=713) | 48.9 | 32.0 | 1.7 | 33.2 | 6.2 |
| | 85歳以上(N=273) | 49.1 | 35.5 | 3.3 | 30.0 | 5.5 |
| 区別 | 門司区(N=752) | 52.5 | 23.8 | 1.7 | 35.4 | 5.9 |
| | 小倉北区(N=785) | 46.1 | 29.2 | 1.9 | 39.0 | 5.4 |
| | 小倉南区(N=1,136) | 45.6 | 33.1 | 1.1 | 36.1 | 5.5 |
| | 若松区(N=602) | 50.7 | 31.6 | 1.0 | 31.7 | 5.3 |
| | 八幡東区(N=451) | 55.0 | 21.3 | 1.6 | 38.4 | 5.1 |
| | 八幡西区(N=1,500) | 50.1 | 30.6 | 1.4 | 37.0 | 4.6 |
| | 戸畑区(N=306) | 58.8 | 22.5 | 1.6 | 36.9 | 5.9 |

表 4-1-② 交流の場（日常生活圏域別）

| | | 市民センター | 集会所・いこいの家などの、地域のコミュニティ施設 | 介護事業所などに設けられている、地域交流のためのスペース | その他 | 無回答 |
|---------|-------------|--------|--------------------------|------------------------------|------|-----|
| | | | | | | |
| 日常生活圏域別 | 門司1(N=261) | 58.2 | 27.6 | 2.3 | 27.2 | 5.7 |
| | 門司2(N=199) | 55.3 | 22.1 | 1.0 | 34.7 | 4.0 |
| | 門司3(N=292) | 45.5 | 21.6 | 1.7 | 43.2 | 7.2 |
| | 小倉北1(N=193) | 44.0 | 32.1 | 2.1 | 36.3 | 5.7 |
| | 小倉北2(N=180) | 45.6 | 28.9 | 2.2 | 37.2 | 6.7 |
| | 小倉北3(N=216) | 50.5 | 22.2 | 1.4 | 43.5 | 5.6 |
| | 小倉北4(N=196) | 43.9 | 34.2 | 2.0 | 38.3 | 3.6 |
| | 小倉南1(N=319) | 52.0 | 34.8 | 1.3 | 32.3 | 5.3 |
| | 小倉南2(N=215) | 51.2 | 28.8 | 1.9 | 36.3 | 8.8 |
| | 小倉南3(N=151) | 39.1 | 31.1 | 1.3 | 38.4 | 4.6 |
| | 小倉南4(N=251) | 39.8 | 32.7 | 0.8 | 41.8 | 3.2 |
| | 小倉南5(N=200) | 41.5 | 37.0 | 0.5 | 33.0 | 6.0 |
| | 若松1(N=307) | 56.7 | 26.7 | 0.7 | 29.6 | 4.9 |
| | 若松2(N=295) | 44.4 | 36.6 | 1.4 | 33.9 | 5.8 |
| | 八幡東1(N=278) | 57.6 | 19.8 | 1.4 | 39.2 | 3.6 |
| | 八幡東2(N=173) | 50.9 | 23.7 | 1.7 | 37.0 | 7.5 |
| | 八幡西1(N=259) | 45.2 | 31.3 | 1.5 | 38.6 | 5.8 |
| | 八幡西2(N=267) | 54.3 | 33.0 | 1.1 | 34.5 | 4.9 |
| | 八幡西3(N=253) | 49.8 | 22.5 | 0.8 | 39.9 | 6.3 |
| | 八幡西4(N=159) | 58.5 | 25.2 | 1.3 | 37.7 | 3.1 |
| | 八幡西5(N=261) | 47.1 | 35.2 | 1.1 | 36.8 | 3.1 |
| | 八幡西6(N=301) | 48.8 | 33.6 | 2.3 | 35.2 | 4.0 |
| | 戸畑1(N=116) | 55.2 | 25.0 | 2.6 | 41.4 | 5.2 |
| | 戸畑2(N=190) | 61.1 | 21.1 | 1.1 | 34.2 | 6.3 |

2. 家事の状況

問 6-Q17. 家事全般ができていますか

家事全般については、市全体でみると「できている」の割合が84.0%となっている。「できている」の割合を男女別にみると、男性が77.5%、女性が89.1%となっており、女性の方が11.6ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「できている」の割合が低くなっており、85歳以上が61.5%で最も低くなっている。

図 4-3-① 家事の状況（全域）

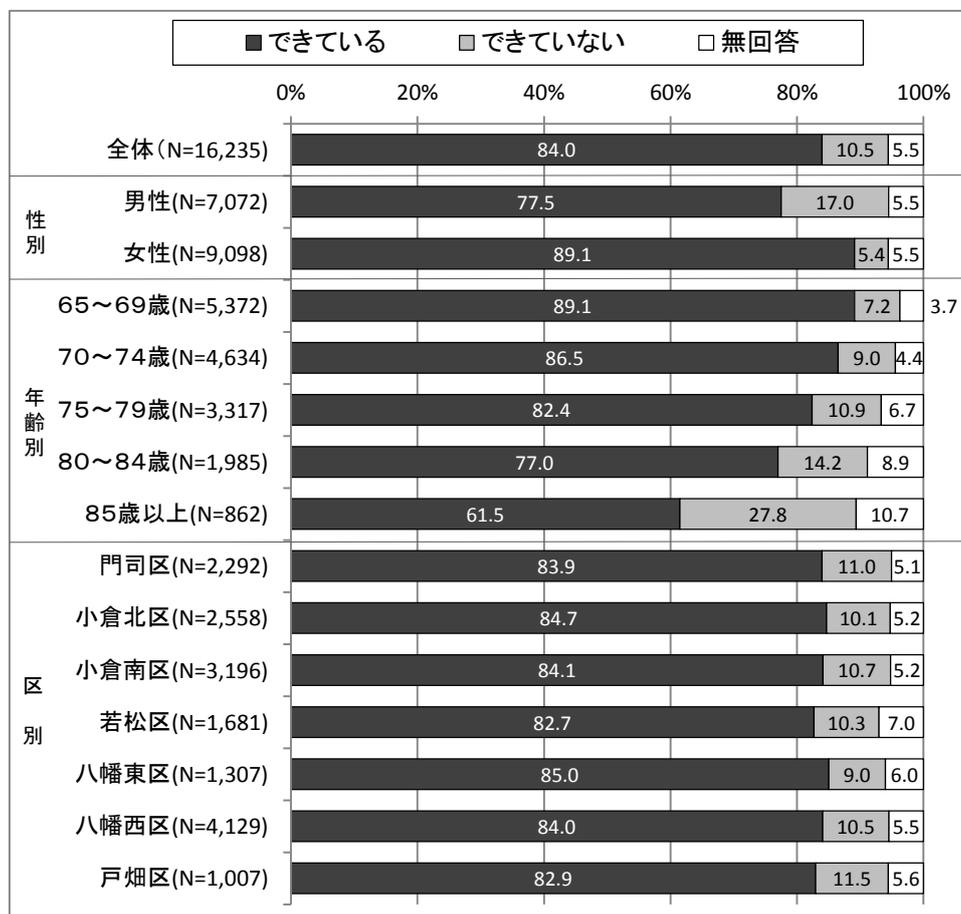
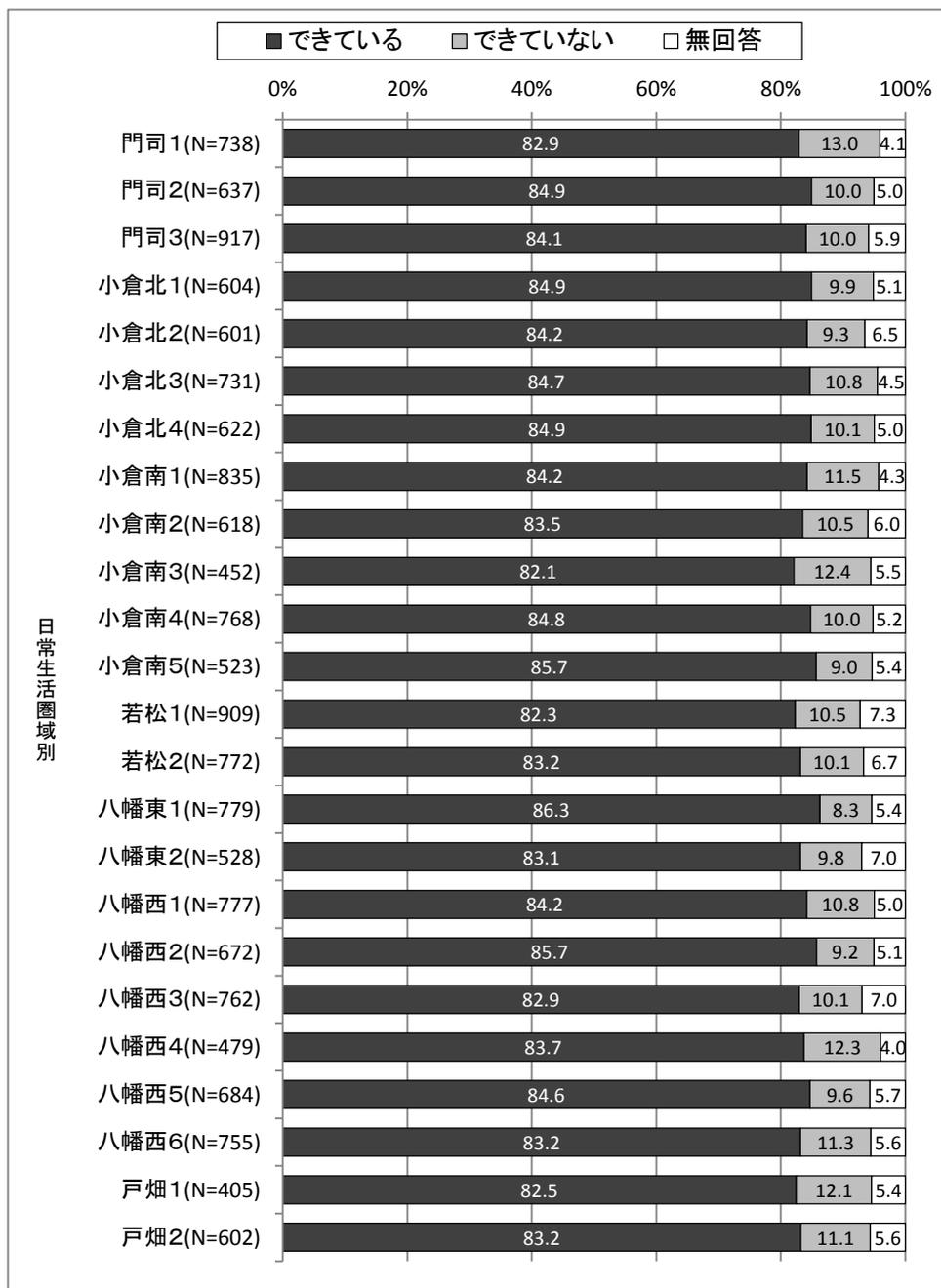


図 4-3-② 家事の状況（日常生活圏域別）



3. 生活支援サービスの利用状況

問 6-Q18. 民間企業やNPO・ボランティアなどが実施している、以下の生活支援サービスを利用していますか

市全体でみると、生活支援サービスを利用している人の割合は3.4%となっている。生活支援サービスを利用している人について、どのようなサービスを利用しているかをみると、「掃除」の割合が38.9%で最も高く、次いで「ごみ出し」33.9%、「買い物」16.5%などとなっている。

男女別にみると、男性では「ごみ出し」の割合が43.1%で最も高いが、女性では「掃除」が38.1%（男性39.5%）で最も高くなっている。

年齢別にみると、「配食サービス」を除くすべてのサービスで、85歳以上の利用率が最も高くなっている。

図 4-4 生活支援サービスの利用

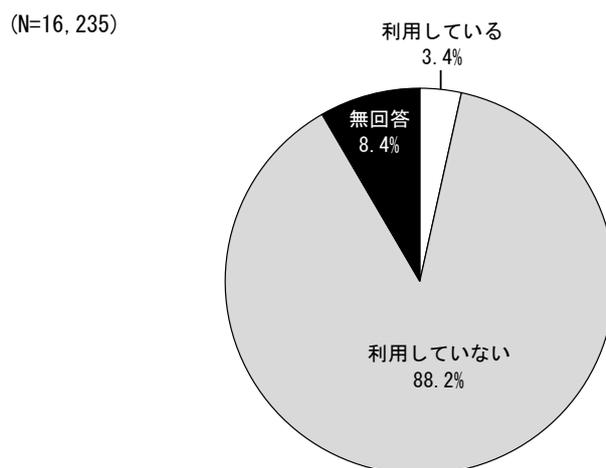


図 4-5 利用しているサービス

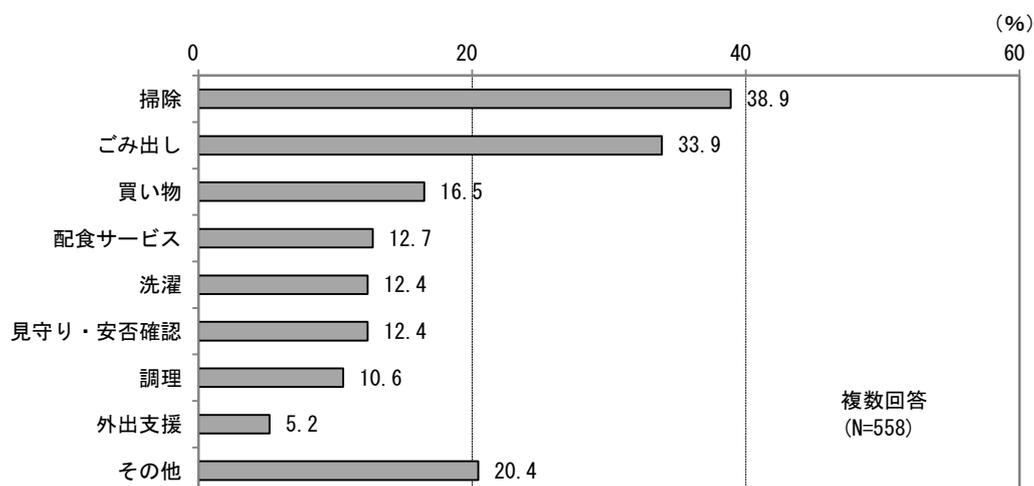


表 4-2 利用しているサービス

| (単位: %) | | 掃除 | ごみ出し | 買い物 | 配食サービス | 洗濯 | 見守り・安否確認 | 調理 | 外出支援 | その他 |
|-----------|---------------|------|------|------|--------|------|----------|------|------|------|
| 全体(N=558) | | 38.9 | 33.9 | 16.5 | 12.7 | 12.4 | 12.4 | 10.6 | 5.2 | 20.4 |
| 性別 | 男性(N=281) | 39.5 | 43.1 | 17.1 | 12.1 | 12.1 | 13.2 | 9.3 | 5.0 | 15.3 |
| | 女性(N=273) | 38.1 | 24.2 | 16.1 | 13.6 | 12.8 | 11.4 | 11.7 | 5.5 | 25.6 |
| 年齢別 | 65～69歳(N=82) | 32.9 | 35.4 | 9.8 | 8.5 | 7.3 | 13.4 | 4.9 | 6.1 | 22.0 |
| | 70～74歳(N=127) | 32.3 | 38.6 | 14.2 | 11.8 | 9.4 | 11.8 | 7.9 | 4.7 | 15.7 |
| | 75～79歳(N=149) | 43.6 | 28.9 | 18.8 | 12.8 | 11.4 | 12.8 | 10.1 | 3.4 | 24.8 |
| | 80～84歳(N=129) | 39.5 | 30.2 | 17.1 | 16.3 | 17.1 | 10.1 | 12.4 | 4.7 | 19.4 |
| | 85歳以上(N=67) | 46.3 | 40.3 | 23.9 | 13.4 | 17.9 | 14.9 | 19.4 | 10.4 | 19.4 |
| 区別 | 門司区(N=74) | 37.8 | 35.1 | 20.3 | 14.9 | 9.5 | 9.5 | 9.5 | 6.8 | 17.6 |
| | 小倉北区(N=88) | 34.1 | 37.5 | 13.6 | 12.5 | 11.4 | 9.1 | 10.2 | 3.4 | 14.8 |
| | 小倉南区(N=115) | 39.1 | 30.4 | 14.8 | 11.3 | 13.9 | 12.2 | 12.2 | 4.3 | 23.5 |
| | 若松区(N=55) | 32.7 | 32.7 | 18.2 | 16.4 | 14.5 | 10.9 | 7.3 | 3.6 | 29.1 |
| | 八幡東区(N=65) | 46.2 | 24.6 | 12.3 | 9.2 | 9.2 | 15.4 | 7.7 | 4.6 | 20.0 |
| | 八幡西区(N=124) | 41.1 | 39.5 | 20.2 | 12.1 | 15.3 | 13.7 | 12.9 | 5.6 | 19.4 |
| | 戸畑区(N=33) | 39.4 | 30.3 | 15.2 | 18.2 | 9.1 | 18.2 | 9.1 | 12.1 | 21.2 |
| 日常生活圏域別 | 門司1(N=22) | 50.0 | 54.5 | 22.7 | 4.5 | 4.5 | 9.1 | 9.1 | 13.6 | 13.6 |
| | 門司2(N=18) | 50.0 | 33.3 | 22.2 | 16.7 | 16.7 | 11.1 | 11.1 | 0.0 | 11.1 |
| | 門司3(N=34) | 23.5 | 23.5 | 17.6 | 20.6 | 8.8 | 8.8 | 8.8 | 5.9 | 23.5 |
| | 小倉北1(N=20) | 35.0 | 25.0 | 10.0 | 15.0 | 5.0 | 10.0 | 5.0 | 5.0 | 15.0 |
| | 小倉北2(N=20) | 20.0 | 40.0 | 10.0 | 25.0 | 10.0 | 10.0 | 5.0 | 0.0 | 10.0 |
| | 小倉北3(N=20) | 35.0 | 30.0 | 15.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 |
| | 小倉北4(N=28) | 42.9 | 50.0 | 17.9 | 3.6 | 17.9 | 7.1 | 17.9 | 0.0 | 21.4 |
| | 小倉南1(N=25) | 48.0 | 24.0 | 8.0 | 8.0 | 4.0 | 16.0 | 16.0 | 12.0 | 16.0 |
| | 小倉南2(N=24) | 33.3 | 20.8 | 4.2 | 8.3 | 8.3 | 20.8 | 8.3 | 0.0 | 37.5 |
| | 小倉南3(N=20) | 45.0 | 40.0 | 10.0 | 10.0 | 20.0 | 0.0 | 15.0 | 0.0 | 20.0 |
| | 小倉南4(N=23) | 43.5 | 30.4 | 26.1 | 13.0 | 17.4 | 4.3 | 13.0 | 0.0 | 17.4 |
| | 小倉南5(N=23) | 26.1 | 39.1 | 26.1 | 17.4 | 21.7 | 17.4 | 8.7 | 8.7 | 26.1 |
| | 若松1(N=33) | 21.2 | 24.2 | 18.2 | 24.2 | 12.1 | 9.1 | 3.0 | 3.0 | 33.3 |
| | 若松2(N=22) | 50.0 | 45.5 | 18.2 | 4.5 | 18.2 | 13.6 | 13.6 | 4.5 | 22.7 |
| | 八幡東1(N=32) | 53.1 | 21.9 | 25.0 | 12.5 | 18.8 | 12.5 | 12.5 | 3.1 | 18.8 |
| | 八幡東2(N=33) | 39.4 | 27.3 | 0.0 | 6.1 | 0.0 | 18.2 | 3.0 | 6.1 | 21.2 |
| | 八幡西1(N=26) | 42.3 | 30.8 | 19.2 | 11.5 | 19.2 | 19.2 | 19.2 | 3.8 | 34.6 |
| | 八幡西2(N=18) | 33.3 | 44.4 | 38.9 | 11.1 | 22.2 | 11.1 | 16.7 | 11.1 | 11.1 |
| | 八幡西3(N=24) | 54.2 | 29.2 | 16.7 | 25.0 | 12.5 | 8.3 | 12.5 | 4.2 | 8.3 |
| | 八幡西4(N=10) | 50.0 | 30.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 20.0 | 0.0 | 40.0 |
| | 八幡西5(N=23) | 60.9 | 39.1 | 17.4 | 8.7 | 17.4 | 13.0 | 4.3 | 8.7 | 13.0 |
| | 八幡西6(N=23) | 8.7 | 60.9 | 17.4 | 4.3 | 8.7 | 17.4 | 8.7 | 4.3 | 17.4 |
| | 戸畑1(N=13) | 30.8 | 23.1 | 15.4 | 7.7 | 0.0 | 23.1 | 7.7 | 7.7 | 23.1 |
| | 戸畑2(N=20) | 45.0 | 35.0 | 15.0 | 25.0 | 15.0 | 15.0 | 10.0 | 15.0 | 20.0 |

問 6-Q18-1. 利用しているサービス以外で、利用したいものがありますか

市全体でみると、利用しているサービス以外で利用したいものがある人の割合は7.1%となっている。

利用したいものがある人について、どのような生活支援サービスを利用したいかをみると、「掃除」の割合が44.5%で最も高く、次いで「見守り・安否確認」17.5%、「ごみ出し」15.2%、「配食サービス」15.0%、「買い物」14.5%などとなっている。

男女別にみると、「掃除」の割合は女性の方が高いが、「見守り・安否確認」、「ごみ出し」、「配食サービス」などは男性の方が高くなっている。

年齢別にみると、80歳以上の年齢層で「ごみ出し」、「買い物」などの割合が高い傾向がみられる。

図 4-6 利用したいサービスの有無

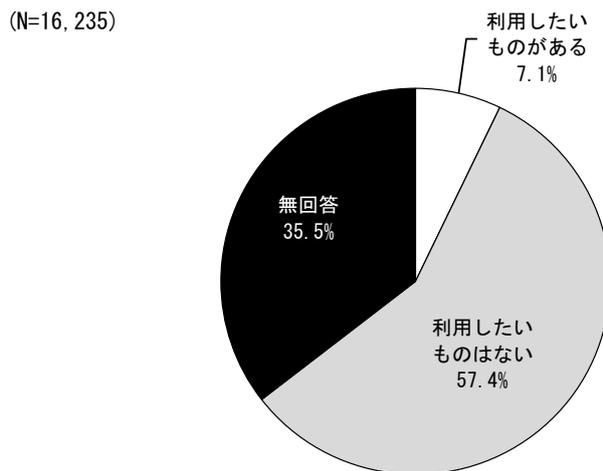


図 4-7 利用したいサービス

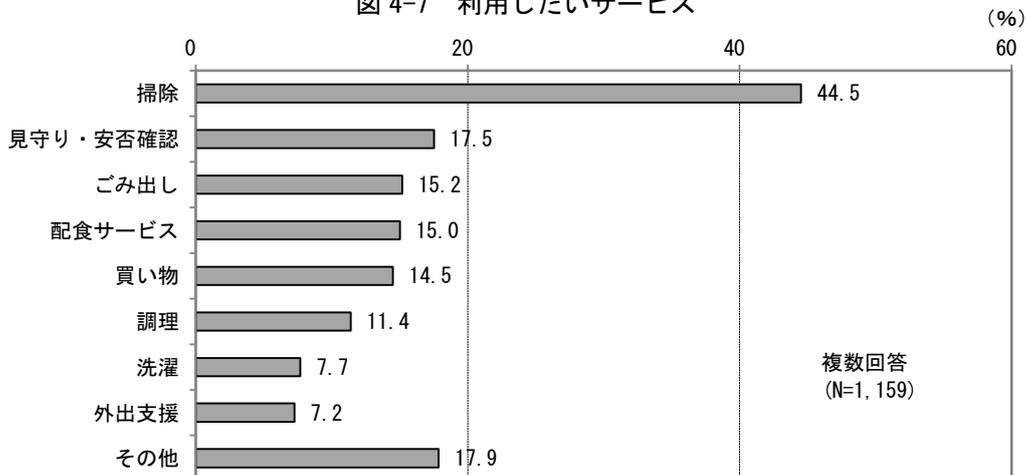


表 4-3 利用したいサービス

| (単位: %) | | 掃除 | 見守り・ 安否確認 | ごみ出し | 配食 サービス | 買い物 | 調理 | 洗濯 | 外出支援 | その他 |
|-------------|---------------|------|--------------|------|------------|------|------|------|------|------|
| 全体(N=1,159) | | 44.5 | 17.5 | 15.2 | 15.0 | 14.5 | 11.4 | 7.7 | 7.2 | 17.9 |
| 性別 | 男性(N=448) | 36.4 | 21.0 | 17.9 | 17.2 | 15.0 | 15.6 | 9.4 | 6.7 | 16.1 |
| | 女性(N=704) | 49.7 | 15.3 | 13.6 | 13.6 | 14.2 | 8.8 | 6.7 | 7.7 | 18.9 |
| 年齢別 | 65～69歳(N=218) | 41.3 | 18.8 | 12.4 | 17.4 | 14.7 | 14.2 | 6.0 | 6.4 | 18.3 |
| | 70～74歳(N=249) | 42.2 | 20.5 | 12.0 | 15.3 | 10.0 | 10.8 | 6.0 | 5.6 | 15.7 |
| | 75～79歳(N=306) | 46.4 | 19.6 | 14.4 | 15.0 | 14.4 | 9.2 | 5.6 | 5.2 | 19.0 |
| | 80～84歳(N=251) | 46.6 | 13.1 | 20.3 | 11.6 | 17.5 | 12.4 | 11.2 | 9.6 | 18.7 |
| | 85歳以上(N=128) | 46.1 | 13.3 | 18.8 | 17.2 | 17.2 | 11.7 | 12.5 | 12.5 | 16.4 |
| 区別 | 門司区(N=168) | 44.0 | 17.9 | 16.7 | 13.7 | 14.3 | 13.1 | 10.7 | 10.7 | 22.0 |
| | 小倉北区(N=196) | 52.0 | 19.4 | 15.3 | 15.3 | 18.4 | 12.8 | 9.2 | 5.1 | 15.8 |
| | 小倉南区(N=226) | 43.4 | 18.1 | 15.0 | 20.8 | 12.8 | 12.4 | 4.4 | 9.3 | 14.6 |
| | 若松区(N=113) | 41.6 | 10.6 | 12.4 | 13.3 | 13.3 | 9.7 | 8.0 | 5.3 | 25.7 |
| | 八幡東区(N=90) | 44.4 | 15.6 | 15.6 | 7.8 | 11.1 | 4.4 | 4.4 | 3.3 | 18.9 |
| | 八幡西区(N=281) | 43.1 | 15.7 | 16.4 | 13.9 | 15.7 | 11.4 | 7.8 | 6.4 | 17.4 |
| | 戸畑区(N=78) | 39.7 | 29.5 | 12.8 | 15.4 | 11.5 | 12.8 | 10.3 | 10.3 | 11.5 |
| 日常生活圏域別 | 門司1(N=46) | 39.1 | 15.2 | 10.9 | 19.6 | 15.2 | 10.9 | 8.7 | 13.0 | 23.9 |
| | 門司2(N=54) | 51.9 | 18.5 | 18.5 | 9.3 | 14.8 | 13.0 | 13.0 | 9.3 | 14.8 |
| | 門司3(N=68) | 41.2 | 19.1 | 19.1 | 13.2 | 13.2 | 14.7 | 10.3 | 10.3 | 26.5 |
| | 小倉北1(N=51) | 56.9 | 19.6 | 7.8 | 21.6 | 17.6 | 9.8 | 2.0 | 7.8 | 9.8 |
| | 小倉北2(N=43) | 51.2 | 18.6 | 23.3 | 7.0 | 11.6 | 9.3 | 7.0 | 2.3 | 18.6 |
| | 小倉北3(N=55) | 56.4 | 21.8 | 10.9 | 10.9 | 9.1 | 9.1 | 10.9 | 7.3 | 16.4 |
| | 小倉北4(N=47) | 42.6 | 17.0 | 21.3 | 21.3 | 36.2 | 23.4 | 17.0 | 2.1 | 19.1 |
| | 小倉南1(N=66) | 56.1 | 16.7 | 13.6 | 13.6 | 10.6 | 9.1 | 4.5 | 10.6 | 15.2 |
| | 小倉南2(N=46) | 43.5 | 8.7 | 19.6 | 28.3 | 10.9 | 8.7 | 2.2 | 13.0 | 8.7 |
| | 小倉南3(N=40) | 45.0 | 25.0 | 15.0 | 25.0 | 17.5 | 17.5 | 7.5 | 7.5 | 12.5 |
| | 小倉南4(N=55) | 34.5 | 18.2 | 14.5 | 21.8 | 7.3 | 14.5 | 3.6 | 7.3 | 20.0 |
| | 小倉南5(N=19) | 21.1 | 31.6 | 10.5 | 15.8 | 31.6 | 15.8 | 5.3 | 5.3 | 15.8 |
| | 若松1(N=63) | 47.6 | 7.9 | 9.5 | 15.9 | 17.5 | 12.7 | 9.5 | 4.8 | 22.2 |
| | 若松2(N=50) | 34.0 | 14.0 | 16.0 | 10.0 | 8.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 30.0 |
| | 八幡東1(N=47) | 38.3 | 17.0 | 17.0 | 6.4 | 10.6 | 4.3 | 2.1 | 6.4 | 23.4 |
| | 八幡東2(N=43) | 51.2 | 14.0 | 14.0 | 9.3 | 11.6 | 4.7 | 7.0 | 0.0 | 14.0 |
| | 八幡西1(N=51) | 39.2 | 15.7 | 13.7 | 15.7 | 13.7 | 11.8 | 7.8 | 3.9 | 17.6 |
| | 八幡西2(N=42) | 42.9 | 16.7 | 19.0 | 16.7 | 11.9 | 7.1 | 7.1 | 0.0 | 19.0 |
| | 八幡西3(N=47) | 38.3 | 14.9 | 19.1 | 12.8 | 17.0 | 17.0 | 8.5 | 8.5 | 14.9 |
| | 八幡西4(N=43) | 53.5 | 14.0 | 16.3 | 9.3 | 18.6 | 4.7 | 11.6 | 9.3 | 14.0 |
| | 八幡西5(N=40) | 52.5 | 12.5 | 7.5 | 12.5 | 7.5 | 10.0 | 5.0 | 7.5 | 22.5 |
| | 八幡西6(N=58) | 36.2 | 19.0 | 20.7 | 15.5 | 22.4 | 15.5 | 6.9 | 8.6 | 17.2 |
| | 戸畑1(N=33) | 33.3 | 33.3 | 6.1 | 15.2 | 18.2 | 18.2 | 9.1 | 6.1 | 12.1 |
| | 戸畑2(N=45) | 44.4 | 26.7 | 17.8 | 15.6 | 6.7 | 8.9 | 11.1 | 13.3 | 11.1 |

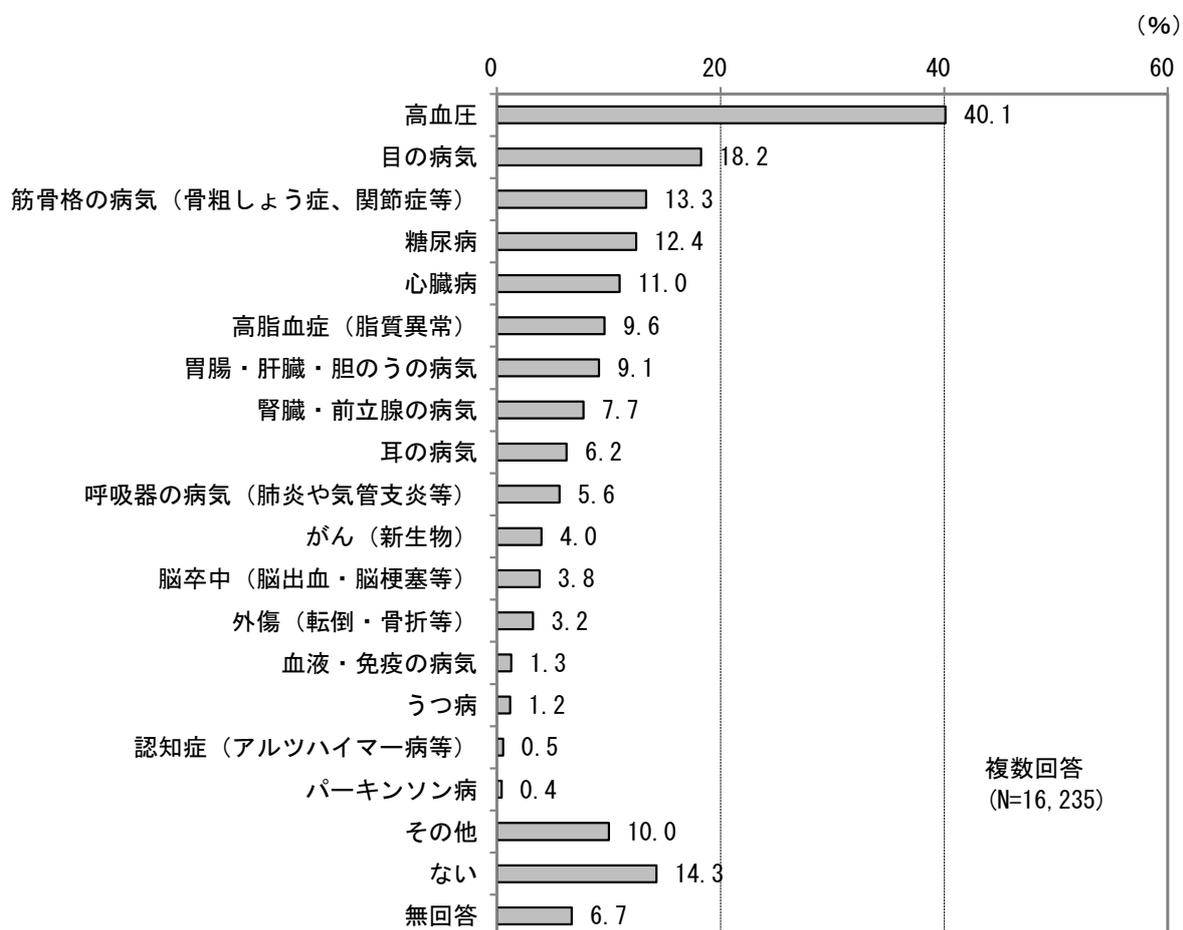
第5章 健康・疾病

1. 疾病

問 8-Q2. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか

現在治療中、または後遺症のある病気については、市全体でみると「高血圧」の割合が40.1%で最も高く、次いで「目の病気」18.2%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」13.3%、「糖尿病」12.4%、「心臓病」11.0%などとなっている。

図 5-1 治療中または後遺症のある病気



(1) 高血圧

高血圧の有病率は、市全体で見ると 40.1%となっている。男女別にみると、男性が 41.7%、女性が 39.0%となっており、男性の方が 2.7 ポイント高い。年齢別にみると、75 歳以上の年齢層で有病率が高くなっている。

図 5-2-① 高血圧の有病率（全域）

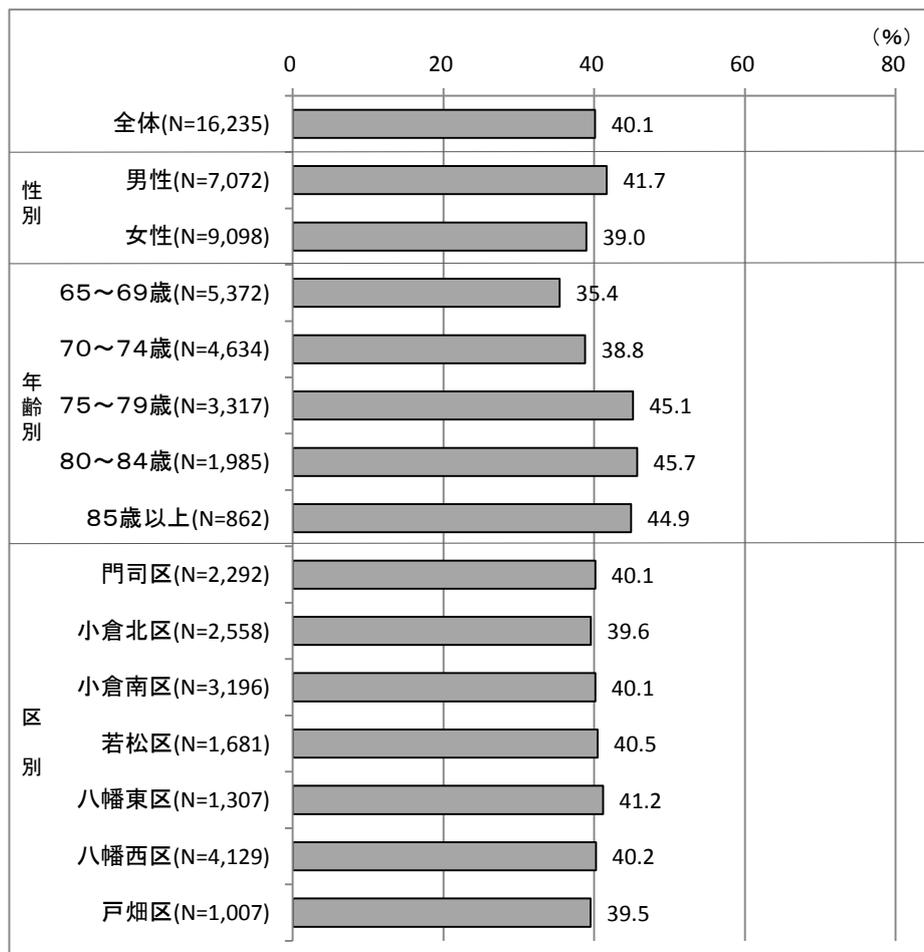
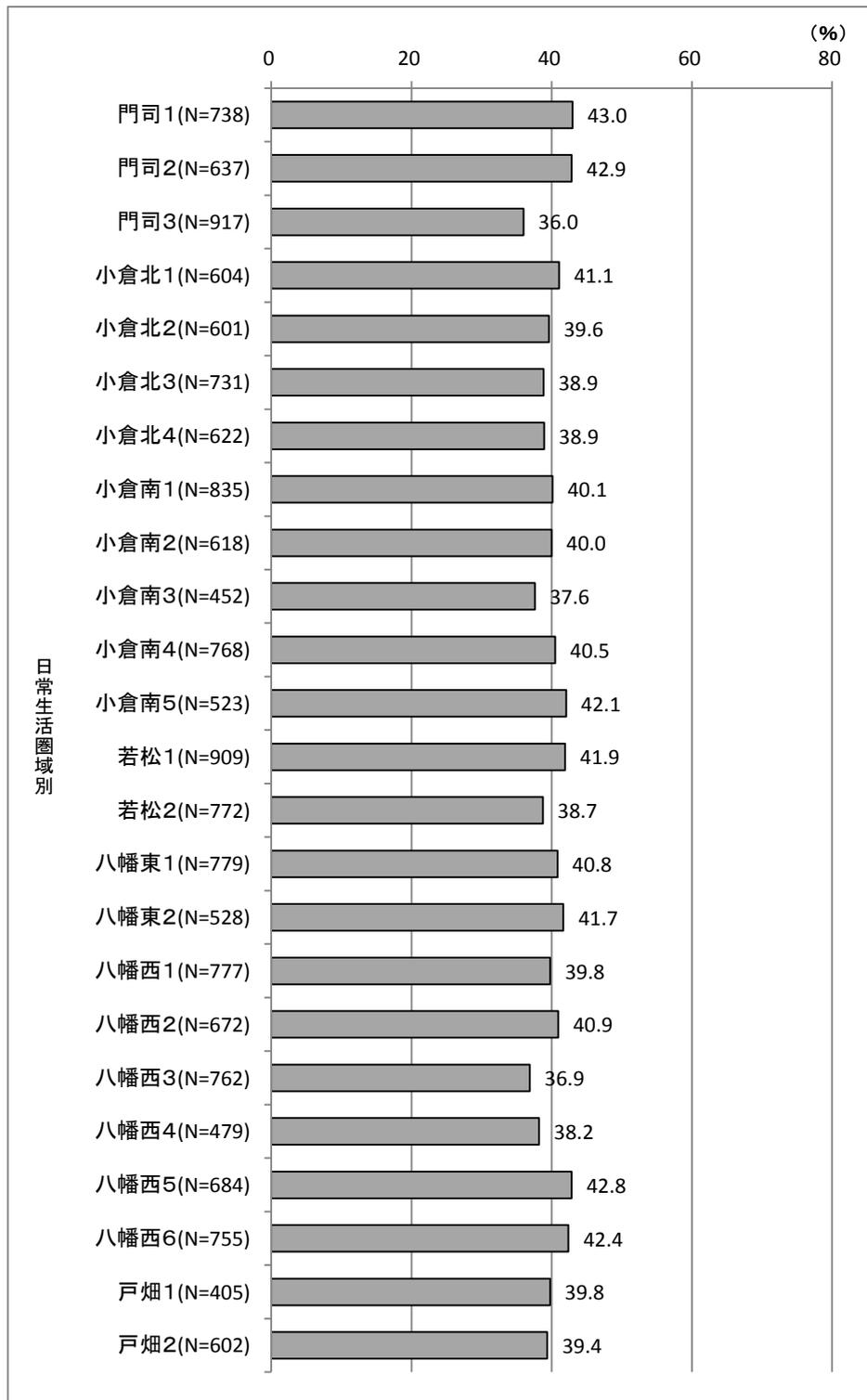


図 5-2-② 高血圧の有病率（日常生活圏域別）



(2) 脳卒中

脳卒中（脳出血・脳梗塞等）の有病率は、市全体で見ると3.8%となっている。男女別にみると、男性が5.6%、女性が2.4%となっており、男性の方が3.2ポイント高い。年齢別にみると、75歳以上の年齢層で有病率が高い傾向がみられる。

図 5-3-① 脳卒中の有病率（全域）

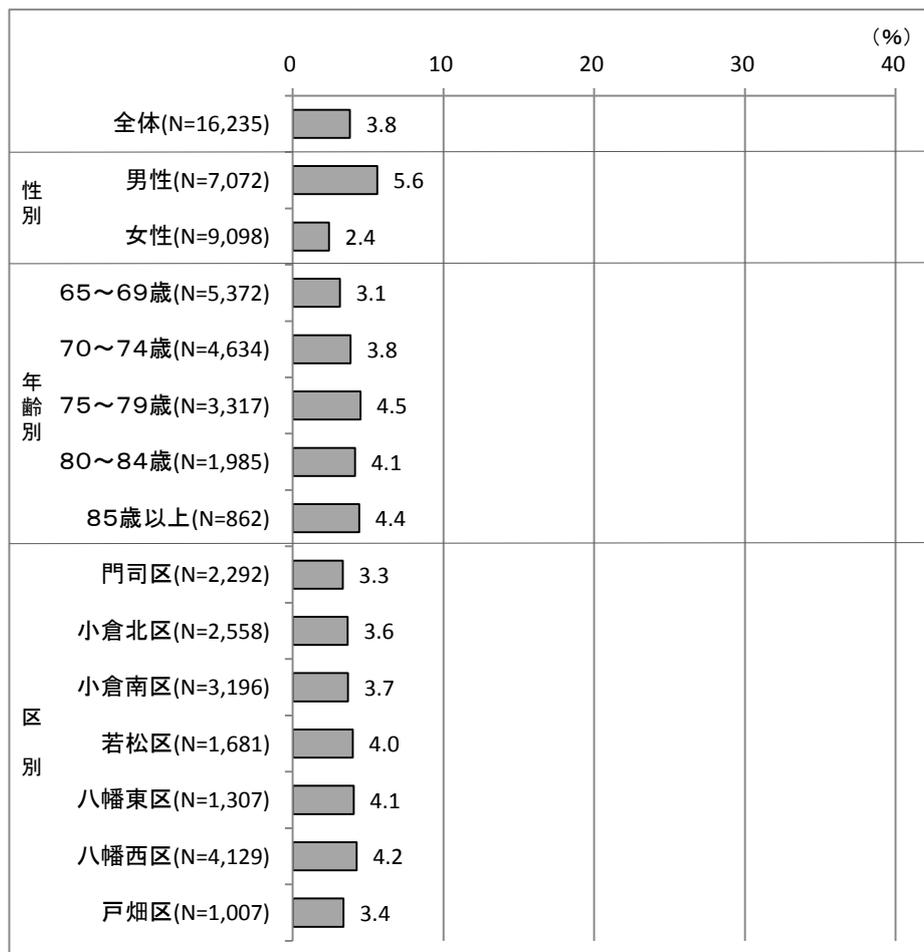
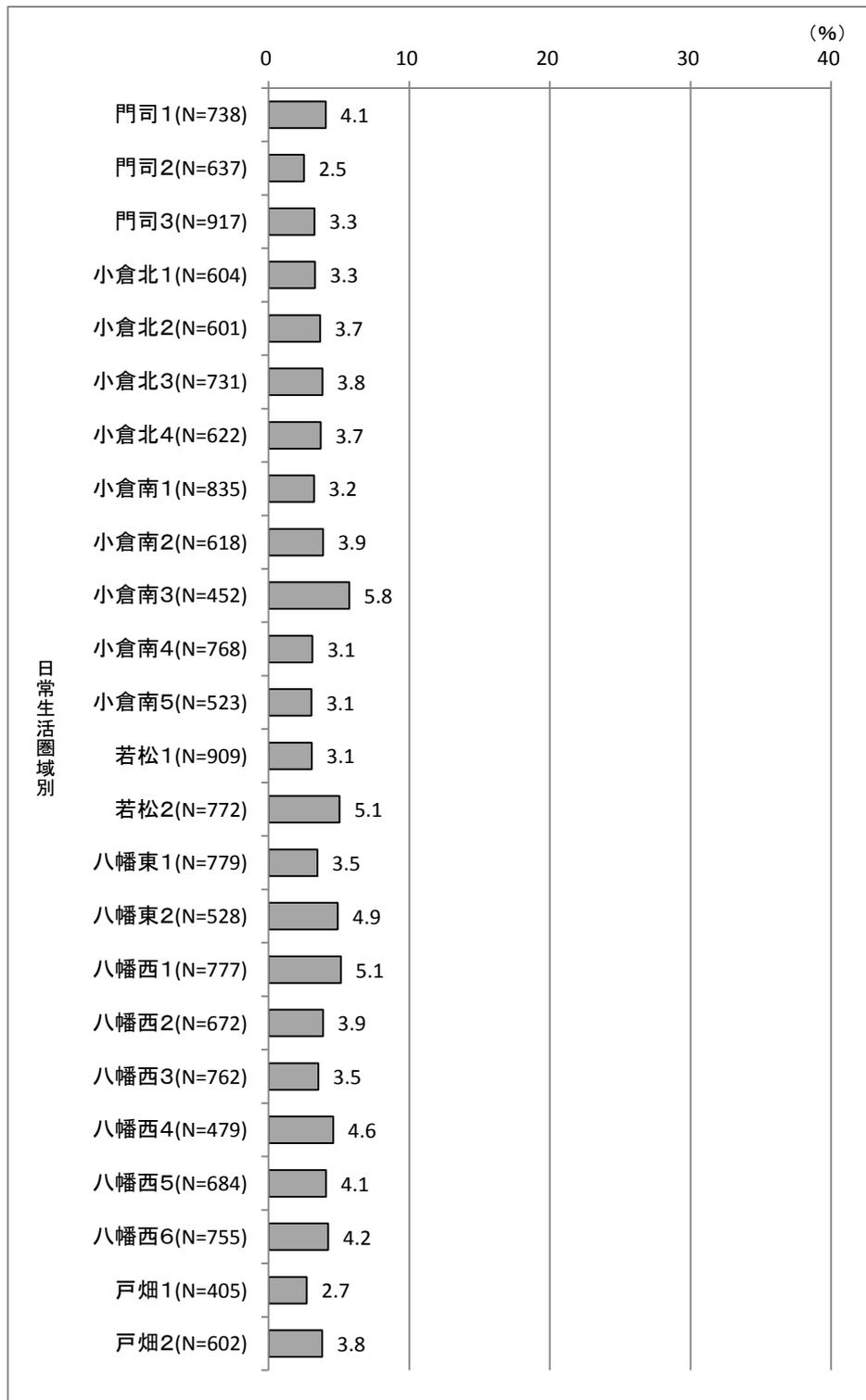


図 5-3-② 脳卒中の有病率（日常生活圏域別）



(3) 心臓病

心臓病についてみると、市全体の有病率は11.0%となっている。男女別にみると、男性が14.4%、女性が8.3%となっており、男性の方が6.1ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって高くなっている。

図 5-4-① 心臓病の有病率（全域）

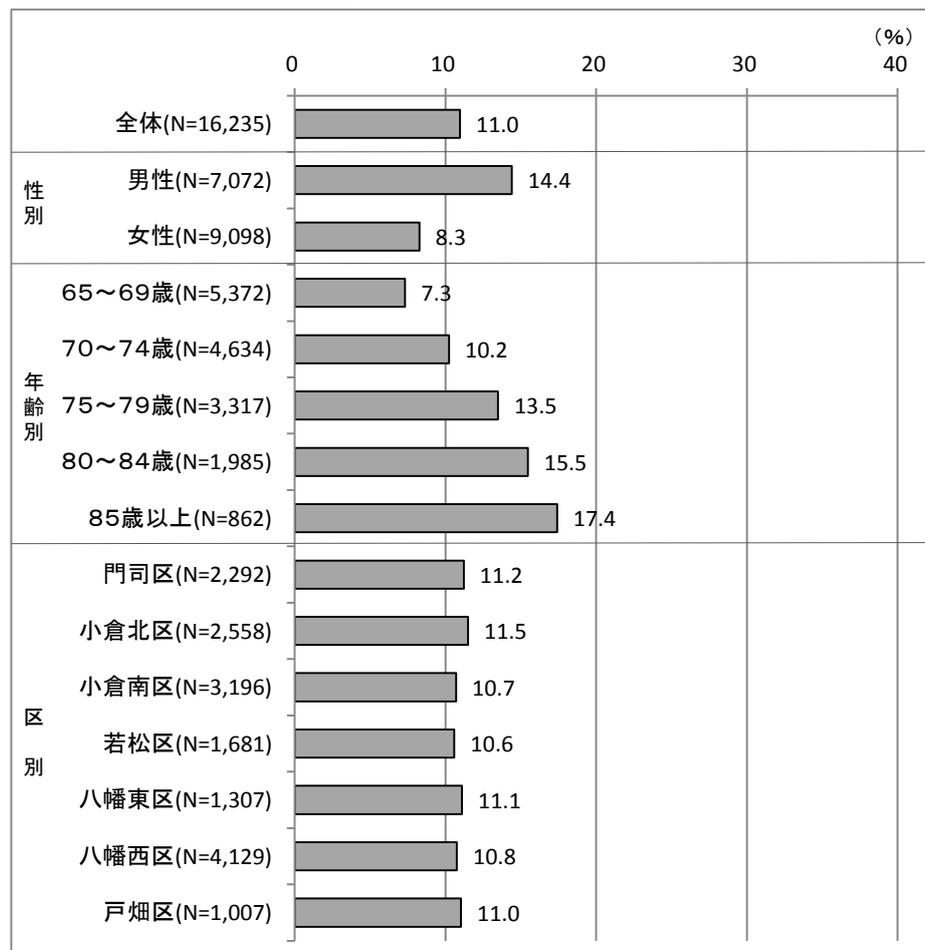
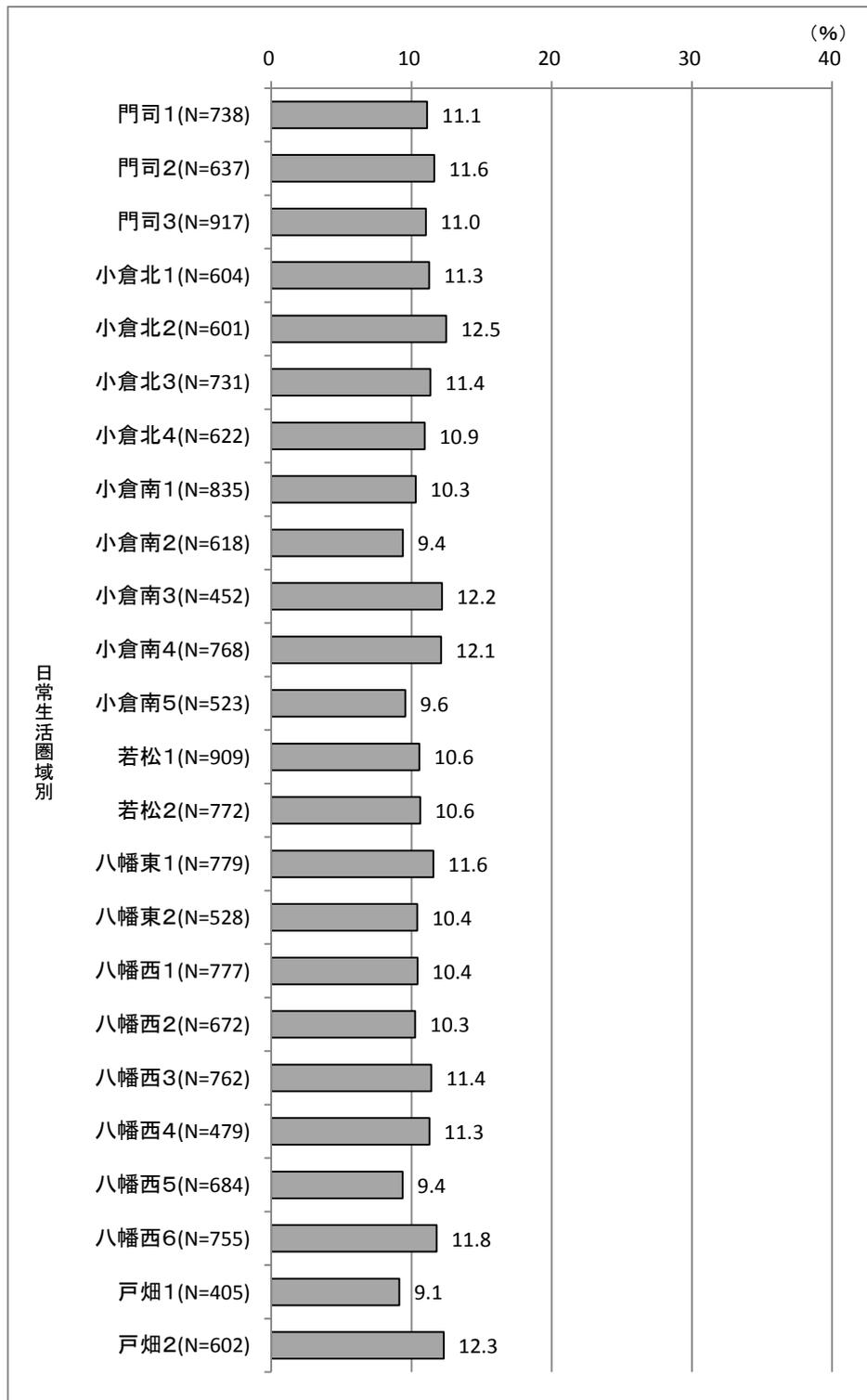


図 5-4-② 心臓病の有病率（日常生活圏域別）



(4) 糖尿病

糖尿病についてみると、市全体の有病率は12.4%となっている。男女別にみると、男性が16.6%、女性が9.2%となっており、男性の方が7.4ポイント高い。年齢別にみると、85歳以上が9.0%と最も低く、その他の年齢層では顕著な差はみられない。

図 5-5-① 糖尿病の有病率（全域）

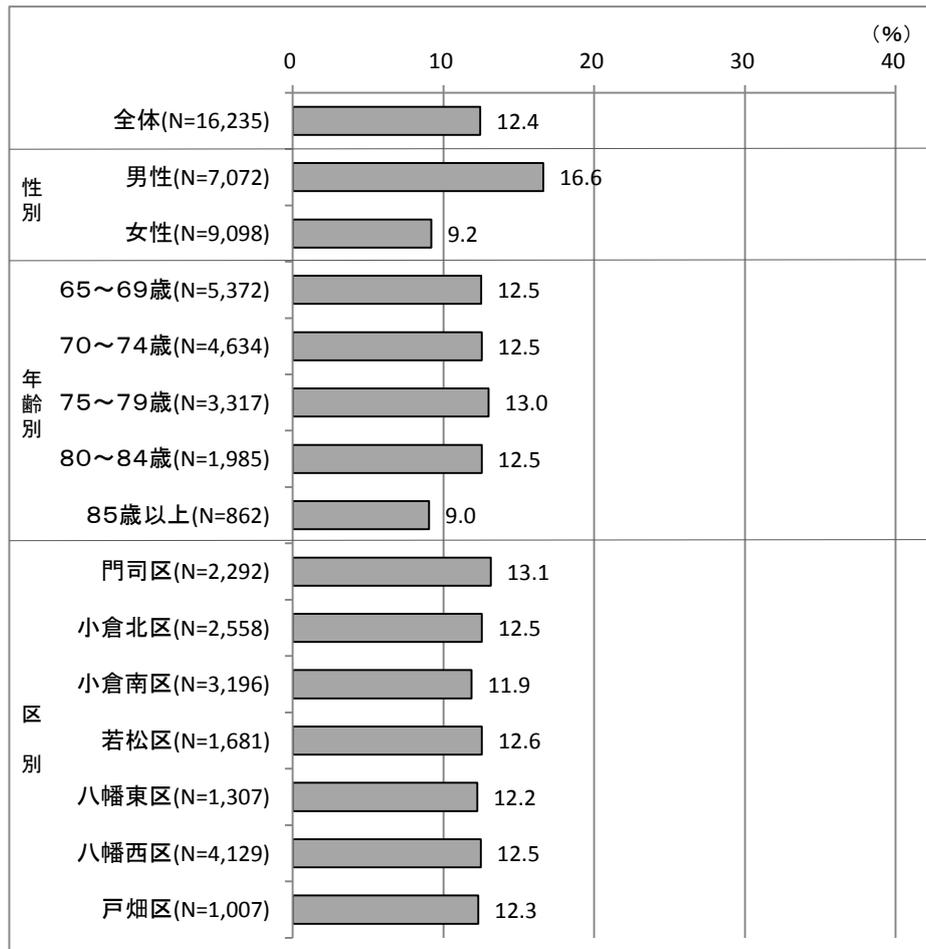
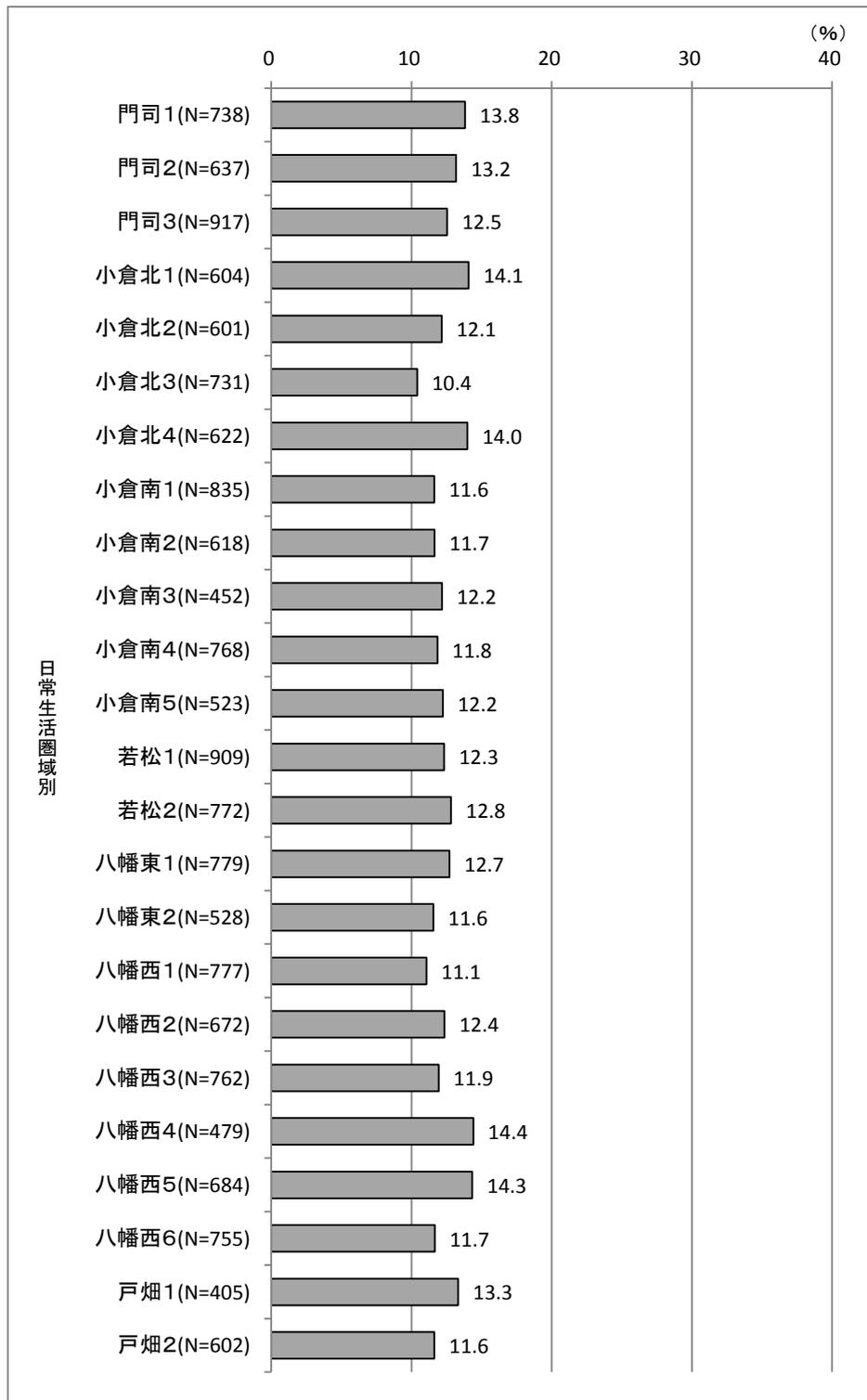


図 5-5-② 糖尿病の有病率（日常生活圏域別）



(5) 筋骨格の病気

筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）の有病率は、市全体で見ると13.3%となっている。男女別にみると、男性が5.8%、女性が19.2%となっており、女性の方が13.4ポイント高い。年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって高くなっている。

図 5-6-① 筋骨格の病気の有病率（全域）

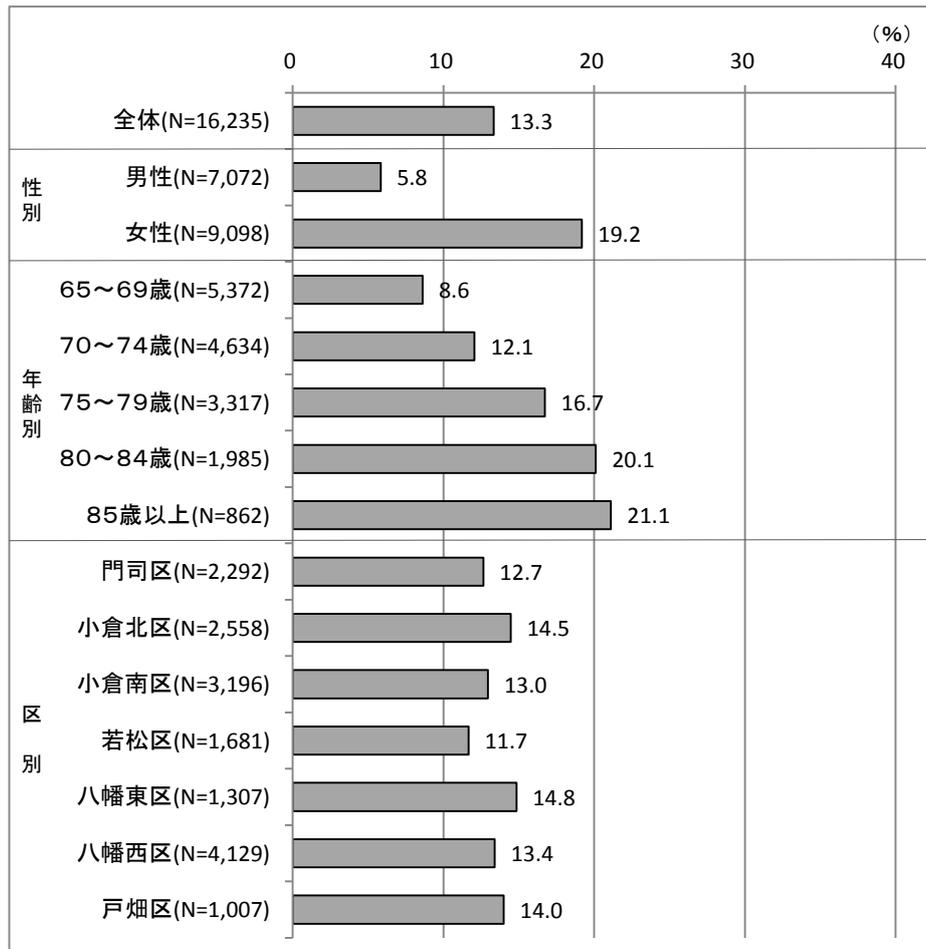
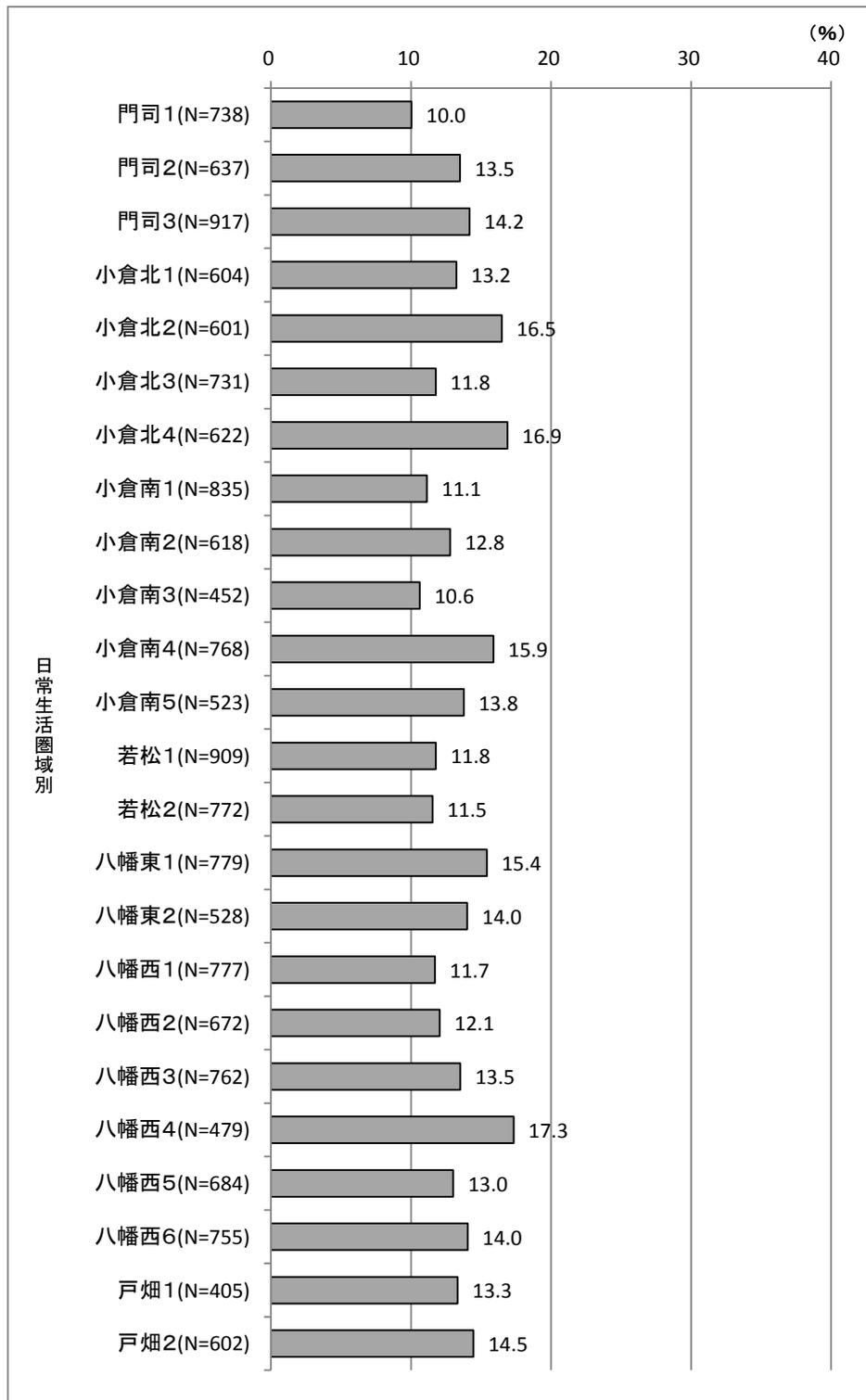


図 5-6-② 筋骨格の病気の有病率（日常生活圏域別）



(6) がん

がん（新生物）の有病率は、市全体で見ると4.0%となっている。男女別にみると、男性が4.8%、女性が3.3%となっており、男性の方が1.5ポイント高い。年齢別にみると、85歳以上が2.7%と最も低く、その他の年齢層では顕著な差はみられない。

図 5-7-① がんの有病率（全域）

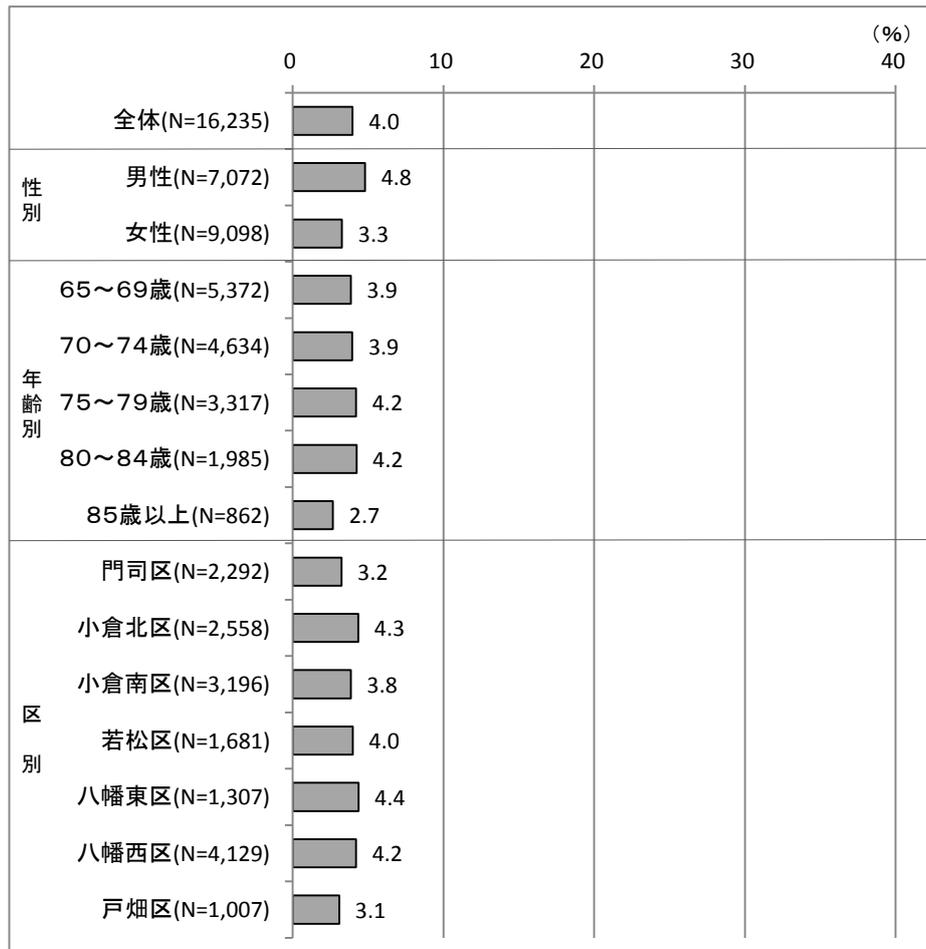
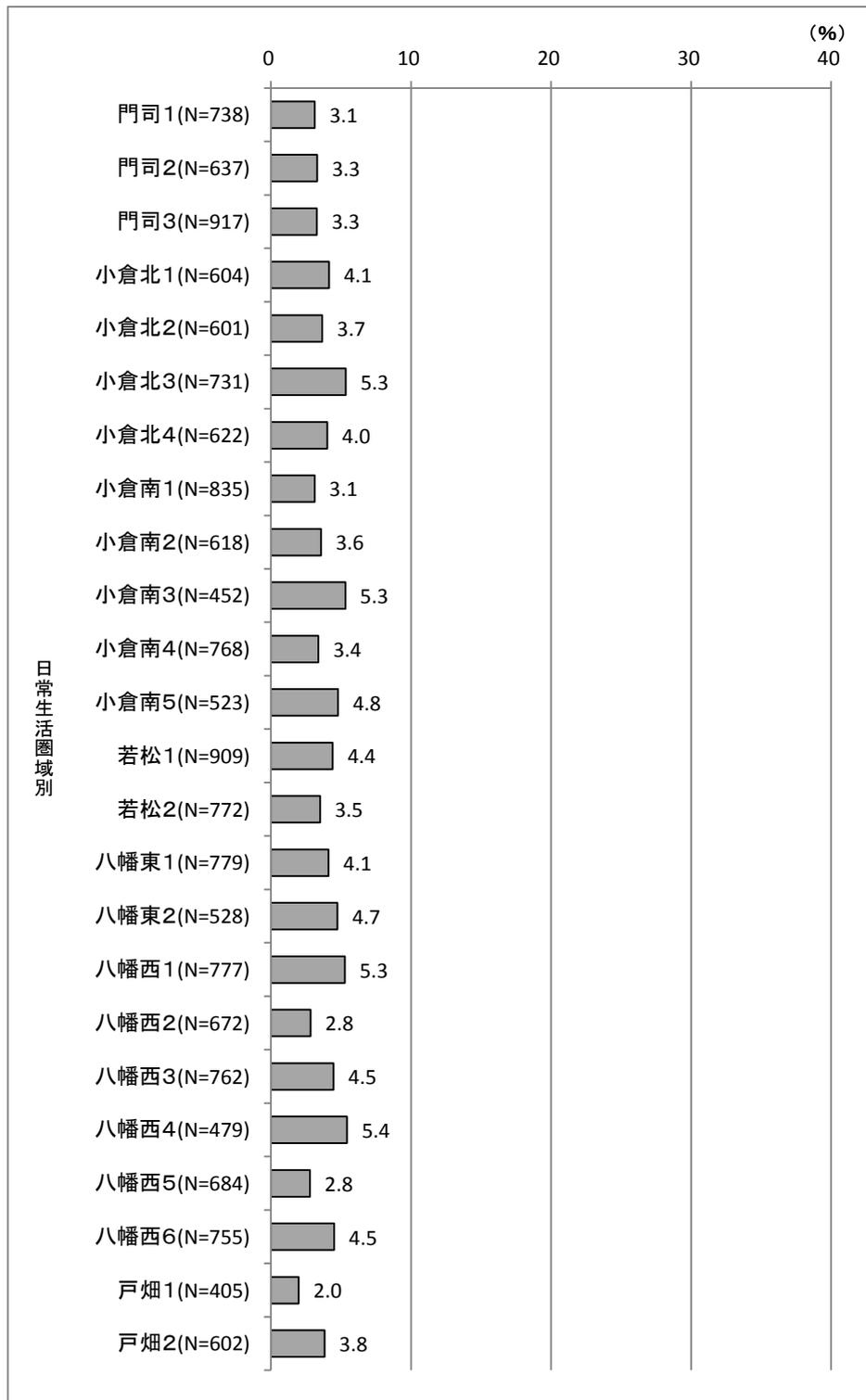


図 5-7-② がんの有病率（日常生活圏域別）



2. 主観的健康感

問 8-Q1. 普段、ご自分で健康だと思いますか

主観的健康感に関する回答結果は、市全体でみると「まあまあ健康」の割合が 66.2% で最も高く、次いで「あまり健康でない」14.0%、「とても健康」10.3%、「健康でない」4.7%の順となっており、「とても健康」と「まあまあ健康」の合計（健康群）は 76.5%となっている。

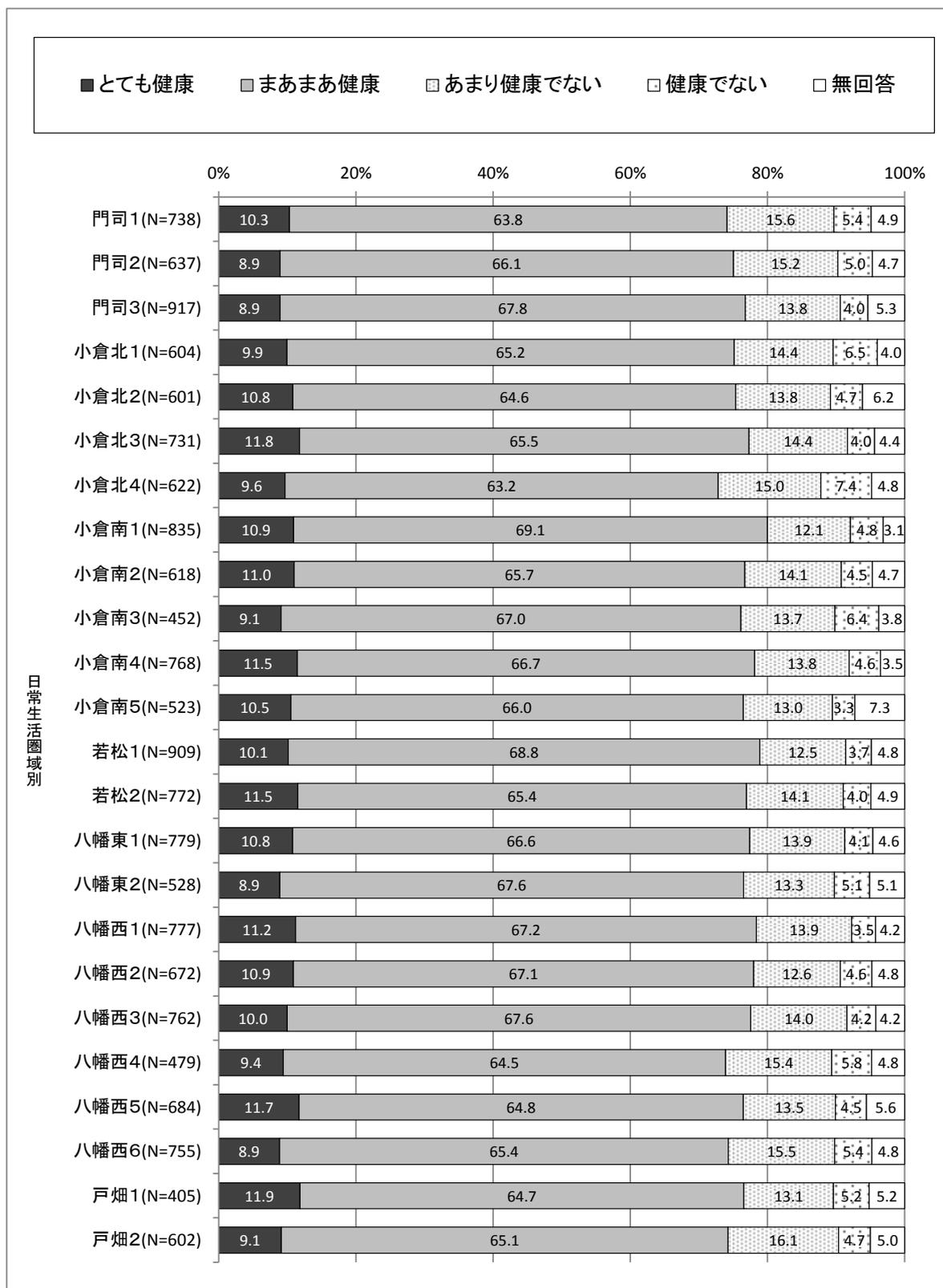
健康群の割合を男女別にみると、男性が 74.4%、女性が 78.2%となっており、女性の方が 3.8 ポイント高い。

年齢別にみると、健康群の割合は年齢層が上がるにしたがって低くなっている。

図 5-8-① 主観的健康感（全域）



図 5-8-② 主観的健康感（日常生活圏域別）



第6章 介護

1. 介護・介助の状況

問 1-Q2. あなたの、普段の生活における介護・介助の状況について、あてはまるのは次のどれですか

介護・介助の状況については、「介護・介助は必要ない」の割合が85.0%で最も高い。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は7.5%、「現在、何らかの介護を受けている（家族などの介護）」2.4%となっている。

「介護・介助は必要ない」の割合を男女別にみると、男性が86.7%、女性が83.8%となっており、男性の方が2.9ポイント高い。

年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって割合が低くなっている。

図 6-1-① 介護・介助の状況（全域）

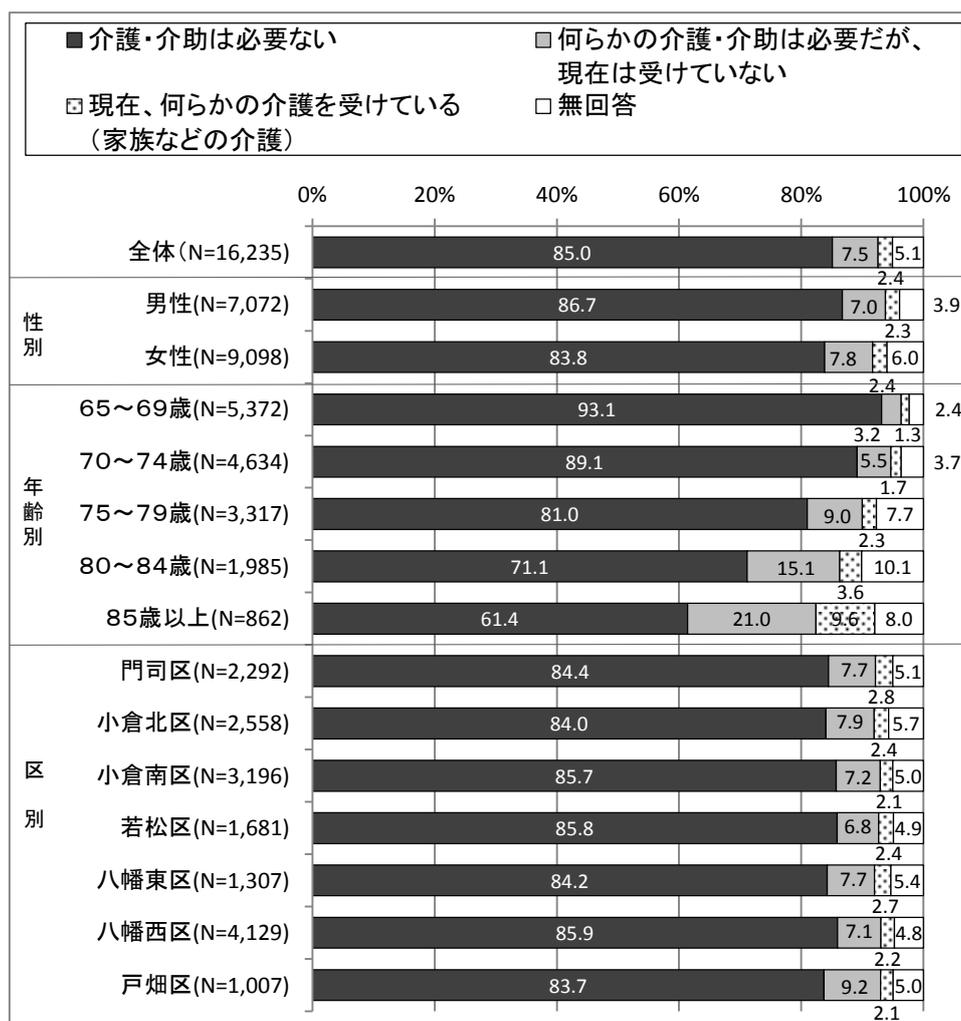
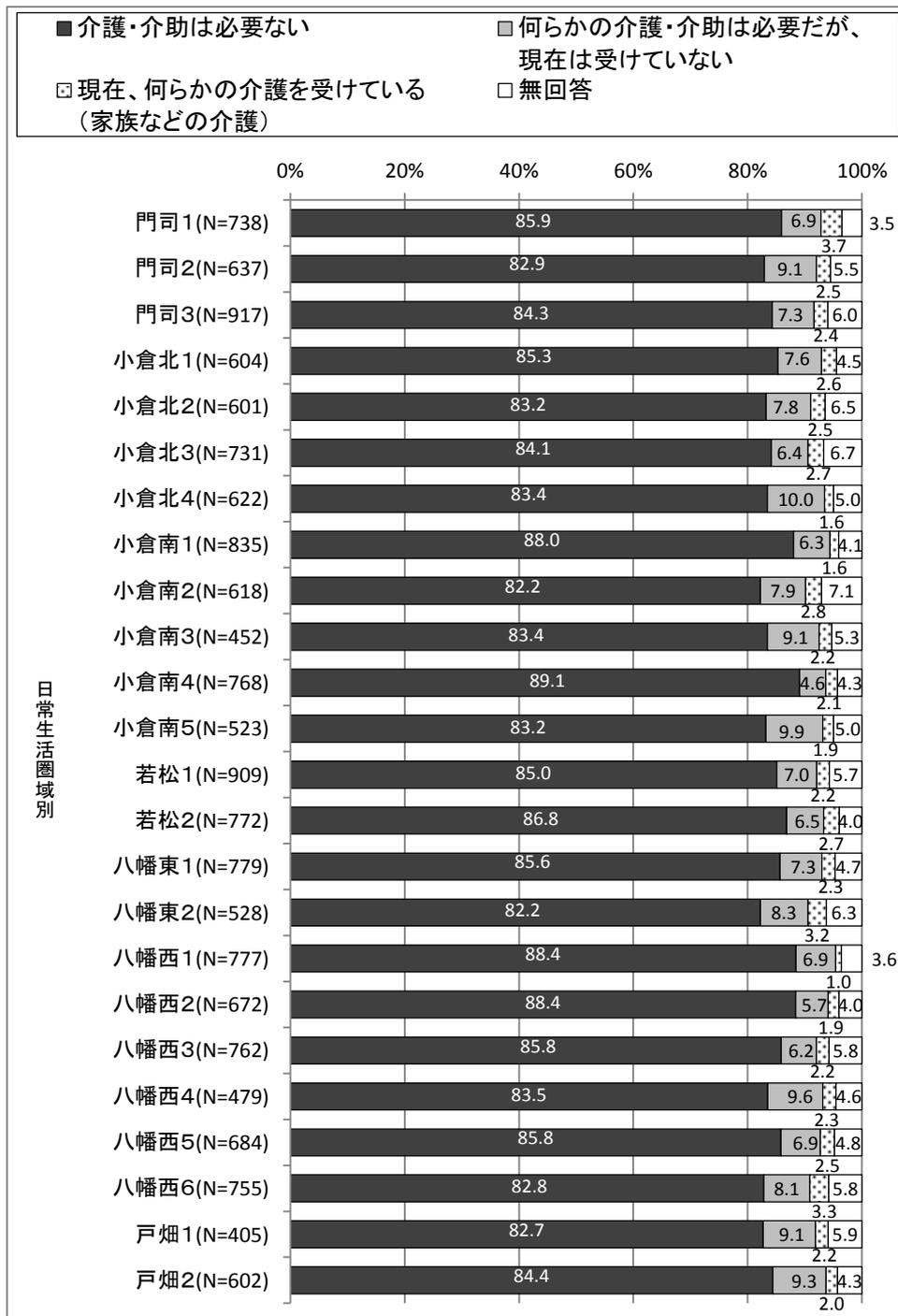


図 6-1-② 介護・介助の状況（日常生活圏域別）

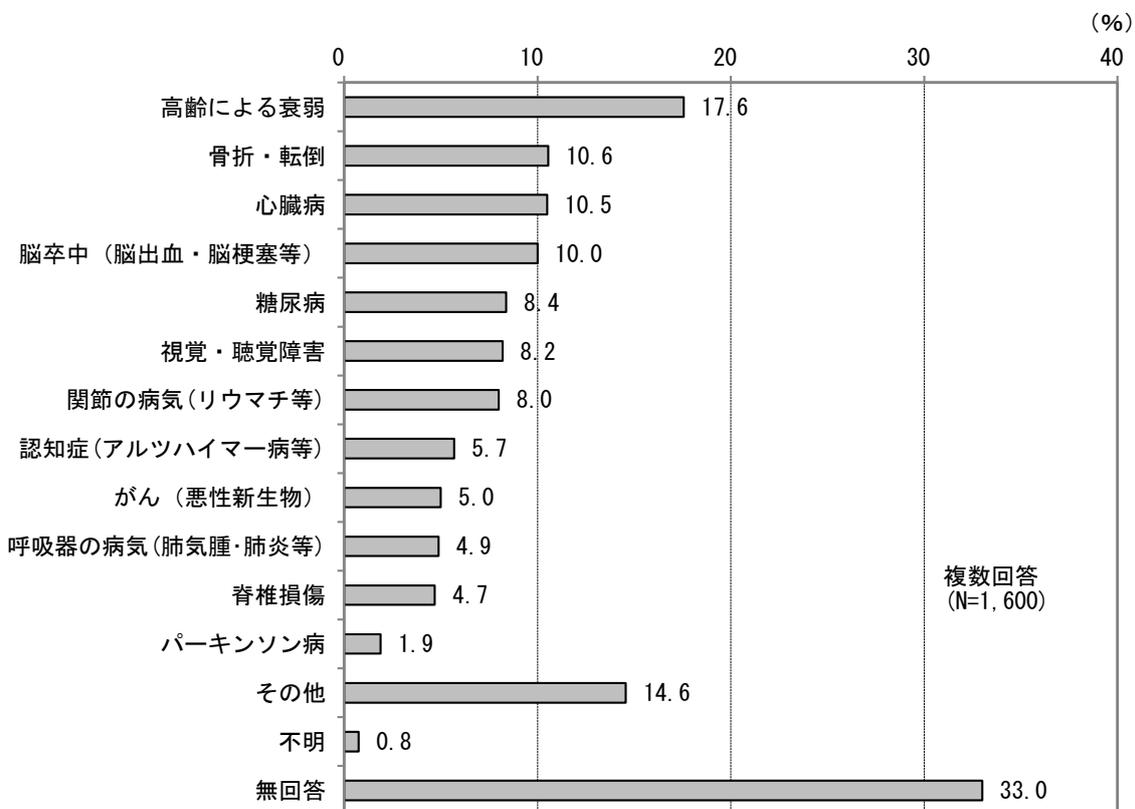


2. 介護・介助が必要となった主な原因

問 1-Q2-1. (介護・介助が必要な方のみ)
介護・介助が必要になった主な原因はなんですか

介護・介助が必要となった主な原因については、市全体でみると「高齢による衰弱」が17.6%で最も高く、次いで「骨折・転倒」10.6%、「心臓病」10.5%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」10.0%、「糖尿病」8.4%などとなっている。

図 6-2 介護・介助が必要となった原因



3. 介護者の状況

問 1-Q2-2. (介護・介助を受けている方のみ)
主にどなたの介護・介助を受けていますか

介護者については、市全体でみると「配偶者（夫・妻）」の割合が41.9%で最も高く、次いで、「娘」14.9%、「息子」4.7%「兄弟・姉妹」4.2%などとなっている。

男女別にみると、男性では「配偶者（夫・妻）」の割合が57.2%と過半を占めているのに対し、女性では「配偶者（夫・妻）」の割合が29.9%と男性に比べて低く、「娘」、「息子」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがって「配偶者（夫・妻）」の割合が低くなり、85歳以上では「娘」の割合が33.7%で最も高くなっている。

図 6-3 介護者（続柄）

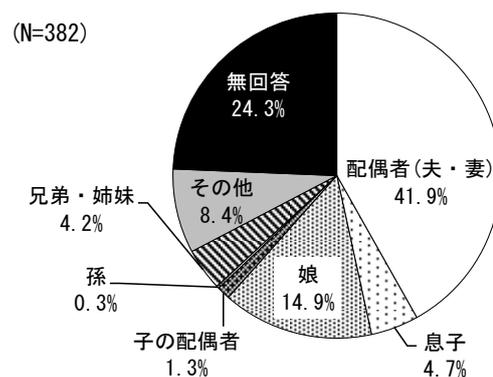


表 6-1 介護者（続柄）

| | | 配偶者 (夫・妻) | 息子 | 娘 | 子の 配偶者 | 孫 | 兄弟・ 姉妹 | その他 | 無回答 |
|-----------|--------------|--------------|------|------|-----------|-----|-----------|------|------|
| (単位: %) | | | | | | | | | |
| 全体(N=382) | | 41.9 | 4.7 | 14.9 | 1.3 | 0.3 | 4.2 | 8.4 | 24.3 |
| 性別 | 男性(N=166) | 57.2 | 0.6 | 7.2 | 0.6 | 0.0 | 2.4 | 11.4 | 20.5 |
| | 女性(N=214) | 29.9 | 7.9 | 21.0 | 1.9 | 0.5 | 5.6 | 6.1 | 27.1 |
| 年齢別 | 65～69歳(N=70) | 54.3 | 4.3 | 8.6 | 0.0 | 0.0 | 2.9 | 15.7 | 14.3 |
| | 70～74歳(N=79) | 54.4 | 0.0 | 8.9 | 0.0 | 0.0 | 6.3 | 7.6 | 22.8 |
| | 75～79歳(N=76) | 48.7 | 7.9 | 7.9 | 0.0 | 1.3 | 3.9 | 5.3 | 25.0 |
| | 80～84歳(N=72) | 31.9 | 5.6 | 13.9 | 2.8 | 0.0 | 5.6 | 6.9 | 33.3 |
| | 85歳以上(N=83) | 21.7 | 6.0 | 33.7 | 3.6 | 0.0 | 2.4 | 7.2 | 25.3 |
| 区別 | 門司区(N=65) | 35.4 | 6.2 | 13.8 | 1.5 | 0.0 | 6.2 | 12.3 | 24.6 |
| | 小倉北区(N=61) | 39.3 | 3.3 | 18.0 | 0.0 | 1.6 | 6.6 | 6.6 | 24.6 |
| | 小倉南区(N=66) | 50.0 | 4.5 | 10.6 | 0.0 | 0.0 | 3.0 | 4.5 | 27.3 |
| | 若松区(N=41) | 41.5 | 12.2 | 17.1 | 2.4 | 0.0 | 4.9 | 7.3 | 14.6 |
| | 八幡東区(N=35) | 37.1 | 5.7 | 11.4 | 2.9 | 0.0 | 2.9 | 5.7 | 34.3 |
| | 八幡西区(N=91) | 41.8 | 2.2 | 17.6 | 1.1 | 0.0 | 3.3 | 11.0 | 23.1 |
| | 戸畑区(N=21) | 52.4 | 0.0 | 14.3 | 4.8 | 0.0 | 0.0 | 9.5 | 19.0 |

問 1-Q2-3. (介護・介助を受けている方のみ)

主に介護・介助している方の年齢は次のどれですか

介護者の年齢については、市全体でみると「65歳未満」の割合が28.3%で最も高く、次いで、「65～74歳」25.4%、「75～84歳」25.1%、「85歳以上」6.8%の順となっている。

男女別にみると、男性では「65～74歳」と「75～84歳」の割合が最も高く、女性では「65歳未満」が最も高くなっている。

図 6-4 介護者（年齢）

